



尾花 (ススキ)

眩いばかりの紅葉が
 鮮やかに映えていた
 大仏殿は松の緑を背景に
 ゆったりと池畔に憩う
 溜木の紅葉に明るく彩られ
 屋根の四隅の反りの
 優しい美しさを見せて替える
 ススキの穂波
 逆光を透かす紅葉の照り
 朱と金の交響楽
 五色の微風
 葉の一枚一枚は紅かに震える
 地上の紅葉を映すかのように
 茜色に染まった一筋の雲が
 天空をゆったり流れてゆく

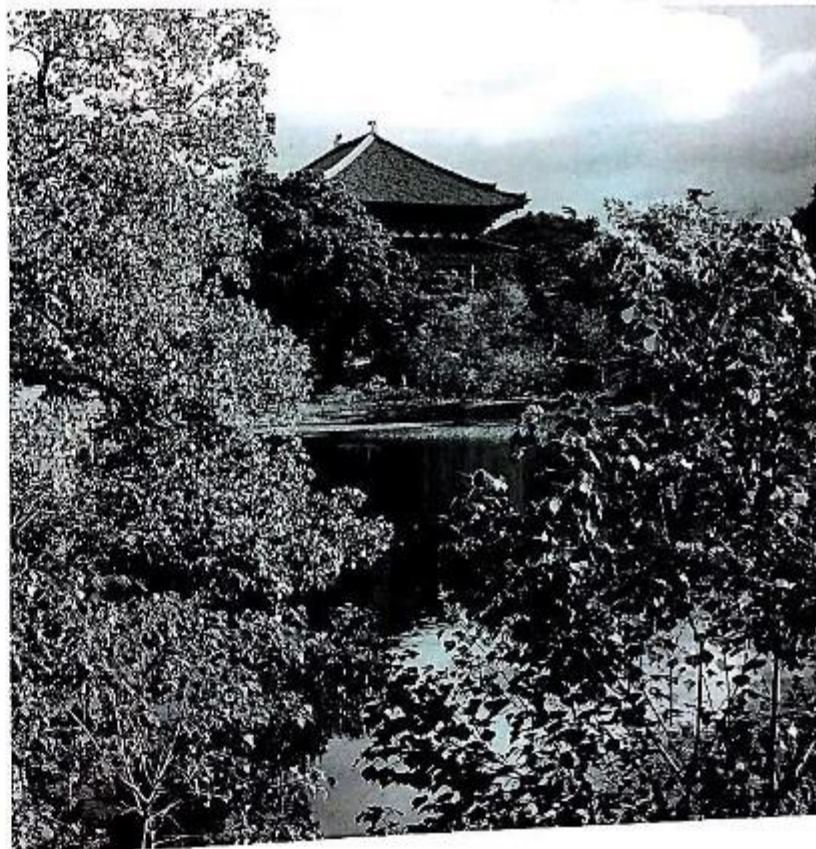


もみじ (宇治興聖寺)

Photo essay

紅葉

題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵一



東大寺秋色 (奈良)

季節の



朝冷え



溪流



錦秋

实景

晩秋

撮影 武市通治



霧林



深秋



山上ヶ岳より河川夕影 (大峰)

吉田 誠宏



鉢伏山 (小鉢)

三浦 弘幸



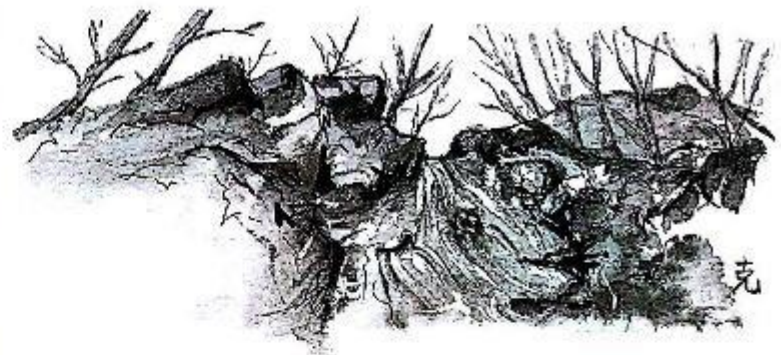
山上ヶ岳より雲海 (大峰)

吉田 誠宏

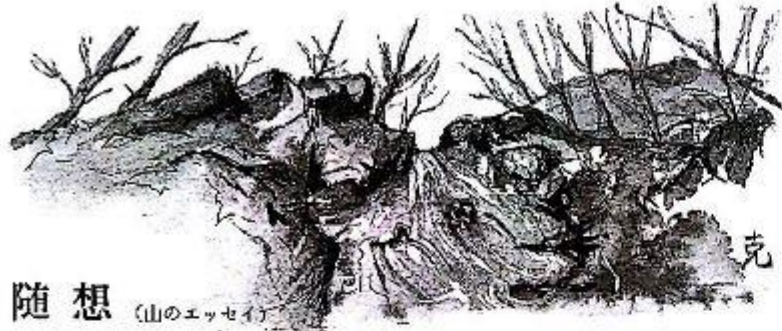


蓮菜山から西日に映える孫鶴湖 (比良)

三浦 弘幸



克



克

随想 (山のエッセイ)

平安京の
四神相応に新説

網本 逸雄

東山、北山、西山の三山に囲まれた山菜水明の京都盆地は昔から古洋の地といわれてきた。平安京は四神相応の地に建設されたといわれ、四神は北の山が玄武、東の鴨川が青龍、南の巨椋池が朱雀、西の山陰道が白虎だと伝えられてきた。都が四方の守護神に守られ、富貴、平安、長寿、子孫繁栄の吉福のある理想郷ということだ。

京都は昨年平安遷都十二百年を迎え、折からの風水ブームとあいまって、四神相応の地がテレビ、歴史・地理専門書などであらためて強調された。

しかし定説は誤りで、四神は川や池、大道でなく京都盆地の四方の山々を指した——という

日本の古代宮部社論を風水思想から分析した研究が注目されている。新説を唱えているのは台湾の風水師・故水嶋氏である。同氏とは一度お会いしたが、ベストセラーの著者著「風水先生」(宝島社文庫)にも登場する人物だ。

著氏の説によると、風水思想は、地勢や地気、陰陽五行、方位などを用いて、家、墓の配置を決める地相術である。三世記頃中国で易經科を宗として体系化され、別名「地相」「地術」などともいわれた。現在でも中国、台湾、東南アジア、沖縄で生き残っている。

日本には推古天皇時代に導入され、藤原京、平城京、平安京など古代宮都建設は風水思想で行われたらしい。

例えば、「風水」の記事は必いが「日本書紀」天武十三年二月二十八日条に「広額王・大伴安麻呂、及伴官・鏡言、

陰陽師・工師等を築内に遣わし、都に遷した地を相察しむられた。」
『日本書紀』延暦十二年正月十五日条には「藤原小島原宮、紀古佐美等、山背國愛宕郡宇太村に遣わして、遷都のため地相の吉凶を占った」などと、六國史には遷都の歴ごとに陰陽師が土葬遷定する記事がみられる。

中国では、風水の四神は天の星座であり、四つの象限中の星座は青龍、白虎、朱雀、玄武の四獣の形で表現され、地上ではそれに対応する地形をいう。

風水は具体的にいえるは大地のエネルギーである「気」が集まるパワースポット(穴)を築いた才術である。気の流れる道を、のたうつ龍に見立てて配脈といった。人体に見立てると、龍脈は経路で、穴(龍宮)はツギに相応する。龍穴とその前の広場(明堂)に溢れ出た気が散らないように、周囲をとり囲んで守っている山や丘陵を砂と

いう(砂には小龍穴もある)。

つまり風水という吉地とは、龍穴・明堂に背後からやってくる気が凝集するように、周囲の砂を守られ、雲を潤す水が潤わった「砂眼水地」の地を、別荘・四神相応の地とした。

龍穴・明堂の背後の龍脈をはらんだ山並みが玄武、左の砂を青龍、右砂が白虎、明堂を前から守る岡・山を朱雀といった。

平安京を例にとれば、黄氏によると龍穴は天皇の住む大内裏明堂は平安京市街地、東山が青龍、西山が白虎、北山が玄武、朱雀が田辺町の甘雨借山となる。

ところが京都ではなぜか四神を鴨川や山陰道、巨椋池などと三つ伝えられてきた。しかし、このような説はかつての中国の文献にまったくなく、同氏が調べたところ、この説の初出は『重訂四庫』だった。この書は鎌倉時代の成立といわれる。つ

まり、平安京遷都の時点にはこの説はなく、四神は四方の山を指していたはずである。

『重訂内伝』は安倍晴明侯となつてくるが、成立時期からみて偽作といわれる。ここには人工四神化がみられる。「四神相応の地」東有流水白虎、南有沢野朱雀、西有大道白虎、北有高山曰玄武、若無流水則無八本可植之、若無山則無六本可植之、とある。

したがって今日伝えられる平安京の四神相応説は、鎌倉時代以降に成立したものであることが明らかだ。

桓武天皇は平安京遷都の時、平兼頼のため東西南北の石蔵に経典を納めたことが伝えられている(『新編西宮院』など)。四石蔵は北石蔵が左京区岩倉、東石蔵・東山区大日山(兼光山)、西石蔵・右京区大原野石作町若倉、白石蔵・八幡市男山だとい

う。あるいは南石蔵は増所が不詳。

伝承のため、学術的には研究されていないが、風水思想からみればこれは実際に執られた当然の措置だと懸念される。

都心の龍穴とともに、周囲の砂には小龍穴がある。不用意にその地形を壊せると、パワーゾーンを壊し、地の気が散じてしまうから、守る必要がある。石蔵を建立して増城にし、人が容易に地形改造できないようにしたのである。桓武天皇は風水を熟知していたのではないだろうか、と推測される。

ただし石蔵は四方でなく、『新編西宮院』などには「若倉王蔵の三方にあり、東北、愛宕郡、西ノ御所」と「山崎名勝記」は伝える(今も伝わる古日本には記載がない)。

これまで石蔵は四神とオーバラップして、四方所だと信じられてきたようだ。しかし、風水



克



克

随想 (山のエッセイ)

説からいえば三方のほうが要だ。もともと風水の名称は「気は風に乗ずれば散じ、水に界されば止まる」(「葬経」)という根本原理からきている。

つまり、南石蔵(男山)は淀川を隔てた所にあり、西山から下ってきた龍脈は淀川の水に界され止まってしまい、男山に行かない。したがって四方所説は、南西東間説が生まれた後世の付会であろう。鬼門説の始まりも鎌倉時代以降である。

さて昨今、京都盆地の景観破壊が著しい。ハイカーに親しまれている三山も、今日からみれば迷信ともいえる風水思想で厳重に守られてきた山だったことをあらためて見直している。

〇さんと登った御所山、私にとっでは特別な山であった。

天狗の天下りに至ってガスは消失し、不帰ノ嶮、唐松岳への稜線が前方に長く続き、西には立山連峰が灰青色に白の斑模様

の山並みを連ねている。

山岳のもつ美しさは嘘えようもない。その美しさの中に身を委ねていると、日常のあれこれ宋的な価値観や渦巻く感情のつれなども晴き落こされ、大自然の懐で透明になっていく。自身を感じることができず。

三日目、唐松岳山荘から八方尾根を下った。

下ノ樺垣りからガスが切れ、八方の花たちに迎えられた。初めて出会う花もあり、その一つ一つに心をときめかせ、優れた絵画を見たような、そんな高揚した気分になった。

「山を歩いていて良かった……心からしみじみと思う。昨年、〇さんから、いわゆる

山歩きに想う

鷺見 守康

「いつも一人で歩いているのですか」。

いくつかの山頂で、こう尋ねられたことがある。

今年の3月、私の都合で三年余続いた小さな山歩きの会を解散する前にも、時々一人で歩いていた。

ただ、私の場合は、好んでではなく、日程調整や様々な事情で、やむを得ず単独行となるのが常であった。仕事の都合がつけば、ほとんど毎週のように山へ出かけるのだが、こんなやり方に同調できる人が、私の周囲にはなかなか存在しないのかもしれない。

40歳から山歩きを始め、いつの間にか世間から冷やかに眺められるほど常軌を逸した状態と

登校拒否の子供たちが西穂高岳や水台駒ヶ岳に登り山頂に立った時、感懐のあまり涙を流し合ったという話を聞いた。

山の自然には、人の心の在りようを変える何かがあるような気がする。歴史の深みの中に生きる大樹を見上げたり、草花の健康な姿にふれたり、そしてとりわけ山頂からの雄大な自然の景観に接したりすれば、人は世界観や人生観さえ変わるのではないかと思う。

人生につまづいた子供たちが山の頂に立ち戻り、大いなる山岳の雄大な美しさに感動し、出来合の価値観から解放されて自分自身を取り戻すことができると思えば、それこそ山歩きの真髄なのだと思う。

精神保健分野で働く知人は、精神障害者の人たちとともに山を歩いている。

世間の目見や無知に惑え切れず、ともすれば病気の世界に迷

なってしまうが、なぜこれほどまでに山に魅せられてしまったのか。今夏、2泊3日、白馬岳から唐松岳を歩いて、少しずつ分りかけてきたような気がする。

東北地方に前線が停滞し、その影響を受けて、下界は晴れていても、山はガスに巻かれることが多かった。

二日目の朝、唐松岳への縦走路は、強風にもかかわらず濃いガスに包まれていた。足元にほんやりとお花畑が見えても、心は曇りだままだ。

天狗の頭を過ぎた頃、空がすかに光を帯び、ガスが大きく動く気配を感じた。何かに呼ばれたような気がして、ふっと西の方向に視線を転じると、ガスを掻き分けて三権鐘の山岳が忽然と現れた。

「剣ヶ峰」
まさに一瞬の出来事であった。一昨年、初めて登頂し、今夏も

げ込んでしまう彼らと一緒に山へ登り、自らの着実な一歩一歩による成就感を共有したいと思う。

山歩きとは、単なるスポーツを超えるものなのだろう。最近、こんな山歩きの楽しさを一人でも多くの人に伝えたい、と考えるようになった。



ヒイラギ (セイコウヒイラギ)

危険の少ない冬の南アルプス

三伏峠周辺の山々

松田敏男

南アルプス

三伏山より塩見岳(右)と間ノ岳・西農鳥岳



冬山に慣れた人なら、比較的天候の安定している年末の南アルプスは、たいした緊張もなく3000m峰に立てるだろうが、まさか不安が前に出てしまう私にとっては、主観に立てることだけでも満足できる。北沢峠なら何度か冬に登ったことはあるが、その他の主観線となると、つい二の足を踏んでしまう。その北沢峠でさえも、一度厳しい状況に遭ったことがある。峠近くが上がってきたとたん、猛吹雪に見舞われた。北沢長嶺小屋のテント場に登山者がいたので心強かったが、そのテント場から仙水小屋まで1時間50分もかかるラッセルだった。あんな平らな沢の中の膝上のラッセルであるにもかかわらず、ピッケルでしっか

り確保して進まないし飛ばされそうになるぐらいの地吹雪だった。そんな経験もあって、三伏峠なら行けると思いながらも数回見送っていたが、機が熟したと思えるようになってきた。年末もおしつまれば三伏峠小屋には管理人が入り、大勢の登山者が登っていく安心なルートなのだが、静かな時に行きたいという、安全とは矛盾した志向もあるのが、ひとつのネックともなっていた。

しかし三伏峠へは夏に数度、そしてゴールデンウィークには山の会から塩見岳や鳥帽子岳にも登っているの、随分よく知っているつもりでいる。それに避難小屋にひとりで泊まることも夏に経験した。そのよ

うな判断材料が揃ったところで、行くことに決めた。入山してしまえば案ずるより産むが長いというもので、その上冬候が良かったので、山行中ずっと快進だった。

まず高速バスで中央道の松川まで行った。松川からは何も公共の交通手段がない。のんびりとした田舎のバス停に、ポツンと降りるのみだ。帰省客が、家族の迎えを受け付けて賑やかに降りる中で、ひとり重いザック

クの私だけは全く別世界の人である。ヨタヨタとインスターチェンジの車道を降りて、ガソリンスタンド前の公衆電話ボックスに入る。タクシーのみが頼りである。行く手の山は霞んでいて白い山は見えない。伊那

盆地は幅広から、高くつくだらうなあと、行く先とフトコロ事情の両方から不安な気持ちでタクシーを待った。

塩川小屋まで入ってはいなかったが、樺沢小屋の手前で下車するしかなかった。橋の付け替え工事をしていたためである。1時間35分も車道を歩いた。少しは安く済んだ訳だが、民家の橋を歩いて行くのは、のんびりと、いうより、安楽な生活の場を背にして、何を好んでひとり誰もない山へ入っていくのだろうか、といった重苦しい気分を味わうはめとなる。あっさり入ってしまえば、そんな感情もなく、前進あるのみという高揚感に支配されるのだが……。

樺沢小屋前と、大きくカーブしている日陰の部分はチカチカに凍ってついでおり、周囲のおだやかな風景とは調和しないような、厳しい山国の冬があった。

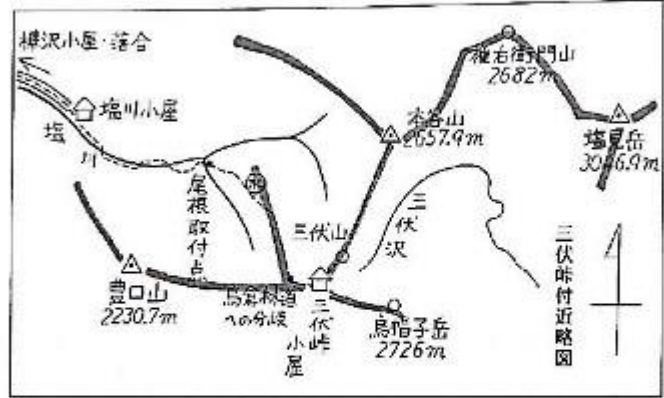
塩川小屋の冬期開放の部屋は美しかった。大きな窓が谷側の全面にとってあり、黒口山方面の尖峰が見上げる角度で威圧的だった。小屋の前からは、中央アルプスの雪の峰々が望まれた。大きく右に切れ落ちていくのが、おそらく空木岳だろう。思いがけない光景に感動がこみ上げる。かなり暗くなってきた頃に、大学生の喧

体が下山してきた。一段下の小屋に泊まるとうで、私のいる部屋はひとりのまま、ゆっくりでいた。

窓の左に月が上がった。ほぼ新月である。暗々と部屋を照らし、シルエットとなった黒い尖峰が、いちだんと山深さの極さを増す。清月は夜中ずっと左から右へ移動しながら、部屋を明るく照らした。大自然の森厳な気配は夜にあると、一層痛く感じる次第であった。小さな気分でもいいだった。広いきれいな部屋をひとり占領して、こんなに優雅な、こんなに贅沢な夜は、そう経験することはないだろう。

あざやかな印象の夜のわりには、あまり天気が良いとはいえない朝だった。誰にも会わない、よく知った道の河原歩きが始まる。枝沢の氷縁を見て、身がキャンと引き締まる。尾根の取りつきあたりから雪が現れ、単調な樹林帯の登りとなった。

三分の一ほど登った水場あたりからは全面雪となる。空は厚い雲におおわれて、哀しきこの上ない冬景色だ。動物にも全く出会えないまま、北方の風雪が開ける尾根の上部まで来た。夏には上の方まで車が入れるようになった鳥倉林道からの道に出合っが、全くトレースがなかった。やはり冬は



クラシックルートにかざる。本谷山方面までは見えるのだが、愛慕の想い表情をして見ている。

三伏峠小屋に着いた。ここまでは樹林帯のはっきりした尾根道なので大丈夫だが、いったん断崖に見舞われると、樹林帯といえどもトレースはすぐに消えてしまうので、降りることを考えると緊張は解けない。

三伏峠小屋の冬期間放物屋は暗くてガランとしていた。そこを居場所にしてようやくと迷うほどの止まりだった。しかしそんなゆったりとした気分はすぐに消えた。10人ばかりの団体が入ってきたからだ。東京の有名な大学の山岳部のようだった。北岳の方にいる同じ部の仲間と無縁で交際し、インナーブーツでドカドカと小屋の中を闊歩し、私の存在など全く目に入らないような騒々しさで、私の銀マツを踏みつけてゆく者すらいた。

次の朝はその団体が出て行くまで、じつと我慢で居た。静かになってから起き出して朝食をこも。少し遅かったので、快晴だと分かる心がはやった。

今日の予定は本谷山往復である。岩見小屋までめざしたいのだが、森林限界を超えてしまつて、一夜のうちに天候が急変すれ

ば大変な事態となるから、慎重の上にも慎重を期してしまふ。

三伏山に登つて、もう気分は全開になった。岩見岳が、北岳が、間ノ岳が、朝日を受けてまぶしく光っている。振り返れば悪社岳に荒川岳が逆光効果で青白く、中央アルプスは雲の上に白い峰々をきざみつけ、全犬良し。気象は壮大この上なした。羽毛服を着て岩見岳を横く、白樺三山を横く。絵などそんな人為的なものは、ちっぽけな紙切れに過ぎない。つまらないことはすぐに飽きて、三伏峠の雪原に大の字になって、中空の青空を仰いだ。

本谷山まで急ぐこともなく、樹木に付着した雪の美しさに見とれたり、崖壁が徐々にするどくなつていく姿を見上げたりしながら進む。この付近は立ち枯れの木が多くて、その巧まざる造形の間から白銀の山が青空をバックに輝いている姿は神々しいばかりだ。

本谷山(2660m)の山頂は樹林帯の中に頂上部分だけ木が切り払われたような所なので、三伏山のような高度感はない。今回の山行の最高点である。北斜面に分け入って、白峰三山がよく見える所に腰をおろす。北岳の峻峰と重畳感いっばいの間ノ

る音が、静けさをより強調する。

同じ道を通るのだが、悪沢岳や荒川岳を眺めての豪華な道だ。朝の逆光の姿から随分時間が経つたので、輝く雪山となり、行き道のすがら、降りるピュポイントと考えていた所に立ち寄り、またまたしっかりと腰をおろす。枝ぶりのよいブナの大木を頭縁に仕立てて、悪沢岳の左へのびる西小石岳の峻峰が気持よい。三の壺が光明に浮かびあがる光景なので一酒笑しかった。

晴天だったから期待していた三伏峠からの夕景、よく写真でも紹介される岩見岳の紅に染まる夕焼けの姿、刻々と紅雲を増して、そして沈んでいく光景に何層もシャッターを切った。

二泊目の三伏峠小屋は夕方になってひとりの男性が登ってきたのみで、静かだった。しかしベニヤ板一枚で仕切られた隣りの部屋で、昨夜の大学生以上にネズミの走りまわる音、けんかする鳴き声や、食器類を陥落とす音などが異常なくらい激しく続いた。

翌日は鳥打て岳に登る予定だったが、あまり天候が良くなかったため途中で引き返し、下山した。登りと同じ塩川小屋の大きな部屋を独り占め、やっぱり明るい月が左



本谷山より塩見岳を見上げる

OUTDOOR・LIFE・SHOP
ADD SPORTS

- 靴** シリオ スカルバ アクシースクイン
- 帽子** ジャックウルフスキン ドイター ゼロポイント
- ウェア** ノースフェイス モンベル etc.....

☎0792-37-8098/営業時間10:30~19:30/定休日 毎週火曜日
相アドスポーツ 〒670 新都市東辻井 2-6-37 Fax0792-97-5392

から出た。今夜は全くひとり、月夜に河原まで水を汲みに降りる余裕もできた。しみじみと一人旅の余韻に浸ることもできた。

最終日は集合までの長い道のりを歩けしかなかった。入山するたくさんの人たちとすれ違ひながら。

(平成6年12月25日・29日歩)

△コースタイム▽

- 塩川小屋手前平止(1時間35分) 塩川小屋
- (6時間) 三伏峠小屋(5時間30分) 本谷山往復(2時間) 塩川小屋往復(4時間)
- 塩川小屋(2時間) 歩壇
- △地形図▽昭文社「山岳見・赤石・聖岳」



弥山から鼻高山

阪本健治

山陰

狭い地域に五つの一等三角点峰

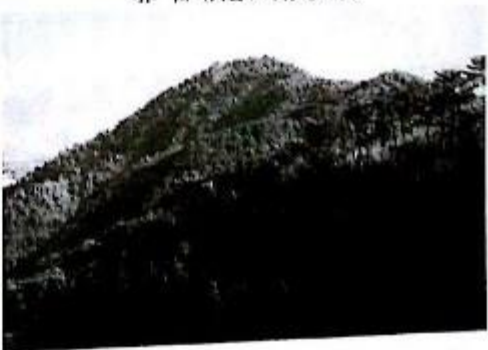
「出雲風土記」は、きれいな大きな湖水が、やわらかな明るさを帯びて眠っている。昔い火山修験の銀が銀山にたつた。昔い「出雲風土記」と、松江市を世界に紹介した小泉八雲が書いていた島根半島の背後をなす5000年前後の山々は、同じく修験の山々である。六道湖の北、島根県の県都松江市の北にあることから北山山と呼ばれ、中国自然歩道が通り、六道湖北山県立公園の指定地域内でもある。中でも出雲市と平田市との境界の鼻高山、八束郡と松江市との境の朝日山、美保園の高尾山は一等三角点の山であり、隠岐の一等三角点の大瀬山、アカハゲ山の二つを含めると、この狭い地

域に五つもの一等三角点があり、マニアにとっては感嘆の存在ではないだろうか。

出雲大社の北方にある山塊、日御碕から弥山に至る地域を「出雲風土記」には出雲の舞鶴山と呼び、「古事記」では宇迦の山と呼んでいる。出雲大社の背後の弥山から東に尾根を横走して鼻高山、さらに「出雲風土記」によると大志津が置かれ、鎌火守の館があったという麻伏山から園宮町に下ろすと、正月の出雲地方を訪れた。

初詣を終えてから日御碕など観光する家族と別れ、ひとり弥山の登山口日本郷集落へ向かう。出雲大社青銅鳥居から約700メートル東へ、5分程度は水路になっている沢沿いの寺院の横から登るようになっていく。

弥山 (天台ヶ峰付近より)



その水路を越えてわずかで左に緩く登り、大本山修験寺木寺の神光寺の別院・子育観音の子安寺の境内に入る。堂宇の裏に回って見ると、御神塚奉納奇連の石柱に朽ちかけた弥山登山口の道標が立てかけてあった。

弥山か御山か
たっぷり水を吸った赤土の、か細い道の

急登から始まる。滑りやすいジグザグ道を高度を上げて行く。地元の農耕よりやや右の、神社跡北西の4300メートルから派生する尾根に取りついていくようだ。途中でハイカー二人と出会う。軟伏山まで8時間という。およそ6時間とふんで来たのだが……。支後にのると時折、松の木の間越しに大社町の町並み、日本海、六道湖と眺めが広がる。途中、ボリの増産性があり、右に薄い踏み跡が合する。

松を主体とした樹林帯の道から岩混じりの道になると古びた鳥居が現れ、コンクリートブロック造りの出雲御山神社に着いた。地蔵には弥山とあるが神社には彌山と書かれている。どちらが正しいのだろうか。神社から小さな変換を二つ越えると弥山495・8の一等三角点のピークである。

ここから北東に進路を変え、再び松が主体の樹林帯を急下降。「歩く人が少ないから右に岩が付いているので気をつけて」と先ほどのパーティーから注意を受けていたが、このことであつたのか、本当によく滑る。下りにはこの先ずっと滑まされる。四つほどピークを越えたと天台ヶ峰らしき山が望まれる。途中の枯れ木のピークには、頭に「重」の字マークを付けた三

角形のコンクリート柱があった。落ち葉が積もり、薄い踏み跡を更に薄くしているのが神柱を導く。ここを下るとと遊林地の看板があった。これまで一つ一つピークを忠実に登り下りしていたが、初めての登き道が現れる。

動物的な動きをフル回転

直進する天台ヶ峰へと思われる薄い踏み跡はすぐ急烈な坂になり、前上あたりで踏み跡も消えた。仕方なく巻き道まで戻って緩く下って行く。今日初めての快適な道だ。下ったところには山びき遊林地の看板があり、心地好さそうな遊林道は直進するが、左直角に薄い踏み跡があった。躊躇したがもちろん薄い踏み跡を登る。踏み跡は再び尾根にのる。

岩のある眺めのよいピークで昼食。ピークに立つには急ぎといつてよいほど急登があり、次に滑りやすい下りがある。これまで道標はまったくなかったが、登山口以外で初めて道標が現れる。道標から5分ほどで遊林と居川に乗り越す岩合峠に出る。ここにも現在地を示す標識があった。

最近では過保護と思われるくらい、べたべたと道標のある山が多くなり、毒された気





鼻高山山頂

分になることもある。そんな過保護に慣らされてしまつて、山名表示・地点表示の無い山に来るとうれしさの反面、久々に地図と磁石と動物的な勘をフル回転させねばならず、低い山にしては結構神経をすり減らし、このほかロス時間が多く取れた。

日本海と天沼湖、ふりわけの眺め
峠からワケ丸山の頂後部や下、左側を

たような旅伏山が目前に望まれた。大きな倒木を越えてしばらくすると、西林木町から駒淵寺への参拝道が葉つ越す峠に出る。丁自石の十一丁石仏、ホンシユウジカ生息地を示す説明板などがあつた。

ここは旅伏山を越えてきた自然歩道が駒淵寺に下るところ。駒淵寺から先ほど感えてきた涌根峠に登り直し出雲平野に下つていく。

多夫志峰と旅伏城跡は断念、駒淵寺へ
目的は鼻高山と多夫志峰と旅伏城跡だが、時間的にやや難と判断、残念ながら割愛して駒淵寺に下ることにする。



石仏
石の「ジョージ」
枝と犬の名前を呼んで親子連れが駆け下りてきた。まったく人騒がせなところである。
沢任いになり八

歩いて明るい数部に出る。北には日本海の十六島湾、南は出雲平野、穴は堀溝が見える。眼下には、水邊では世界一の高さ大きな木を持つという真つ白い屋根の出雲ドームが鮮やかだ。唐川分岐から再び荒れた下りになる。鳥根保護区の真つ赤な看板があり二股になる。道標はないが左の薄い板っぽい尾根道に入る。しばらくして涌根峠に飛び出した。二股の右に下る道はやや遠回りして峠に登つてくるようだ。

駒淵寺から峠越えの中国自然歩道には、安道湖北山県立自然公園という大きな標識、「駒淵寺へ3・3km 旅伏神社5・5km」の道標やテーブル・ベンチ、大小二体のお地蔵さん、そのうち二体からは天文五年庚申と銘が読みとれた。

旅伏山まで8時間といわれているので、小憩で出発。峠を突っ切つて再び薄い踏み跡の落ち巻道を緩登して行く。高さ40mで14m角ほどの「廿」と彫られた四角い石標から左へ、尾根を直角に曲がってピークに立つ。行く手にひと際高く鼻高山が望まれる。寝転びたくなるような、広々とした落ち巻の積もった鞍部を二つほど過ぎると、矢尾峠であつた。

百鬼お七の碑を見ると、ほどなく備後道路に飛び出した。

左手わずかで推古天皇二年(250)、智春上人の創建という、山陰屈指の天台宗の古刹である涌浪山駒淵寺。仁王門をくぐつて大慈輪を渡り、百數十段の石段を登ると毛刷禪元が再建した根本中堂。左に黒邪の神、摩訶羅神、本坊には慈覚大師の作と伝えられる秘仏、鳥根山下最古の白鳳仏・千手観世音と薬師如来を祭る。今は三坊しかないが盛時は四十二の僧坊を数え、大きな勢力を持っていた。廢殿に流された後醍醐天皇が元弘二年(1332)、その勢力に頼った空海の願文をくたした古文書、武蔵坊弁慶が一日で大山まで運んだという。弁慶の釣鐘、といわれる寿永三年(1183)銘の銅鐘が、寺宝としてご本尊の白鳳仏と共に同の需要文化財になっている。

境内にはカエナが多く、毎年10月から11月にかけて「紅葉まつり」が開かれるそうだ。また遊歩道もあって、弁慶が修行した瞑想に効くという浮浪ノ海がある。

徒歩での参拝は私ひとり、あとはすべてマイカー族。バス停は先ほどの自然歩道入り口を下ったところだが、一日に午前と午後の二便だけで問題外。さらに30分ほど下

鳥根半島の最高峰にも山名表示なし
日下町の天王山キャンプ場分岐を過ぎるとザレた急な登りとなる。再び天上山キャンプ場道に分れる。まもなく5386・3241等三角点標石の立つ鼻高山の頂上である。鼻高山山地の主峰である鳥根半島の最高峰でもある。頂上には落書きがいっぱいの鳥根保護区の看板以外、鼻高山を示すものは1等三角点標石だけである。

元日の出雲地方は、雪からミソレ、そして雨になったそうだが、まよりは快晴。鼻高山の登りや出雲平野に雲が広がったが、正月とは思えない暖かい陽気に雲も融けた。午後になって眺めは今一つ鮮明ではなくなつたが、お天気には恵まれ大満足。

北に日本海、十六島湾、北東に摺木山の電波施設が光る。南は出雲平野、東西に三瓶山が海ぼんやり見え、西に歩いてきた弥山からの屋根、南東には大きな天沼湖、そのかなたに雪をいたたく大山と、展望を狭り占めである。

眺めをカメラに納め旅伏山へ向かう。これまで松、アカ松、ナラなどの自然林が主な植生であつたが、イヌツゲが多くなる。再び苦むす急で滑りやすい下りとなる。三、四つピークを越えると、横に大きく根を張

ると遅くまで便があるというので、小学校前まで下つた。これなら予定通り旅伏山へ向かって大差なかつたかと、悔やまれても後のまつりだつた。

運悪くバスは次の便まで1時間近くあり、バス停前の酒屋さんとタクシーを呼んでもらい一畑電鉄の平田市駅に出た。

翌日は今にも降り出しそうな曇天。枕木山から大平山と松江北山を緩走し、古浦から一等三角点峰の朝日山に登る予定だったが、松江藩時代の祈願所であつた華嚴寺まで行ったところで、雨からミソレになり、残念ながら山はあきらめ、宿題を残して下山。小泉八雲旧宅など歴史の町を歩くことに切り替えた。(平成7年1月21日3日歩)

▲コースタイム▼

- 出雲大社(10分) 弥山登山口(1時間) 御山神社(10分) 495・822三角点(30分) 枯れ木のピーク(40分) 二つ目の造林看板(40分) 岩谷峠(15分) 鳥根保護区看板(10分) 三瓶峠(35分) 矢尾峠(25分) 鼻高山(40分) 旅伏山分岐の峠(30分) 駒淵寺(30分) 駒淵小学校前(タクシー20分) 平田市駅

▲地形図▼5万：大社・今市 20万：松江

月山

1980年

浅野孝一

月山は出羽三山の盟主である。出羽三山とは月山、羽黒山(4386m)と湯殿山(4504m)の三山のことである。

月山を山麓から見ると、雄大でゆったりとした山容を見せているが、登山道は思いのほか急坂が続いている。まず『日本山嶽志』から月山のアプローチをさぐってみる。「月山(別稱磐牛山) 井首山 羽前國東田川郡ノ東方ニアリ、手向村ヨリ九里ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千四百六十六尺。」山頂に月夜見命を祭る月山神社がある。「日本名勝地誌」は「山は群中第一の峻嶺にして、容臥牛に似たり、……山嶺は四時雪を戴き、……絶頂に登れば一物の限界を遮るものなく、馳切半里、風色頗る快愴な

り」と記している。推古天皇元年(593)に、三十二代崇峻天皇の皇子、蜂子皇子が羽黒山を閉山、ついでに月山と湯殿山を開いたとの伝承が残っている。羽黒派古修験道の道場として講中による登拝者が多い。

7月中旬、私達は鶴岡駅前から羽黒山登山口の手向までタクシーに乗った。随神門をくぐり被川へ向かって、2446段ある表参道の石段を下る。被川を渡ると左手に羽黒山の五重塔が杉林の間に見える。参道は一ノ坂にかかる。左右は杉並木、油こぼしと別称される二ノ坂を登りきると、左手に茶屋があり休憩ができる。茶屋の前から庄内平野が見えてくる。さらに緩くなった

月山山頂と行者達 (撮影 渡辺孝任)



三ノ坂を登ってゆくと右手に芭蕉三日月碑があり、水場があって右へ南谷の道が分かる。

出羽三山神社は「神仏習合」の姿を今に伝えている神社で、社殿の前には鏡池があった。その傍りの広場で鹿おどりが舞われていた。バス停に向かう左手に芭蕉句碑と芭蕉の彫像、蜂子皇子の墓がある。羽黒山バス停から11時30分発のバスに乗



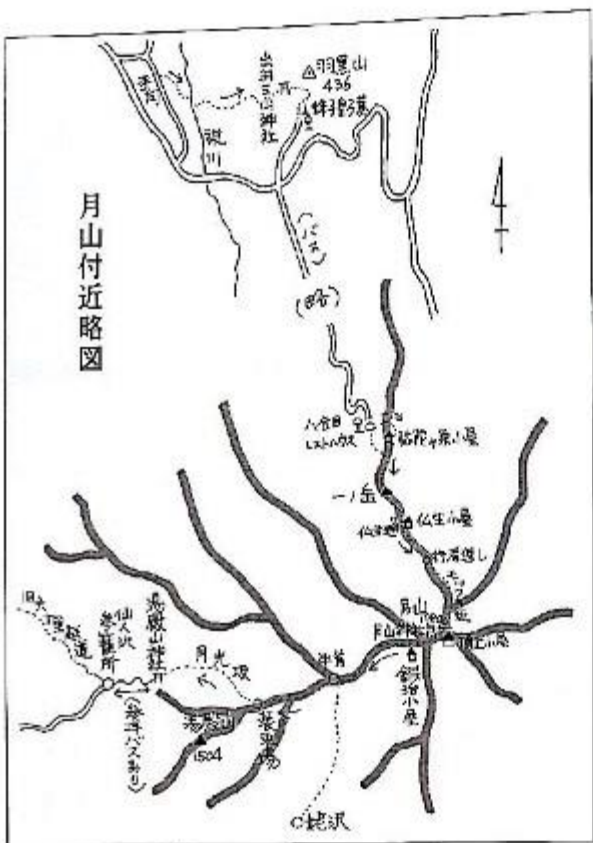
出羽三山神社

り、八合目のレストハウスに着いた。風が強く霧がたちこめていた。湿地帯の木道を歩いて行くと、弥陀ヶ原小屋に着く。付近には小池が多い。ここからの登山道は岩が多くゴロゴロして歩きにくい。白装束の人、登山者達と一緒に歩いて仏生池の傍らにある仏生小屋に

着いた。この頃から雲が切れて、北方に鳥海山を見ることができた。今夜の泊まりは私達を含めて10名であった。静かな夜であったが、早朝5時頃から講中の人達が続々と到着し、小屋はいっぱいになって、寝ていようとする暇さではない。外を見るという朝焼けであった。

大勢の行者に挟まれて山頂へと歩く。行者返しを過ぎ、山頂下の雲田を登って行く頃雨が降ってきた。風も吹いてきた。狭い月山神社は居着いていっばいになっていた。休憩舎で雨具を着こんで湯殿山へ向かった。松尾芭蕉が月山に登ったのは、元禄二年(1665)6月8日、新暦では7月24日である。「東の細道」は「八日、月山にのぼる。……強力と云ふものに道びかれて、雲田山麓の中に、氷雪を踏んでのぼる者八里、……身給身こえて頂上に到れば、日没て月照る。」と記している。私達の経験から推察しても大変な苦勞をしたことがわかる。半端な山登りではなかつたらうと考えられる。この時「雲の峯幾つ崩て月の山」が作られた。

頂上小屋から鏡池小屋に下り、急斜面から雪田を横切り半首に下った。二分する登山道は左は姥沢へ、私達は右の尾根沿いに



月山付近略図

中高年・女性のための山旅

日帰りから本格的な縦走コースまで、全コース経験豊富なツアーリーダーが同行します。お一人でもお気軽にご参加下さい。

東南アジア最高峰キナバル山

キナバル山は東洋最大の山脈の南端にあり、標高4101m東南アジア最高峰です。3日間のコースはキナバル山登山口から山頂まで、もう一度山頂に訪れる特別なプランです。
 出発日：①11/15 ②1/01 ③2/07 ④3/20 (6日間)
 代 金：198,000円より (大阪・東京・福岡発)

台湾最高峰玉山登頂

玉山は台湾の山の中で最も高く、標高は3952mです。登山道はよく整備されており、道幅は広く、標高が低いため初心者でも登頂可能です。
 出発日：①11月17日 ②3月29日 (5日間)
 代 金：135,000円 (大阪・東京・名古屋・福岡発)

NZマウントクックハイキング

クック山には、世界で最も美しい自然の景観にマゼラン海峡の最高峰マウントクック(3767m)があります。遠くまで見わたる美しい自然ハイキングです。
 出発日：①12/15 ②1/12 ③2/09 (7日間)
 代 金：298,000円より (大阪・東京・福岡発)

アフリカキリマンジャロ登頂

「キリマンジャロ」とはスワヒリ語で「雪の山」のこと。赤道直下にある巨大なアフリカ最高峰です。多層の氷河帯が目を惹き、見どころ満載です。
 出発日：1月14日 (15日間)
 代 金：548,000円 (大阪・東京・福岡発)

エジプト、シナイ山とピラミッド

エジプトの歴史と古代エジプト文明の謎を体験し、神秘的な風景を楽しむ5日間の旅行です。シナイ山に登頂します。
 出発日：11月23日 (7日間)
 代 金：168,000円 (大阪・東京・福岡発)

★他にもたくさんコースあります。資料をご請求下さい。
 ★現地集合・解散もできます。ご相談下さい。

秋からの日本百名山と年末年始

宮之浦岳と縄文杉と開聞岳5日間

期日：12月29日(金)～1月2日(火)
 代金：大阪 128,000円 東京 138,000円

高千穂峰と菜の花の開聞岳3日間

期日：12月31日(日)～1月2日(火)
 代金：大阪 97,000円 東京 116,000円

石垣、於茂堂岳と西表島ハイキング3日間

期日：12月30日(土)～1月1日(月)
 代金：大阪 142,000円 東京 148,000円

久住山のご来光と阿蘇山3日間

期日：12月31日(日)～1月2日(火)
 代金：大阪 88,000円 東京 106,000円

雲取山のご来光と両神山4日間

期日：12月30日(土)～1月2日(火)
 代金：大阪 73,800円

日本最後の楽園、小笠原ハイキング7日間

期日：11月17日(土)～11月23日(金)
 代金：神戸港 128,000円

穂高の大パノラマ、上高地富士ハイク3日間

期日：12月22日(金)～24日(日)
 代金：大阪 43,000円 名古屋 39,000円

阿蘇山と九重縦走と祖母山4日間

期日：11月23日(土)～26日(火)
 代金：大阪 88,000円 東京 98,000円

アミューストラベル株式会社
 〒543 大阪市天王寺区南河堀4-7-3 本館 三井ビル2号館6F
 〒542 大阪市東区津島橋2-5-23 14号館成生ビル10F
 電話：0120-802514 FAX 06-265-3306
 大阪 092-414-5566 東京 06-265-3303

進む。一時晴れ間もあったが、装束場のあたりから雨足が強くなり、泥にまみれながら月光坂の鉄ハシゴを下り、沢沿いの登山道を下って湯殿山に着いた時にはホッとした。湯殿神社から専用バスに乗って参籠所に下った。
 この日の午後は四六十里越の古道を歩く予定であったが、雨のため中止して宿の迎えの車に乗り、昼食後、注連寺大日坊を拝



仙生小屋(九台目)

願した。
 月山登山の最大の難所は月光坂の上下と考えられる。何しろ標高差3000m近い急坂である。早速の進めたコースをどうするか、又は越えからのコースを登り、羽黒山に下山するのがよいと考えられる。
 湯殿山とは、仙入沢沿いにある湯殿山神社のことで、湯殿山(へうりいざ)に登ることはできない。「奥の細道」には、「湯殿に下る」との一章があるが、果たして芭蕉一行は月山山頂より湯殿山方面に下り、再びその日のうちに羽黒山へ下っているのだろうか。実際には不可能に近いものと考えられる。
 『奥の細道』の羽黒山、月山の項をさらりと読んで、はるか昔の旅を偲ぶのもよいだろう。
 (平成7年7月15日・17日歩く)

▲参考タイム▼
 7月15日のみ 仙生小屋16・05 月山7・35 8・00 牛首9・00 装束場10・35 40 湯殿神社11・35
 ▲地形図▼ 2万5千 月山・湯殿山

低山登山～本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

最新アイテムの会員優待で更に割引します。

とスキーのヨシメ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-7-3
 TEL 06(772) 7231

JR天王寺駅 北出口右へ 歩道橋渡ってスグ

鳩ヶ湯から広大なブナ林を歩いて

赤兎山

柴垣貞夫

奥越

鳩ヶ湯へは、越前大野市から九頭竜川をさかのぼり、荒瀬田のふもとと藤原スキー場から左に折れ、打波川に沿って北上する。川の両側は急な山が迫り、深い峡谷となっている。わずかばかりの民家が並ぶ上打波の集落を過ぎるともう人里はない。

最後の策原宿、鳩ヶ湯は温泉宿というより大きめの山の小屋という感じで、ちょうど上高地の樹海山荘を思わせるたたずまいである。宿の北正面が大きく開けて、眺めがよく、白山連峰の別山、三ノ峰がおりからの夕日を浴びて、赤茶色に映えている。さっそくスケッチブックを出して一枚描いてみる。

宿の陣下は歩くたびにギシギシと鳴り、

各部屋にある花紙面の掛軸や、九谷焼の皿はどれも骨董品のようで、まさに古色蒼然、歴史を感じさせ、近代的な旅館とは違った風情がある。素朴な山菜料理や岩魚、熊肉なども、登山の宿としてはびびりたりでなかなかよい。庭には大きな照明灯があり、夜になるとおびただしい数の虫が集まっていた。

登山コースは、林道を刈込池の手前、上小池まで車でつめ、ここから杉峠に登り、三ノ峰から延びる稜線をなぞって赤兎山に至るルートを予定していたが、ルート整備が十分でなく、しかも所要時間をはかりかねる、との宿の主人のアドバイスで、ダンドウ谷から南尾根に登るルートに変更。ちょ

赤兎山をめざす

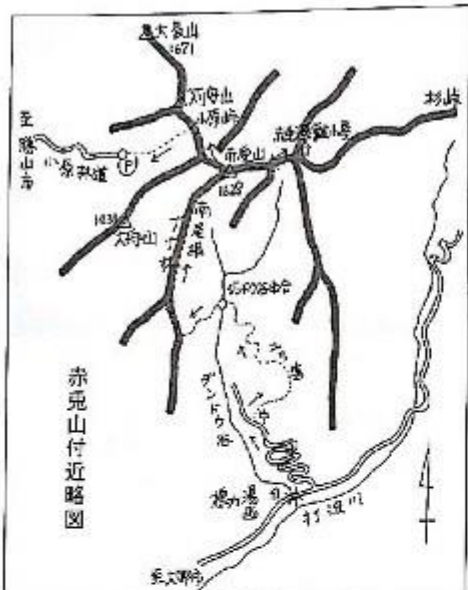


と残念な気もするが、標高5387mの鳩ヶ湯から赤兎山頂1628mまで、標高差約1100mの登りはげっしてやさしい登山ではないと思えた。

朝5時起床。少し曇ってはいるが、朝の薄曇りはむしろ晴天のまじりど、南沢行リュックの底にしまひ込む。朝食をとり、弁当のおにぎりをもって6時出発する。橋を渡ったすく左に林道をショートカットする傾斜

のきついた鉄の階段があるが、何も急いで危ない所を通ることはない。足慣らしに林道を大きく迂回して行く。この慎重さも時には大切だ。

単調な林道を、三、四回のヘアピンをくり返し20分ほど登ると、林が切れて視界が広がる。打波川の渓谷を見下ろす向こうに、赤兎山が見える。この山は日守岳によって、すいがん形が異なり、やはり大野市側から見た小笠原の小ピークを従えた姿が最も



赤兎山付近地図

魅力的だと思ふ。平仄になった林道をしばしば行くくと、右に登る細い道があり、「赤兎山登山道」の標識を見る。雑木林の中、ジグザグに登る。一汗かく頃、道は山腹をゆるく快適なユリ道となる。途中、熊に襲われたらしいカモシカの残骸を見る。今朝、宿の近くまで、餌を採りにきた一頭のカモシカを見た。奥越の深い山には、熊や狼、鹿その他の動物が相当生息していることがうかがえる。

割れた沢を渡り、ウツの群生する山ひだに沿って回り込むように進むと、やがて道は少し下りになり、左下に二段に落ちる滝を見る。間もなく岩の間を滑流がはたばしるサンドウ谷の上流に中々、パツと広がる景色の明るさ、なんとお持ちのよい谷だろう。樹木の緑と白い花、陽光にきらめきながら流れ落ちる水、この景

色を通りする人はいないだろう。岩に腰を下ろして少し長めの休憩をとる。

30分ほどして出発。小さな木を根を一つ回り込むと、今日いちばんのアルパイト、300m程の急斜面の登りが始まる。ジグザグにつけられた道は、最近整備されたのか、プラスチックの角材が階段状に埋められているが、かえって歩きづらくしている。今までもあまり汗をかかなかったのに、ここに来てどっと吹き出る。途中高麗沢の平坦地から、右に上り急ぐグリーンの笹におおわれた赤兎山のなだらかな山容が見える。行く手はまだまだという感じだ。東方には荒々しい縮の刃のような願教寺山から、薙刀山の連峰が見える。ここを通ると元来平なブナ林となる。すわりとのびた太い幹葉の蒼緑、樹間からのぞく晴天のブルー、陽光を浴びてきらめくこの色彩あふれたブナ林は、このルートの最も魅力的な景色の一つであると思ふ。

登りきると道は一変して、傾斜のゆるい尾根の登りになり、ときどき左手のブナの樹間から、大船山や経ヶ岳、はるかに越前大日岳などの姿を美しく望むことができる。1350m程のピークを通ると鞍部まで少し下って、ふたたびブナ林の中を緩やかに

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 北アルプス総図 | 34 飯豊山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝日・北阿蘇山 |
| 3 御嶽・黒部湖 | 36 高山山 |
| 4 奥・立山 | 37 越前・白川郷 |
| 5 上高地・穂・穂島 | 38 東海・早池輪 |
| 6 乗鞍高原 | 39 八幡平・妙高・妙高 |
| 7 御嶽山 | 40 十和田湖・阿蘇山 |
| 8 中央・南アルプス総図 | 41 ニセコ・羊蹄山 |
| 9 木曽駒・空木岳 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒・北岳 | 43 白山 |
| 11 塩尻・赤石・奥谷 | 44 墨江・伊吹・御岳 |
| 12 妙高・戸隠 | 45 信濃・信ヶ岳 |
| 13 志賀高原・草津 | 46 北阿蘇山 |
| 14 軽井沢・奥野 | 47 赤松山 |
| 15 西上州・妙義 | 48 京北山 |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰 | 49 京北山 |
| 17 ハッピ・草科 | 50 北阿蘇山 |
| 18 富士・富士五湖 | 51 八甲・草野・草野 |
| 19 箱根 | 52 箱根高原・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 箱根山・箱根山 |
| 21 丹波 | 54 紀伊高原 |
| 22 美尾・陣馬 | 55 奥高野 |
| 23 大菩薩原 | 56 大菩薩原 |
| 24 奥多摩 | 57 大台ヶ原・奥多摩・奥多摩 |
| 25 奥武蔵・秩父 | 58 奥武蔵・秩父 |
| 26 奥秩父1群峰・奥秩父 | 59 奥秩父2群峰・奥秩父 |
| 27 奥秩父2群峰・奥秩父 | 60 大山・草津高原 |
| 28 谷川岳・奥秩父山 | 61 四阿山 |
| 29 越前三山・奥秩父山 | 62 石川山 |
| 30 尾瀬 | 63 権門の山々 |
| 31 日光・奥日光 | 64 九郎・阿蘇 |
| 32 荒瀬・奥荒瀬 | 65 奥日光 |
| 33 奥日光・奥日光 | 66 奥日光 |

● 図文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春発行されます。この行の図はなるべく最新版をご利用くださいますようお願いいたします。
● 図文社の「山と高原地図」へのご質問、ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新情報をお知らせいたします。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 T102
電話03(3282)2141(代)
支社 大塚市深川区西中橋6-11-23 T532
電話03(303)5721(代)
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・新潟・立川
名古屋・金沢・京都・広島・福岡



池巻と赤兎遊覧小屋

で頂上に達し、雄大な展望を満喫することができます。人気のある山なのだ納得する。
15時過ぎ、車に乗り込み、思っていたより長く感じる林道を下り、国道57号線に出て勝山へ。町営のヘルスセンターを兼ねた公衆浴場「水西園」で汗を流して、帰途につく。
▲コースタイム▼
鳩ヶ湯(2時間)グンドワ谷(2時間)池巻(30分)赤兎山(30分)赤兎遊覧小屋(30分)赤兎山(1時間)小原峠(40分)小原林道

終点(駐車場)

▲地形図▼5万1:50,000 越前勝山

▲参考▼

● 鳩ヶ湯へは大野からJRバスがある。本数が少ないので確認の事。
● レポートと同じく下山を小原林道にする場合は交通機関なし。タクシーを予約しておくが、車を前もって駐車場まで入れておく必要がある。



赤兎山から白山の山々

登っていく。風頃のひとも出そうなほど気分がよい尾根道だ。
途中空腹を覚え、弁当のにぎりめしを一個腹に入れる。汗の匂いを吸きつけたのか、まとわりつく虫の多さに閉口する。
高度を上げるにつれてブナ林が姿を消し、熊笹やタケカンバや背の低い灌木が現れ始めると、やや平らに開けた台地に出る。目の前にササのじゅうたんを敷いたような

池巻を前にした小屋と、背後の別山を一枚スケッチして彩色までしてしまった。そのせいで食事に遅れ、せわしなくの身入りスリッパを飲み損ねてしまう。草原二世は、思ったように思われた。
池巻を前にした小屋と、背後の別山を一枚スケッチして彩色までしてしまっ。そのせいで食事に遅れ、せわしなくの身入りスリッパを飲み損ねてしまう。草原二世は、思ったように思われた。

たよりもたくさんの人で賑わっている。かなり奥まで車で入ることが出来る小原峠ルートがあるからだろう。鳩ヶ湯からの登頂者はさすがに我々のパーティーだけのようだ。
再び山頂に引き返し、13時に下山開始。小原峠まで急ぎ下り。この時間にまだ登ってくる人がいて、すれ違いのあいさつや、道のゆずり合いで時間がかかる。人の姿を全く見なかった鳩ヶ湯からの静かな山歩きとはえらい違いだ。やはり山歩きは人と出会わないのがよい。登って来るパーティーの中に、Sさんの顔が見える。聞けばテント山行で、大長山を経てきたとのこと、相変わらずの元気さにはびっくりする。
1時間ほどでたくさんの方が休んでいる小原峠につく。直進すると大長山から取立山への縦走路が続く。右へ下ると西又谷川にそって、白山麓の市ノ瀬へ下ることが出来る。一緒になった地元の人々の説明に、少々うんざりしながら40分ほどで駐車場に降りた。登山を終える。
差し入れの冷えたビールが喉に心地好い。見渡したところ駐車場には予想以上の車が駐められ、なかには中型のレンタルバスも数台ある。こちらのコースをとれば短時間

赤兎山頂のゆるやかな傾斜が現れる。あと100m程を登る。背後の大船山や軽ヶ岳が層を成るくらゐの高さになって赤兎山山頂へ(1500m)を越す。1時40分、所要時間5時間30分とゆっくりに進んだペースだったのであまり疲れを感じない。
3000度の展望は別荘通りに素晴らしい。前方に白山の大きな山容が目に飛びこんでくる。室堂平の万年雪や、別荘辺りに白く流れる一筋の滝まではっきり見える。左の鋭いピークは白山沢海岳、右に連なる長い峰は別山から三、二、一ノ峰。久しぶりの再会だ。
我々の立つ頂上から右(北東)へ緩やかに下ると、赤兎遊覧小屋の赤い屋根や、小さな池巻が見える。時間はたっぷりあるので、二つほどの小さいピークを乗り越えて遊覧小屋に行ってみる。この草原は初夏の頃にはニッコウキスゲの黄色い花で彩られる所である。ちょっと近寄っただけなのに、白山の姿がさらに大きくなったように思われた。

稲村ヶ岳西面全容の大展望

観音峰山・法力峠へ

大峰

酒井賢治

山岳展望において、高峰の山頂から大パノラマを展望するのも素晴らしいが、その一方少し低い山や尾根から下向きに望める高層谷を望むのもまた別の素晴らしい景色がある。この場合、いま自分が立っている山と眺める山の間に深い谷があり、眺める山が谷からそそり立っているような展望であればなおさらいい。例えば、もう御分原前に登った飯倉山(三山)から野呂川の谷を隔てて見た白樺三山(南アルプス)や、観音峰山から梓川の谷の向こうに聳立する御高連峰(北アルプス)などの展望は今だに網羅にはおぼろしく残っている。

このようなアルプスのスケールには及ばないものの関西の山にも、これに似た展望

は随分ある。大峰山系・天狗山から舟の谷の谷の向こうに連なる八ヶ岳など大峰の山々。鈴鹿山系・近江側の山々から神崎川や御池川の谷を隔てて見る鈴鹿山系。北山・中村乗越から見る比良連峰。流鏝から岩瀬山への登山道から三石谷を隔てて見る南葛城山の膨大な山容など、いつ登っても思わずワッと歓声をあげてしまう。

11月25日(日)、8時過ぎ自宅出発。近鉄各駅を乗り継ぎ8時5分、市口駅へ着き、8時10分発の御高連峰行き奈良交通バスに乗る。ミタライ渓谷で「紅葉まつり」が開催されているためか、バスはハイカーでほぼ満員。9時25分、私一人が御高連峰登山口で下車。道標に従い杉や檜の植林の登山道をゆく。観音峰山塊の西面から南面に回りこむように高度を上げてゆくと、やがて植林から

ススキの平坦ピークより稲村ヶ岳・大日山を望む(谷は岩本谷)



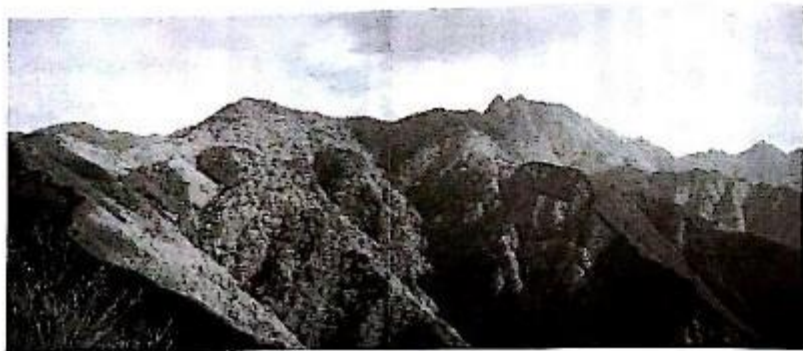
開放され、右側の淵木を通して川合から御尾辻を経て登山への登山道が大きな尾根上に展開見える。その先端の登山は薄く雲に隠れている。「大阪狭尾山の会」の真新しい道標に導かれてぐんぐん高度を稼ぐと、もうそこは明るく開けた観音平の一角で、左の樹間に点在する大きな露岩群を見ながら、ススキをかき分け前進し、10時過ぎ観音平に着く。

観音平はブナやカエデの疎林の中の平坦地で、古びた二棟の小屋や温泉湯物の石砌が立ち、歴史を感じさせるところだ。石大の散りそばれた紅葉が、冷たい空に輝き、れびらりと舞っていた。静寂の観音平で10分静養する。

観音平から登山道は北へ向き、淵木と小屋の中の急登となる。前面、山肌は幅広い岩壁を仰ぎ見るようになると、道はこの岩壁を登り、左へトラバース気味につき、途中から右へ回りこむように急登し、一気に高度を上げる。ここから檜の林を通過すると、明るい高層谷のススキの本尾根になり、緩やかに登ってゆく。10時半、ススキの中の平山ピーク(1970m)に着く。東方向展望に、白倉谷を隔てて稲村ヶ岳が大日山の岩壁を登って大きく立立し、右へバリエーションの頭まで鎖状の尾根を結がせていた。主尾根から下るクロモン尾根とミオス尾根の間の岩本谷は、V字状の切れ込みで大日山のキレット辺りまで一気に突き上げている。そして遠くには、赤穂まで姿を隠していた御山が、うっすらと巨大な山容を現していた。稲村ヶ岳と大日山の展望は、形と色といい、ここからの眺めが最高だと思ふ。裏側の大普賢岳や七輪岳から神堂下谷を隔てて見る稲村ヶ岳も立派だが、高度がほぼ揃うので迫力にやや欠ける。



小休後、次の1985mピークを目指してススキと淵木の道を登る。後ろをふり返ると、今しがた居たススキの高原が陽光を受け、遠く大峰をとりまく山と奥高野の山が霞んで見えた。ありがたいことに、天候は好転しつつある。10分程で淵木のピークに立つ。ここからも稲村ヶ岳西面の全容、



1370 ピークの繁岩より大日山・稲村ヶ岳を望む

も印象的だ。
 私人のせいたくな展望を誇嘆し、13時過ぎ雨石を後にする。灌木と小笹の細尾根の踏み跡を気分よく下る。途中で今日初めて北から西方向の展望が開け、大天井岳や大所山さらに扇形山など大峰前部の山々、遠く金剛、葛城の山々を望む。やがて展望もなくなり樹間の急坂をひたすら下る。樹間より垣間みる稲村ヶ岳は、もう大日山の鋭い三角錐の後方に隠れ、見えなくなっていた。
 13時40分、法力峠へ下り着く。三年前の秋にはここから山上辻へ出て稲村小堂に泊まり、翌日稲村ヶ岳へ登り、引き返して山上ヶ岳を経由して洞川に下ったが、今日は日帰りである。後ばもうよく踏まれた稲村ヶ岳への登山道・五代松新道を洞川へ下るのみ。いつかいても感ずることだが、この道はコンタナーに沿って無理なくつけられた歩きやすい道で、開路者の赤井氏のご努力に感謝しながら下る。
 植林の中の静かなユリ道を下りながら考えた。今日の山行を新ハイキング関西の来年晩秋号の紀行文としよう。誰かこのコースは天啓載のはずだ。さて、出だしはどのように書こうか。……やはり第一に素晴らしい

い展望について紹介すべきであろう。……と頭の中の筆は動く。「山の展望において、山頂から360度のパノラマを展望するのも良いが、少し低い山や尾根から深い谷を隔てて高峰を眺めるのをまた素晴らしい……」などと出だしの文が浮かんだ。
 バス時間の調整のため、久しぶりに五代松疎乳産を見学し、ここからダイレクトに大峰林道に下山する。「ころころ名水」をボリタンに一杯つめ、洞川の町を通過して15時過ぎバス停に着く。
 「ミタライ峡谷紅葉まつり」のハイカーが多く、定時バスより早い臨時バスが出るとのこと。着替えもせずにバスに駆けこみ、洞川を後にした。
 山中では誰一人として人に会わない、静かな晩秋の山行であった。
 (平成6年11月20日歩く)
 ▲コースタイム▼
 観音峰山登山口(50分) 観音峰(1時間)
 観音峰山(40分) ミツ塚(30分) 1370
 峰の繁岩(40分) 法力峠(1時間30分) 洞川バス停
 ▲地形図▼ 万5千 洞川・弥山・南巨豊
 昭文社「56大峰山脈」

そしてこれから縦走する観音峰山からミツ塚にかけての優美な山腰が望めた。木に巻かれたテープに導かれ、木立ちの中を小笹を分けて緩やかに下ってゆく。落葉した木立ちの間より川合方面を垣間見る。鞍部から北上してゆくと、道は観音峰山西南の太尾根を登ってゆく。晩秋の山、静かな深い自然林の口、落ち葉をかきこめて踏んでの縦走に単独行の妙味がある。
 しかしこの辺りは尾根というより山腹を登る感じで、逆コースの際は注意が必要であろう。踏み跡を外すと、とんでもない方向に下る恐れがある。さらに左・右の植林、右・自然林のふり分けに付けられた踏み跡を、テープを頼りに中央に登り、11時10分観音峰山(1347・4m)に着く。木立ちに囲まれた平頂で三等三角点の樺石が埋設されている。展望はいま一つで、木立ちを逆して稲村方面がわずかに見える程度。しかし清潔さと静寂感は一級だ。熱い紅茶をすずりひと思つた。
 ここからミツ塚にかけてはあまり変化のない縦走路で、時折、樹間より徐々に形を変える稲村ヶ岳を見ながら、緩やかに上下を繰り返す。途中、左へ洞川への旧道があるが、廃道になっているようなので無視し

あくまで縦線の踏み跡を忠実に進む。二つほど鈍いピークを過ぎ11時50分、植林の中の1388の岩峰・ミツ塚に着く。ここもどかが頂上から分らない程の鈍峰だ。頂上から木切れ日が見え、天候は完全に回復した。昼食によい時間だが展望の良い次のピークまで辛抱し、すぐ出発する。
 ミツ塚から北方向に大きな尾根が派生しているもので、その足が向くが、木に巻かれたテープを目玉に、東方向白倉谷側に張り出す尾根を下る。ここは細心の注意が必要だ。明るく開けた尾根を、道をかき分け踏み跡を求めてぐんぐん下る。再び薄暗い植林となり、鞍部より登り返すと、左に高さ300m程の露岩を見て漣不覚を覚悟する。後ろをふり返ると、ミツ塚が背をバックに美しい姿を見せていた。12時15分、太い枯れ木の立つ1370の岩峰に着き、少し下った展望の良い露岩の上で昼食とする。
 白倉谷の支谷・法力谷や板小屋谷を眼下に、近く白倉山(アアミ)から大日山、稲村ヶ岳、そしてバリコヤ谷の頭まで一梨のものとだ。弥山も堂々たる山容でひととき高く聳えている。ここまで来れば主峰の稲村ヶ岳よりも大日山の岩峰が威張っている感じだ。クロモジ尾根北南崩壊地の茶色の山肌

Low alpine mont-bell CAMP GRANICCI

冬物大量入荷!

あつたかーい肌着・フリース・上着をそろえ、貴方の冬山をサポートします

営業時間 12:00~20:00
 定休日 月・火曜
 吹田市内本町1-23-7
 TEL 06-319-0597

野の花讃歌 (12)

市川 正次朗

生命の原点は「森」



「人間はもちろ
ん、全ての生命の
原点は森だと思っ
ています」——世界
自然遺産登録地に
指定された青森県と秋田県にまたがる白神
山地で、今なお狩猟と山菜採りをして暮ら
すお年寄りが多い。かつて、またぎ、とい
われ、イノシシやシカ、クマなどを追って
何日間も山に分け入った人。

「森が小さくなってイワナなど清流の魚
がめっきり少なくなりました」——やはり
東北の山地で民宿を営む釣師がいう。深
流釣りに魅かれ、脱サラで山中に住みつい
てしまった。まだ40歳代前半の人。

このお二人に何の接点もありません。何
日も日をおいて、たまたま別のテレビ番組
に登場され、同じ意味のことを言われたこ
とが心に残りました。

お年寄りは「子連れの動物は撃たない」
「ワラビが二本生えていたら一本は残す」
と。釣り師は「その日に必要な魚だけしか
釣らない、もちろん小さな魚は川に返す」
という。そしてお二人が異口同音に「言われ
たことが、人間において徐々にではあるが
確実に「森がこわれつつある」というこ
とでした。山深くまで林道がつくられ、谷
には必要以上と思われる開発ができ、おま
けに空からは酸性雨が。

人間は決して増長してはいけないのです。
生命を育んでくれる森を、自然の大切さを
身近な日々暮らしの中から見つめ直さな
ければ、山を歩くようになってつくづく
思うようになってきた私です。

紅葉の雨飾山へ



その年の手帳を手
ゲにしたら、まずカ
スナダーを見ます。そ
ワシで、土・日にくっ
ついた赤丸（祝日）

があると、もう居ても立ってもいられませ
ん。淮いとうなく信州方面への山行計画が
出来上がります。

10月中旬の三連休、「のんびり温泉につ

かりながら紅葉を楽しむってのはどう？」
とI氏が提案。「悪くないなあ、たまには
のんびりいきますか」と大方が賛同。大阪
駅前発の夜行バスで信州・松本へ。

翌朝は大町温泉郷で初見鳥。最近ほどこ
の温泉地にも一般人向けのクアハウスが
できていて、山の行き届いたに重宝しませ
その日は安曇野で工業館や道祖神を訪ねて
ゆったり、栲池の民酒に奇物を置いて開運
したばかりのロープウェイで自然園まで。

「おととしは雪の中、白馬からここへ降り
たんだよね」と感慨ひとしお。少々ガッ
てはいたけれど、今が最高の紅葉を見せて
もらいました。

翌朝、6時に朝食をすませ小谷温泉へ出
発。深山百名山の一つ、それよりも山の名
前に魅かれて「いつか登りたい山」と思っ
ていた南勝山へアタック。標高2000以
上足すなご、足の不具合で登る人が少な
く、しつとりとした秋山を楽しむことがで
きました。

おたやかな登山道をおおろろうような、また
谷を隔てた荒々しい岩の斜面を彩る巨木な
紅葉に、三息を忘れ、出るのはため息ばかり。
山の薄り、露大風呂で汗を流し、語り合
う友の笑顔は、まるで昔年のようでした。

京都北山 やぶ漕ぎ痛快山行記 (23)

魚谷峠・柳谷峠・シラクラ峠・滝谷峠・夜泣き峠を巡る 晩秋の北山五つの峠の尾根通し

京都北山グループ

文化の日は統計的に晴天に恵まれる。
今日の例会も降雨率0%、午前中は薄曇が
広がるも、午後は快晴で気温も20度を上回
るとの予報。

集合場所には12人の顔ぶれ、三台のタク
シーに分乗し、一階中津川松尾谷林道へと
飛ばす。雲ヶ畑集合バス停から右へ、松
尾谷林道両側はすっかり晩秋の色づきだ。
直谷林道を右に目送り、舗装の終わったへ
アピンの坂の手前で車を降りる。ここで標
高3000。

「今日は古くから頼まれていた、木馬
の回遊路を急合時へ。林道工事で、何方所
程度、道が消えているかを確かめたい」と

皆さんに「解を得る。」

ヘアピンの地道になり、左上へと林道は
延びる。右の谷には水ではもう木馬の姿は
残らない。杉植林も大きくなり旧道への入
り口も消えている。強引に斜面を上り登る
と、谷に沿った懐かしい古い山道になる。
林道が出来てから七、八年になる。「最近、
利用する人もなく、旧道はイバラが通せん
ほのヤブ道。しかし鎌が威力を発揮してく
れ、言葉も判然としてくる。2000前後も
行くと左上の林道「草の土砂が山道を閉ざ
す。行くに行けないことはないが、今日は
女性が大勢、安全にと高巻きて左上の林道
に出る。対岸の雑木林の黄・紅葉が綺麗に

柳谷峠にて



ばいに広がる。
しばらく林道を進む、左に杉巨木帯を見
る林道カーブから左の谷に入り、右岸の杉
林下の古道跡を登る。50分も行くと私
が名付けた「ソーマンの滝」（松尾谷の底）
が右に大きく落ちる。この流も北山の名瀑
の仲間に入れたいほどの、乙女のような清
楚な流で、林道が出来てからは、人に知ら
れない隠れ流になってしまった。

以前は、流の岩をへつり滝上の頭に出ると、眼前に山カエテ・クスギ・モミジの群生する明るい谷があり、太い杉林下のせせらぎ沿いは日かげの快適な山道だったが、伐採で大きく変わってしまった。ひと休みするにはもってこいの場所だったのに残念だ。

さて、ここから先は林道の土砂で道が消え、右上の林道歩きを強いられる。左下、右岸山腹に古道が見え、沢を渡り古道にのり移る。ここからは以前流の頭から見た通りの黄・紅葉下のトラバース登り道。空は真っ青になっている。天気予報通りだ。色



づいた山は、黄・紅・青の調和が素晴らしい。ルンギンで登るうちに背が現れ、魚谷峠の四辻にとび出た。今は林道の交差点。昔の北山の名所、魚谷峠の良さは消えてしまっている。

マイカーで来た大連連れが山歩きを支えている。なんでこんな所まで車で乗り入れるのか。「困った奴や」と右の熊世の道解らない。「困った奴や」と右の熊世の道。魚谷山への尾根通しの登りにかかる。

腐って壊れた無人ロケット雨量計跡の横を通り、前山ピークを三つ越して魚谷山(万ノ承山)3等三角点818の頂上に到着。時間は10時20分、こんな早い時間なのに着けるのはタクシーで大馬道の取りつきまで乗り入れた時間短縮のお陰。頂上の展望はないが、北面に木々の間からの城丹國境尾根が語りかけるよう見える。落ち葉の絨毯広場で小休止をとり、今日の「佳境・目玉商品」である夜泣き峠までの尾根通しへと熊世歩きの下りに入る。

20分程で美しい雑木林の柳谷峠に着く。標高770の峠の時。これで二つ目の峠。ここからは「京都北山1」(明文社)の地図にも記載されていないルート。市町境界(京都市・京北市)尾根へのヤブ歩き登り、私が

ヶ岳の尾根通しの向こうに水井山・植高山など比較が大きく見える。

この先が注意ポイント、2万5千図のP760付近をJ型に尾根を通過し、右の尾根にのり、笹の谷に降りる。進路を定めて慎重にテープを伝う地点。熊世のヤブ歩きで滝谷峠手前の小ピーク、馬酔木と雑木の茂る落ち葉の広場に登り着く。見覚えのない場所だが小休止。四つ目の峠、流谷峠へと出発。熊世歩きで下り進むと、人が声かきこえてくる。はっと飛び出した所が、ボビニャーコースの滝谷峠の三叉路の辻。多数のハイカーが休憩をとっている。

今迄の尾根通しは人の入らない道だ。北山では昔ながら北山らしい推薦コース。滝谷峠からは二ノ瀬ユリをとる。人の混雑するハイキングコースで、家族連れや団体ハイカーと前後して、左側の貴船山東の展望台に出で小休止。

眼下には貴船の里、鞍馬尾根を通して天ヶ岳尾根が重なり、黄・紅の落葉樹と黒緑の常緑樹とが織りなす色の絨毯が目を楽しませる。小休止後最後の五つ目の峠、夜泣き峠への参万門尾根を通す。10月31日まで、は松茸山で、通っても山道の貧乏松茸を採ったものとして参万門の罰金を取るのと看板

が立つ。両側樹林が背高く展望は望めないが葉っぱの彩りが下落歩調をリズムカルに上げてくれる。

P7587付近を通過し、いったんユリ道を傍断して前の山道に登る。夜泣き峠への道標も立つから迷うことはない。松を主体とした雑木山のここにも参万山右板が立つ。標高5100の位から下り、夜泣き峠の東海自然歩道に合する。左上の杉板元に夜泣地蔵尊が祀られている静かな峠。これで晩秋の北山の峠五つを越す。後は数回二ノ瀬駅へとイッキ降り、1.5の急坂を30分程で下り着く。二ノ瀬神社の雲水を頂き、ワイスキーの水割りで締めくくりの乾杯。目的通りの北山尾根通し五つ目の峠の例會を解散。(平成5年11月3日歩く)

△コースタイム▽

- ▲松尾谷木馬道口(1時間15分) 魚谷峠(20分) 魚谷山(20分) 柳谷峠(1時間30分) 滝谷峠(30分) 展望台(1時間) 夜泣き峠(20分) 二ノ瀬神社(5分) 散策二ノ瀬駅

△地形図▽2万5千ノ山・大原 明文社「47京都北山1」 (記録 出口 要穴)

付けた布片が気持ちよく先へと導いてくれる。20分程のヤブ歩きで、北東に延びる鞍馬の尾根道に出る。右に尾根道を東進する。山カエテ・クスギ・リョウブの色づく尾根道は手入れされ幅広もあり、木々の間からは比良や比叡の山々が展望でき、楽しい尾根歩きが続く。この付近で昇井当の大休止をとる。

食事を終え、いったん細ヶ谷側を巻く。ちよっと道がややこしいが自分の付けたテープを見つけたが、笹の根などを手がかりに進む。右下から登っている北山花からの谷道に出会う。トラバースで直進すると笹の丘の峠に着く。

ここが京北町野生の里へ食袋を下る時。天空の明け方明るい峠だ。今西鶴司さんが若い時に名付けた。幻の峠。シラクラ峠だと私は思う。標高は810の位。ここしか中津川集落から丹生集落への近道は無い。やがて京北町野生の里へ近づく。登り、鞍馬道にのりアップダウンで小起伏を越し、豆ヶ谷から丹生への乗越しの辻に着く。滝谷峠へはヤブ歩きで直進するか、豆ヶ谷側に少し下り、左の杉林下のトラバース道を南進するのが賢明。又檜の植生十年位の尾根に乗りかえ南進する。天

【この花・この草】
イチヨウ (Ginkgo biloba)
イチョウ科

両葉したイチヨウの並木道を歩くと、誰もが映画のヒロイン気分になります。そんなロマンチックなイチヨウでも、果実は熟するとすぐに悪臭を放ち、頭上に落ちてこないかとハラハラします。その上果実は、触れるとかぶれを起こします。これは隣部にギンナン酸やピロポルといったフェノール性化合物を含むため、アレルギー反応を起こして、発赤・かゆみ・水泡など皮膚炎を起こすものです。食用の銀杏はこの果実の胚乳(仁)で、古くから精のつく食品の一つとされ、食べすぎると鼻血がとまらなくなり、さらには、テンニンやタンパク質・脂肪・ミネラルの他、トステジンを含んでいるため、多量すると中毒を起こします。近年の健康茶ブームではイチヨウの葉も飲まれているとか。葉はギンクゲチンというフラボノイドを含み、血管拡張の薬理効果があると言われていますが、生薬としてはあまり使用しません。また茶がわりに葉を淹んだりしますが、これは当然なる葉としてだけでなく、本を虫出から守ってくれるという効用からです。

近江側から登る鈴鹿の山々

—— 鈴鹿の思い出・おもしろ話 —— (5)

岩野 明

⑩ 鈴鹿山系の眺望

私は近江八幡駅から京都に通勤している。駅の降りキームに立つと右前方に鈴ヶ岳と主峰御池岳のどっしりとした巨大な山稜が目に飛びこんでくる。そして南に延びるスカイラインの端に一際高く兩毛岳と熊向山が聳んでそびえている。曇りの日でお目にかかれない時もあるが、ほぼ毎日鈴鹿のスカイラインを見て電車に乗っている。駅を出ると右に比良連山が眺められる。若い頃よく栗原から権現山に登り、北小松まで縦走したコースを思い出しながら眺めている。

家の近くにある歩道橋にあがると湖北の山々から伊吹山、そして霧社山・御池岳・兩毛岳・熊向山と続く鈴鹿の連山を一望でき

る。毎冬冬の晴れた日には歩道橋に上がり、湖北から鈴鹿連山の雪の原もり具合を見てきたが、それも天候の検討がつくようになり、鈴鹿の冬景色を充分に楽しんでいく。

⑪ とっておきの管歌(唄)

一、梅ぼし

私も家内も田舎育ちで、田舎からいろいろな食物を送ってくるが、その中の一つに梅ぼしがある。子供達は見向きもしない。日習の食事で梅ぼしを食べることはあまりなく、大きなタワパに入れていつも冷蔵庫の奥にしまっていた。登山にはレモンや菓子類を持って登っているが、夏山に梅ぼしを七、八個持って登った。暑くて汗をかいて疲れた時、この梅ぼしを食べると一べんに元気が出た。うまくて最高だ。皆さんも試してみればいかがですか。

この梅ぼしの歌がある。今は「き江利チエミが唄ったのに「サノサ」という歌がある。この歌の二番でこの梅ぼしの歌を唄うと採れます。「何だ 何だ 何だね あんな男の一人空一人 歌しくば上げましようのし付けて」この曲です。これを、「梅ぼしは 梅ぼしは 年もとらずにし わばかり 酒も飲まずに赤い顔 元をただせばね 梅の花 うぐいす唄かせたこともある」

二、玉子

ゆで玉子は手軽で安く、山登りの副食としては最高だ。この玉子の歌もあります。八代重紀の歌の中に「ダンチョネ節」の人の歌がありますが、この「ダンチョネ節」で唄います。

(1) 僕と彼女は玉子の中よ 僕が白味でね 黄身を捲く ダンチョネ

(2) 恋に心がれて泣くせみよりも 泣かぬ ホタルがね 身をこがす ダンチョネ

(3) 僕と彼女は羽織の紐よ 固く結んでね 胸に抱く ダンチョネ

三、近江の山頂(白鳥の囀)

近江にはびわ湖を唄った有名な民謡、

「波瀾節」や「びわ湖節歌」があります。青森県にはすばらしい山頂で、「津軽山頂」があります。この節で近江の山頂を自家製で仕込んでみました。御覧下さい。

(1) イヤーイテヤー 近江 伊吹山 ヤー

冬は白鳥く 春 春ぞく ヤー

可愛花園 秋 秋はにしき ヤー

衣恋する あさや あさやかきヤー

(2) イヤーイテヤー 近江 百の山 ヤー

50になるから 山 山登る ヤー

山を登るに 杖 杖つけば ヤー

峰のくま位 皆 皆なびくヤー

(3) イヤーイテヤー 鈴鹿 御池岳 ヤー

北に鈴北 嶺 嶺の山 ヤー

奥ノ雪も 笹 笹の海 ヤー

これを見たい 昔 昔はまにヤー

⑫ 残雪の御池(岩部・奥の平)

冬の園を丘は鈴鹿スカイラインが封鎖されるため、アブローチが長くほとんど登る人はいない。私も以前御池谷や稲ヶ谷から何回もアタックしたが、本峰に立つことは出来なかった。

平成三年の冬も稲ヶ谷から登り、流を高く登った杉林から雪が深くなり、カンジキを付けて谷を登ったが、流れと深い雪で古

勞した。山は深いガスに覆われていた。樹木に覆われた屋根に出て、白一色の深いガスの中を樹木をかき分けながら登ると、次第に灌木と近原を覆いつくした雪原に変わった。ガスの中に尾根筋だけが宙に浮いている。時々薄日が差して樹木がキラキラと輝く幻想的な世界が続いた。天と地が溶け合う乳白色の風景、そして深い静寂、何か別の世界に引きずり込まれているように思ってきた。ガスの中から正面に急斜面の雪原が静かに現れた。南側を登る。迷っている雪が降りだした。今まで張りつめていた気が急に萎えてしまっ、引き返すことにした。

この時の南岳尾根での体験は、夢の又夢の世界の出来事と思われて、忘れられることのできない強烈な思い出として心に残っている。

平成三年小又谷林道からノタン坂・土倉岳を辿り御池(岩部)に登ったが、この時も深いガスに覆われ目通しは利かなかった。広大な雪原には誰も入っていない。いつものルートを通るとガスの中に幻想的な風景が現れ消えてゆく。大きく口を開けたドリー

ネを右に見ながら進む。振り返ると雪原には、私の踏み跡がはっきりと続いていた。支隊帳に着くと前方ポタンブチ方向はガスで何も見えない。ポタンブチはあきらめ、右折して1194坪のピークに向かう。

白一色静寂の雪原、深いガスの中、緩い登りを辿ると、ガスの中から樹木が現れ消えてゆく。1194坪の山頂に着きクロウモドキの倒木に腰を下ろし昼食。ガスで見通しは利かないが、後方連峰が彼方の雲海の上に御池と熊野白山が白い山容を時々見せてくれる。ゆっくり寛いでいると一時的にガスが消え、右の無いがけない方向に大きな山が現れた。しかしこの山頂より高い山は丸山・奥の平以外にない。ガスの中を歩きながら思っていた丸山方向とは90度近くずれている。同じられない呆気にとられて、歩いてきたルートを思い返したが、何か氣にだまされた感じだった。踏み跡を辿り南の広大な雪原まで引き返す。ガスも次第に消えてきた。西の端から東へ大きく回り込んで熊野を築き、ドリーネの隅りを散策しているとガスは完全に消えた。北には雪原の奥に1194坪から丸山へと続く樹林の山稜が、ゆったりとした盛り上がりを見せていた。

田村谷林道から

御所平・安楽越を行く

黒池で地元の人に山女原に行くルートを知ると、太郎谷林道から右に分かれた林道の終点から首尾谷を登り、尾根を越えたとすぐだと聞いたことだ。この林道の裏の谷で、昔、首折り自殺があり、それ以降地元ではこの谷を首折谷と言ったと聞いた。変わった名の首尾谷が気になり、この谷を越えて山女原まで歩いてみることにした。

林道終点から杉林の谷をつめ、右に登って支尾根を越えようと、杉林の中に神秘的な池がある。その下が池ヶ原の集落跡で林道に出た。黒池から山女原まで約1時間で行けた。

黒池の田村谷林道から御所平に登り、安楽越への道を通り、山女原から黒池に回り込むルートは、全然知られていない素晴らしいルートだ。

黒池の集落で右に下った橋の手前の広場



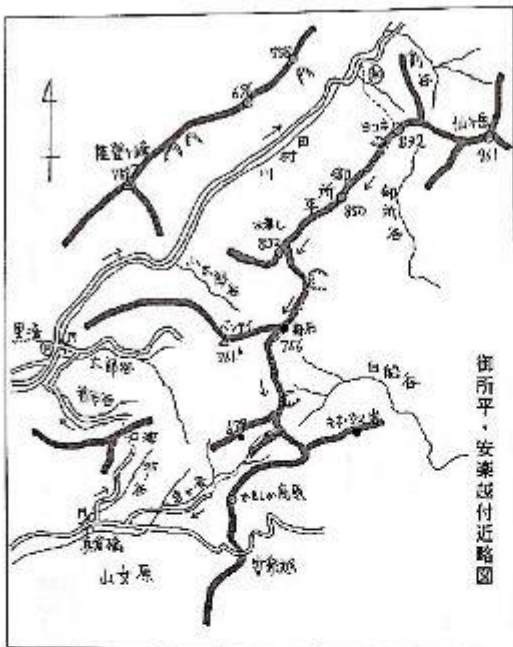
ヨコネのミツバツツジ

望だ。左下には双耳峰の仙ヶ岳、山腹にはミツバツツジのピンク染の花が咲き乱れていた。そして仙尾尾根から野登山、その先

は春霞の中に伊勢野野が広がっている。左には宮尾尾根・鏡峰・御在所岳・雨乞岳・縮向山と続いていた。これから通る御所平の稜線は荒れた山原がゆったりと広がり、その先のピークも新緑にミツバツツジが彩りを添えている。左斜面には馬酔木の赤味を帯びた新芽が続き、思いがけぬ景観に魅了されてしまった。

のピーク(890m)に着いた。眺望を楽しみながら昼食。

次峰に空が黒雲に覆われ、とうとうパラパラと降りだした。急いで食事を終え先を急ぐ。水無しから小太郎谷の頭端に下って安楽越へと向かう。黒雲が通り過ぎ、徐々に晴れてきた。雨の心配はないようだ。登りきった岩場で眺望を楽しみながらゆっくりとくつろいだ。



御所平・安楽越付近略図

周りにミツバツツジの群生に芽吹き始めた新緑が混じり、ピンク染の花をひときわ引き立てていた。下り終わった峠からは背火を越す豊原の中に道が続いた。縦い登りを辿ると次第に道が不明瞭になるが、テープの印がどこまでも続き、峠林から笹原に変わると御所平

舟石を通るとすぐ道が分かれた。道路を左にとり峠木の中の急坂を下った鞍部から又登りになる。右に回り込んで登りつめると左にガレ場が現れ、展望が開けた。後方には歩いて来た御所平や遠く仙ヶ岳・野登山が続き、安楽川の続いた川筋が伊勢平野へと消えている。その手前の支尾根にキネ岩が望めた。

このキネ岩には頭にくる思い出がある。山女原からカモシカ尾根に登り、キネ・ウス岩に向かって歩いてみると〇〇〇会の「キネ岩、ウス岩分岐」と書いた立派な標識が立ち、方向を示していた。その尾根を下ってキネ・ウス岩を探したが、かなり下って直下に林道が見えてきたがやはり見つからない。あきらめて引き返し北に向かうと、次のピークにもキネ岩・ウス岩分

ヨコネより御所平を望む



が、夏草が茂る時期には、道は完全に消えてしまっただろう。

山頂に向かってフェンスが続いている。その横の枯れ草の中を登ると、フェンスの右側に切り開きの急斜面をあえぎながら登りつめると、植林が残り枯れ草が広がるヨコネ(890m)に着いた。

笹のまばらに生えた山頂は360度の眺

霧の山

―続 ぶくいの山四季―

増永 迪男 著
四六判・二〇〇〇円
大好評「霧の森」に続く、福井の山岳フォトエッセイ。箱街道完歩や焼畑作りを通して魅力を語り、能郷白山のダケカンバ、貝節橋など名樹も多数紹介。

関西山越の古道(中)

中庄谷 直 著
四六判・二〇〇〇円
叡山越、高野七口、西国三十三所巡礼、熊野古道、伊勢街道から全28コースを日帰りハイイクにまとめ、中辺路・小辺路など泊まりがけの完歩コースも掲載。

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
京都 075-751-1211 〒606

峻の標高があった。この尾根が正しかった。山を歩いていると時々間違いの標識を見かけるが、確認もしないで標識を立てることは慎んでもらいたいものだ。

緩い登りと下りを過ぎると笹が現れ、右手に植林の中に笹原が広がる。この間のピークが望めた。線路路に標識が現れ、岩ヶ谷に下る分岐に着いた。道は左に下ってカモシカ高原へと向かうが、笹に覆われた広い植林の尾根を直進すると、フェンスが続き低い笹原の素晴らしい尾根に変わった。道はないがどこでも歩け、フェンスに沿って行くと左の支尾根の入り口があったので、左折してこの尾根を下ると赤い杭が続いた。一気に下ると岩ヶ谷の支谷の出合いに着き、谷の右岸に旭道が続いている。左に渡って下ると、岩ヶ谷林道の終点に着いた。「東

海浜自然歩道」の道標があり、左上に5分も登ればカモシカ高原だ。

林道を下ると黒流に着いた。
(平成7年5月9日歩く)

林道を山女原に向かう。山女原に着き、奥倉橋の手前の分岐で右折して池ノ原谷林道を進む。上林神社を左に見て橋を渡ると道が分かれたが、直進して緩い登りを行く。ゆったりと広がる谷には荒れた茶畑が続き、右折し登りつめると十字路に着いた。正面の大きく茂る杉の森に向かって進むと、左に池ノ原集落跡の碑が立っていた。

林道終点から谷の左側の杉の林を登ると池があった。うっそうと茂る森の中の神秘的な水面は、静寂の中に新緑と青空を映していた。左に回り込んで薄暗い杉林を登ると、支尾根に出て左に明るい尾根が見えた。左に登りこの支尾根を右に下ると右下に林道が見える。谷に下って右の林道に登り、

△コースタイム▽

黒流(1時間20分) 田村谷林道取付点(1時間) ヨコネ(35分) 13350m(25分) 水無し(1時間) ベンケイ尾根分岐(1時間) 岩ヶ谷尾根分岐(30分) 岩ヶ谷林道(20分) 山女原(25分) 池ノ原集落跡(20分) 林道(20分) 黒流

△地形図▽昭文社「45御在所・鎌ヶ岳」2万5千11伊勢・土山・鈴鹿峰(志野 明)

エリア別 徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ②

たろうただに
太郎谷から

ベンケイ・舟石・水無し

黒流の田村谷林道から仙ヶ岳に登った際、地元の人に出会ったので、ルートについていろいろ話を聞いた。中でもベンケイから東に行った尾根上に舟石があり、子供の頃よく登って遊んだが、三重県側が眼下に広がる素晴らしい所だと聞いて興味を持った。

さっそく太郎谷からベンケイに登り、稜線を東に辿ったが、そのような岩は見つからない。756mの安楽越への分岐は雑木に覆われていた。山頂を過ぎると、右に岩が突き出ていた。展望がありそうなのでひと休みしようと思つた。舟を横から見ただけで、半分以上が土に埋もれ、灌木が茂っている上、縦走路がすぐ横を通っているのに死角になっているようだ。子供の頃よく登って遊んだというので、もっと近い所にあるのかと思つていたが、

ここまではかなり遠い。今どきの子供が気軽に登れる所ではない。何十年か前までは、しっかりと植道があったのだろう。こんな山奥を子供達が自由に遊び回っていたとは、現代では考えられないことだ。

展望を深し、さっさと進むと灌木混じりの岩帯に変わり、岩の上からは舟石以上の展望が開けた。この縦走路は素晴らしい展望が得られるため、ほとんどのハイカーは、舟石には気づかず通り過ぎていくようだ。西尾寿一氏の「鈴鹿の山と谷」に舟石の記載があるが、この舟石のことのようだ。

今年2月、高い山は雪が深く入ればかたので、雪の少ない鈴鹿南部の山に登った。黒流に車を駐めて、橋を渡り太郎谷林道を進む。前日降った雪がくもも積もつていた。谷の左岸には旭道が続いていた。パタ

小太郎谷源頭よりベンケイを望む



パタパタと山鳥が一羽、左斜面から飛び立った。以前もここで山鳥に出会ったが、この付近の小さな滝が山鳥の水場になっているようだ。

左に切れ込んだ支谷が現れ、その手前から左の急斜面の杉林に折り返しの坂道が続いていた。この林道も初めて登った時には、崩れていて通れなかったが、近年山腹の伐採が始まり、整備され、車が入っているようだ。急坂が終わる直前に変わると、山腹を東に向かって緩い登りが続いた。雪は徐々に深くなるがそれでも10〜20分程度だ。



水無しから御所平と仙ヶ岳を望む

馬鞍木と笹の急斜面を登りつめると、水無し(830m)の山頂に着いた。南麓の名峰がずらりと並ぶ大パノラマが展開した。縮向山と南ヶ岳は南に広がる菅原が全部菅原に変わり白く輝いている。御在所岳と鎌ヶ岳も見える。前衛の山々の植林帯は、この時期杉が茶色になっているため、杉と楠がはっきり区別できた。そして御所平の左には仙ヶ岳だ。素晴らしい景観を楽しみながらゆっくり昼食をとった。

食後、左小太郎谷方向に続く支尾根をフェンス沿いに下ると、素晴らしい菅原の台地が眼下に現れた。笹は30〜30%程度の深さで、中央にグミの古木が一本立っていた。左斜面は雑木が広がった。広い台地の回りの斜面には植林が育っているが、この台地上は風が強いせいか植林は育たないようだ。正面には歩いて来たベンケイからの被線が望めた。右に進むと楠の植林に変わった。支尾根を左に下ると、フェンスに沿って急な下りが続き、吹き溜りの尻根はかなりもぐった。いったん下り終わったらピークから、左斜めに続くフェンスに沿って下ると杉林に変わった。左に回りこんで下ると緩やかな広い台地になり、右下の小太郎谷に下る道が現れた。急坂を折り返しながら下っ

登山用品製造販売
全山紅葉

応援します。

あなたの山登り
○定番ザックに飽きたら……
○登山用具なんでも……

神戸ザック

パンフレット郵送の方には250円送料で下記まで。
神戸市長田区大橋町9丁目3-1
〒653 TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528

▲コースタイム▼
黒瀬(1時間) 林道終点(25分) ベンケイ(35分) 丹石(50分) 水無し(45分) 小太郎谷(15分) 田村谷林道(20分) 黒瀬
▲地形図▶昭文社「45御在所・鎌ヶ岳」
2万5千1:1伊勢・土山

(若野 明)



丹石

林道終点からは杉林の中に折り返しの袖道が続いた。急坂を登りつめると道は山腹を水平に巻いて東に向かっていた。真上がベンケイだ。これからは道が消え、雪の急斜面の杉林を適当に折り返しながら登ると尾根に出た。右にとり山頂に向かう。尾根上には30〜40坪の積雪があった。北斜面の雪が少ない所を選んで登りつめると、ベンケイ(876.1.6m)の山頂に着いた。

馬酔木と植林に囲まれ展望はない。三角点を確認して東に向かう。下りにかかる左斜面は馬酔木、右には杉林が続いた。被線は吹き溜りが続きかなり滑る。右に左に吹き溜りを避けながら進む。雪の上には鹿・兎・鳥等の足跡が次々と現れた。紐の印を辿り雑木の登りに変わると、安楽越との分水嶺を右に見て登りつめ丹石に着いた。

展望が一気に開け、北方には御所平の被線の右に白く輝く鎌ヶ岳の頂稜・宮指路岳、そして双耳峰の仙ヶ岳は扇状の落ちこんだ谷に幾筋も支尾根の線を描き、静寂の中に納まっていた。右に続く仙ヶ岳尾根は荒々しい山肌と鋭い起伏を見せ、その右の野登山、その先には三重県側が霧の中に広がっていた。眺望をゆっくり楽しむ。被線上は雪が深く歩けないので雪の少ない左斜面

を道に沿って進む。緩い下りが広い尾根に変わり植林を抜けると、灌木帯になり岩の上にでると、舟舟以上の大パノラマが展開した。

左手の水無しは左右に素晴らしい草原が広がっていた。崖を下ると植林の中に緩く下り道が続き、植林を抜けると小太郎谷源頭の草原に出た。ゆったりとしたこの源頭は、四季を通じて素晴らしい景観を見せてくれる。特に三重県側の大ガレに雪が付き、松の緑と山肌が続く風景には心が奪われた。

ひと休みして水無しに向かう。植林から

近畿の山 — 七賢出版 —

東海自然歩道30道	【関西版】	1,400円
大阪府社会体育研究所	グ	
京阪神さわやかハイキング	1,400円	
大阪府社会体育研究所	ね	
京阪神ベストハイキング	1,500円	
専本会	1,500円	
京阪神花の山	1,500円	
大阪府社会体育研究所	30	
京阪神ベストハイキング	1,500円	
友友会	1,500円	
京阪神ベストハイキング	1,500円	
小部会	1,500円	
近畿の山グレー	1,500円	
西村私業		

〒503 大津市北区西天橋 4-10-10 フェニックスタワービル3F
☎06-314-3055 06-314-3025

小太郎谷から

御所平・仙ヶ岳

仙ヶ岳から南に続く横走路は、御所平から小太郎谷の源頭へ下って安楽越へと続いていくが、このルート歩く人は少ない。特に近江側から登る人は少ないようだ。

私が初めて御所平の稜線を歩いたのは平成四年の冬、黒流の太郎谷からベンケイに登り、稜線を更に辿ると、前方になだらかな広い素晴らしい草原が現れた。びっくりして急いで谷を下って草原に登ると、広々とした緩やかな谷は20〜30歳の笹と萱に覆われていた。両斜面は馬酔木が群生し、けもの道が縦横に延びていた。三重県側は垂直に落ち込んだ大きなガレ場でその上を縦走路が通っていた。左に登り水無しから御所平の稜線を通り、途中で田村谷林道に下ったが、鈴鹿名物の伊吹笹は仙ヶ岳で終わり、御所平からは笹の種類が変わった。開放感あふれる明るい稜線からは素晴らしい展望

が得られた。

その後小太郎谷をつめてみたが、登りきった広い台地は杉の植林と藪に覆われ進めない。地形図を見ると、この谷を塞ぐように636坪の栗畑がある。逆にならこの谷へ下ってみようと考えた。

田村谷林道から御所平に登り、小太郎谷の源頭を下って草原を下ると、杉林に変わり、古い道が残っていた。谷の水が濁れて行きつまる。右に緩やかな谷が現れ、この谷を進ると道は消えたが636坪の北の台地に着き、小太郎谷に下る横道が現れた。

黒流から田村谷林道を進み、村はずれの広場に車を駐める。林道を進むと左の杉木立ちの中にシイタケが栽培されていて、その中には現役の虎焼き窯がある。窯を覗いて見るのもよいだろう。左に回り込むと



いが、この台地を乗り越えようと、一部伐採した明るい谷が左前方に現れる。谷に下ると杉林の中の潤れ谷に着く。左手の杉林の広い谷の緩い登りを通り、杉林を谷に沿って登ると、古い道が続いていた。杉林を過ぎると雑木と笹の谷に変わり明るくなった。この谷で水を確保して踏み跡を通ると前方に素晴らしい草原が展開した。風の通り道で木が育たないようだ。けもの道を通りガレ場の上の鞍部に着くと、三重県側に大

きく展望が開ける。眼下に広がる眺めをゆっくり楽しむ。

林道から約1時間、谷には水があり涼しい風が吹いていた。暑い時期にはテントを張り、眺望を楽しみながらゆっくりと過ごしたい所だ。植林の中、左にテープの印がついた緩急路が続く。馬酔木から笹原に変わると水無し(830m)の山頂だ。300度近い大バノラマが展開、左には湖東豆野の低い山並み、どっしりと根を張った緑向山と雨ヶ岳、御所平、槍の穂先のような仙ヶ岳、水沢近と続き、御所平の右に双耳峰の仙ヶ岳、仙鶴尾根から野登山と続いている。

稜線を仙ヶ岳に向かう。緩い下りから登りに変わると、左斜面は雑木、稜線には笹原が続いた。道はほとんど消えているが、背の低い笹原はどこでも歩ける。830坪のピークを過ぎると、緩い下りから平坦な広い原野に変わった。左斜面は田村谷から稜線まで杉を植林してあるが、原野上の杉が育たず、おまけに鹿に食い荒らされ丸坊主になり、2月を越えるまで大草原になっていた。鈴鹿にこれだけの素晴らしい草原は他にないだろう。秋には一面の尾花が銀色に染み付く白いススキの稜線に変わる。

仙ヶ岳から御所平を望む



右にも大杉が続き、その中の右の植林を下って河原に出ると、正面に小太郎谷が現れる。そのまま谷の横道を通り、二、三回谷を渡り返すと、右斜面の杉林に道が続いていて、大きな杉がかなり倒れて道を塞いでいる。緩い登りのあと谷を右岸に渡り、左斜面の杉林の中の急勾配の登りを山腹を右に巻ながら登りつめると、杉林の中の広い台地に着き、道が分かれる。

左に登ると水無しだ。道ははっきりした

フニンスの横に道が続き、ヨコネの登りにかかる左にガレ場が現れた。ガレの上に出てひと休み、眼下には草原が大きく広がっていた。ヨコネ(830m)の笹と菅原の山頂は360度の展望だ。正面に仙ヶ岳が見えた。御所谷の鞍部に下って仙ヶ岳の登りになる。尾根も次第に細くなり、雑木から雑木と伊吹笹に変わって行く。後方に大きく展望が開け、歩いて来た御所平の稜線が望めた。笹をかき分けて登ると仙ヶ岳の山頂に着いた。

山頂は狭く五、六人がくつろげる程度だ。眺望を楽しみながらゆっくり昼食。復路は御所谷の分岐から右の割谷の支谷を下る。道はないが、特別危険な所もなく田村谷林道に下ることができた。

(平成6年9月6日歩く)

- △コースタイム
- 甲斐(15分) 小太郎谷合出(1時間) 小太郎谷合出(25分) 水無し(1時間) ヨコネ(30分) 仙ヶ岳(1時間10分) 田村谷林道(1時間30分) 黒流
- △地形図 明文社「15御所平・仙ヶ岳」
- 2万5千1伊勢・土山

(岩野 明)

田村谷源流から

宮指路岳・高円山

猪足谷林道は、登山道分岐のすぐ下で左右に分かれ、右は宮指路岳の腹を巻いて田村谷の源流まで延び、現在ガレの修復工事が始まっている。この林道を進み、田村谷源流から宮指路岳へ登るルートはほとんど知られていない。林道から望むと、この源流域は花崗岩の脆いガレ場で険しい印象を受けるが、歩いて見ると意外と簡単に稜線に登ることができ、寒化に富んだ素晴らしいルートだ。

高円山は南と北に窓があり、思わぬ展望が楽しめる。特に北窓から望む同窓岳は、両肩をなだらかに落として素晴らしい山容を見せてくれる。

野洲川ダム横の477号線を進み、右折して大河原橋を渡り元越谷林道を進むと、ゲートがあり、その手前の道路脇に車を駐める。今日は曇り曇りしない曇りの天気だ。



宮指路岳の馬乗り岩



歩きだすとすぐ道標があり道が分かれた。右にとり橋を渡って猪足谷林道に入る。谷筋には種々谷空木・空木の花が左右に次々と現れた。右から左に渓流の音を聞きながら歩く。春の集中豪雨で道は相当荒れていると思ったが、完全に補修してある。工事用の車が四台下ってきた。その後から土砂を満載したダンプカーが土埃をもうもうと上げながら下ってきた。埃の中を歩いていると四台のダンプカーが次々と埃を上げて登って行った。その他工事用の車も登って行く。林道の奥で何か工事が始まっているようだ。

登りきって平坦になると、正面に宮指路岳が望めた。山頂の右に見える岩が茶室ヶ岩だ。そして真下の田村谷が右の鞍部に突き上げ、その源流には大ガレが赤茶色の地肌を見せていた。上からダンプカーが道脇

猪足谷林道より宮指路岳を望む



いっぱい下って行く。広くなった所で待つが、次々と下って来て、しかも風が無いので埃だらけ、これにはまいった。舗装された緩い登りに変わると林道の分岐に着いた。右折して緩い下りの地道を田村谷の源流に向かう。林道終点に着くと作業小屋があり、すぐ下に谷が現れ、谷に下ると明るい花崗岩の谷が広がっていた。

面が広がっていた。途口まで登ってみたが上部が脆い花崗岩の岩場だった。引き返して谷をストレートにつめる。やがて雑木の谷に変わり、真上に明るい稜線が見えた。雑木林を抜けるとすぐ稜線に着いた。

左上が宮指路岳、南に続く縦道は脆い花崗岩のガレの上に続いていた。東には東峰の斜面に三休の岩が望め、その先は春霞の中に伊勢三野が広がっていた。白くハゲた砂礫を敷くと流水から雑木に変わり、シロヤシオやサラサドウダンの花が咲き、その中に新芽の緑やかに色づいて

いた。後方にも展望が開け、中央にコブを付けた双峰の仙ヶ岳が端正な山容を見せていた。

新緑と花々を愛でながら登りつめると、宮指路岳(△0.46m)に着いた。が、展望はない。右折して東峰に向かう。いったん下って緩い登りを辿ると、右下の樹間から三休の岩が見えてきた。三休仏に下って写真機を撮る。引き返してシロヤシオの咲く道を東峰に向かう。東峰に着くと大きく展望が開けた。眼下に伊勢三野が春霞の中に広がり、左の主稜線から派生

したイワクラ根の端に入道ヶ岳が威風堂々と聳えていた。腰望を楽しんだ後宮指路岳まで引き返し、馬乗り岩で一服。風が強くなり寒い。

茶室ヶ岩の岩場に向かう。北へ行くときすぐ道が分かれ、左は行き止まりと標示してある。この道を左に行くと、花崗岩の突き出た岩場に出て一気に展望が開けた。北方には南鈴鹿の名峰、線向山・雨笠山・御在所岳・鎌ヶ岳がずらりと並んでいた。眼下は一気に落ちこんだ田村谷だ。南には仙ヶ岳・御所立と続く稜線、眺望を楽しみながらゆっくりと登直した。無縁中継所の方からガリガリと山を削る音が聞こえてくる。その右奥が高円山だ。もうもうと土埃を上げてダンプカーが上り下りしているのが見える。

最後、高円山に向かう。新緑の中の坂道を下ると平坦な道に変わり小坂須峰に着いた。直進すると高円山への道の分岐に着き、左にとり山頂を登り山頂を降り終わって登り返すと、間もなく舗装された林道に出た。この道を無縁中継所に向かう。緩い登りを進み左に回りこむと正面に中継所が見えてきた。右斜面に注意しながら進むと右に山に入る道標が現れた。この道に入ると

山の専門店マウンテントラベル

シーズン到来!! 世界の山ハイキング 下記コースのパンフレットをご請求下さい。

世界の山々を歩く

～ニュージーランド～

	出発日	旅行費用
■ミルフォードトラック10日間	12/21 1/13 2/8 3/16	¥473,000ヨリ
■ルートバントラックとマウントクック10日間	1/4 2/1 3/14	¥475,000ヨリ
■ミルフォード・ルート・ターンケブラートラック3日間	毎週月・ホ・土曜	¥433,000ヨリ

～アジア～

■キナバル山登山7日間	毎週水・土曜 (12/27 12/30 1/1 1/4)	¥198,000ヨリ
■ブータン王国9日間	11/11 3/23 5/3	¥388,000ヨリ
■ブータン・ジョモラリトレッキング3日間	11/7 3/26 5/21	¥440,000ヨリ

～アフリカ～

■キリマンジャロ登山11日間	11/19 1/14 2/11 3/24	¥415,000ヨリ
----------------	----------------------	------------

オーロラ&スキー

～アラスカ・カナダ～

■テナリ温泉オーロラの夜8日間	毎週月・水・金曜	¥250,000ヨリ
■アラスカスキーとオーロラの旅7日間	毎週月・土曜	¥198,000ヨリ
■カナダイエロー・ナイフとパンフ 3日間	毎週月・水・金・土・日曜	¥259,000ヨリ
■パンフ・レイククルーズ8日間	毎週月・水・金・土・日曜	¥250,000ヨリ

～北欧・アイスランド～

■オーレスキー6日間	毎週火・金・日曜	¥139,000ヨリ
■リレハンメルスキー6日間	毎週火・金・日曜	¥198,000ヨリ
■オーロラ紀行アイスランド6日間	毎週火・日曜	¥192,000ヨリ

ネパールのトレッキング

■ホテル・エレベストビューとアンナプルナハイキング8日間	毎週火・日曜	¥294,000ヨリ
■アンナプルナ・ノラマヘットトレッキング11日間	毎週日曜	¥321,000ヨリ
■エレベスト・カラパクター登山10日間	11/23 12/7 12/21 3/7 4/18 包有	¥354,000ヨリ
■アンナプルナ・C. (内定) トレッキング10日間	11/1 12/9 12/23 3/9 4/27 包有	¥336,000ヨリ

物の種類豊富 東京発直行便で行く JAZ で飛ぶヒマラヤ

ジャパン・エア・チャーター JAZ で飛ぶ ヒマラヤの旅

昨年秋にご好評をいただきましたJAZ直行便で行くネパール。創業20周年を迎え今年もベスト・シーズンのヒマラヤへご案内「JAZで飛ぶヒマラヤ」へお問い合わせ下さい。

11月19日 (金) 出発 / 11月18日 (土) 帰国9日間
11月27日 (金) 出発 / 11月26日 (土) 帰国9日間
12月7日 (金) 出発 / 12月30日 (土) 帰国9日間
12月25日 (金) 出発 / 1月5日 (土) 帰国9日間
※国内線 大阪-五木 異時/福岡-東京 1万円
●世界最高峰エベレストの東9日間
●アンナプルナ・タワラリ東谷トレッキング9日間
●世界一美しい谷カンタラトレッキング5日間
●アベットの谷とシムラントラッキング9日間
●ネパール・エレベスト・ビューとゴッカラ9日間
この他に1.15コースも設定予定。

マウンテントラベルツアーデスク

主催 ヒマラヤ観光開発株式会社 0120-777802

運輸大臣登録一般旅行業1014号

東京 / 〒105 東京都港区新橋3-26-3 ☎03-3574-8880
大阪 / 〒530 大阪市北区梅田1-11-4-500 ☎06-346-0360



宮指路岳中腹より仙ヶ岳を望む

樹林の屋根の緩い下りが続き、細屋根に変わる左斜面にガレ場が現れた。ガレの上に踏み跡とテープの印が続いていた。下り終わり、高円山に向かう急斜面の登りは、檜林から雑木に変わり、石楠花が見られた。真っ赤なつばみ、咲き誇るピンク。そして早くも散り始めた薄いピンクの花々が続いてきた。緩い登りになり南に展望が開け

た。左に縦線峠を、そして水沢岳から宮指路岳へと続く縦線。眼下は元鏡谷の支流仏谷だ。ゆったりと広がる若葉色の樹海に混じる自然彩の濃い緑が美しい調和を見せていた。緩い登りを行くと、石楠花と雑木に覆われた高円山(945m)の山頂に着いたが展望はない。更に進む左のガレの上でみると、北方に展望が開けた。

左に綿阿山、正面には左右にゆったりと稜線を引いた雨を伝った。左の清水ノ頭は大ガレの地肌を何ヶ所も見せている。いろいろな角度から雨の音を眺めているが、この山からの眺めは女性的で優雅だ。ゆっくり眺望を楽しんでから引き返す。

林道に出て無線中継所に寄ってみると、大きな工事事務所が建ち、塔の右の山をショベルカーが削っていた。この山の上に何かが建つようだ。ダンブカーに追われながら下る。猪足谷の途中に、左斜面のコンクリートの遊壁から地下水がこんこんと湧き出ている所がある。この道を通る時はここでひと休みして喉を潤し、手や顔を洗い、水筒をいっぱいにして帰ることにしている。冷たくておいしい水である。

(平成7年5月27日歩く)

△コースタイム▽

元鏡谷林道ゲート(1時間10分) 猪足谷林道分岐(20分) 田村谷源流(20分) 縦線(20分) 宮指路岳(15分) 東峰(25分) 茶志ヶ岳(25分) 猪足谷林道(40分) 高円山(1時間20分) 元鏡谷林道ゲート

2万5千1伊勢

(山形野明)

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。
(定休・火曜日)
〒804 京都市中京区丸太町酒樓川東入
☎(075) 211-6768
☎(075) 231-0318

山とスキーの専門店

京都 ムラカミ

新ハイキング選書

- 【第6巻】再版出来！
花の山を行く
松本雪枝 著
その足跡の広い、山の花をたずねてのしみと記した紀行文集。
●上製本・B6判・約355頁
定価1650円(税別)
★好評発売中！
富田弘平 著
- 【第8巻】
旅がらすの山
富田弘平 著
北日本、東日本、中日本、西日本、南日本、四国、九州、北海道、東北の各地方をめぐって、山をたずねてのしみと記した紀行文集。
●上製本・B6判・約355頁
定価1800円(税別)
★三版発売中！
- 【第9巻】
一等三角点の名山100
富田弘平 著
北日本から沖縄まで、全国100ヶ所の一等三角点の名山の最新紀行文集。
●上製本・B6判・約355頁
定価1650円(税別)
★重版発売中！
- 【第10巻】
四季の山
沢 聰 著 画と文
春の山、夏の山、秋の山、冬の山と、春夏秋冬、四季の山をたずねてのしみと記した紀行文集。
●上製本・B6判・約355頁
定価1650円(税別)
★新刊・好評発売中！
- 【第11巻】
いで湯浴泉記
大石真人 著
あまり知られていない湯泉を調べた記事が多く、また、湯泉の歴史や文化についても詳しく記述されている。
●上製本・B6判・約355頁
定価1700円(税別)
★最新刊・好評発売中！
- 【第12巻】
東海自然歩道を歩く
後藤典重 編著
東海自然歩道を歩くためのガイドブック。
●上製本・A5判・約100頁
定価1300円(税別)
★最新刊・好評発売中！
- 【第13巻】
甲斐の山山
小林経雄 著
この本では、甲斐の山々をたずねてのしみと記した紀行文集。
●上製本・B6判・約355頁
定価1800円(税別)
★最新刊・好評発売中！
- 【第14巻】
百歳までの山登り
富田弘平 著
北日本から海外まで、その山々の歴史や文化をたずねてのしみと記した紀行文集。
●上製本・B6判・約355頁
定価1800円(税別)
★最新刊・好評発売中！

●振替でのご注文は 発行所 新ハイキング社 振替東京3-146315
送料当社負担 東京都北区滝野川 7-6-13 電(03)3975-8110

- ④ 屋敷山公園(新刊)
屋敷山古墳は五世紀頃築造の全長1500m近い前方後円墳で、埋葬主体部は破壊されて不明だが、公民館保存の「石室蓋等の遺物から、竪穴式石室に長方形石室を安置したと推測される史跡となっている。
室町時代には葛城の豪族布施氏が古墳を利用して居館を構築し、近世初期には新庄藩桑山氏が居館跡に陣屋を築設している。
- ⑤ 布施山(新刊)
屋敷山から大屋・寺口境界の森に鎮座する下照姫を祭る佛西神社に参詣し、寺口本郷の西端まで上がると、奈良盆地一望の景勝地に置置寺がある。行基の開基で文徳天皇の勧願寺となり、中世は布施氏の氏寺として栄えたが現在は無住である。町教委に依頼しておけば寺内で昼食休憩もでき、平安時代作の書文、十一面観音立像も拝観できる。
- ⑥ 葛木坐火(新刊)
置置寺から平岡・山口の大字山麓を伝い

笛吹神社
まで約30分はかかる。火雷大神・八雲山彦の他に四神を祭祀する明治の新社で、延喜の制では神位も高く忍海部の名神大社とされ、平安期の貞觀元年には正三位勳一等から従一位に昇叙している。

本殿裏の笛吹神社下墳は、家型石棺を安置した横穴式石室を見せる円墳で、この付近は笛吹連の本拠地と伝えられ、笛吹氏の墓ともいわれる。笛吹神社付近の丘陵には七十数基の笛吹古墳群が確認され、古墳後期の横穴式石室もいくつか確認されている。

健康なハイカーなら笛吹神社から御所市に入り、権蔵の篠三垣内から御所駅を起点とする葛城古道を歩くのもよいが、新庄町域で区切るなら忍海駅が終点となる。



⑦ 角刺神社(新刊)
笛吹の朱漆を束へ下をく、脇田の神社ほど、脇田神社の傍らに地光寺跡と角刺神社という礎石がある。

笛吹の小字の地光寺も地光寺跡というが、奈良時代の瓦や礎石が見られただけで寺跡は確認できていない。

脇田から東北へ向かい西辻の集落を経て忍海駅が近づくこと、忍海氏の氏神、角刺神社と元神宮寺である無住の寺、忍海寺がある。忍海の地は飯豊宮屋敷女が政務を執った角刺宮伝承地とするが、鳥女を祭る角刺神社が享保年間(1716-1736)に鎮座しているという確認はあるが、成立など一切不明である。

神社のすぐ東側が近鉄忍海駅で、尺土駅まで一駅。JR新庄駅へは1.5kmと少し遠い。



洞川自然研究路

松永恵一

山の幸

ヤマノイモ。野山に自生しているものは自然栽培。八百屋で売っている長い芋は中国原産のナガイモ。葉のような形のイテヨウイモ、太く短いトックリイモ、丸くゴツゴツしたヤマトイモ。ヤマノイモがうまくなるのは、葉がすっかり黄ばんでしまいう晩秋の頃。葉の付け根につくむかごは塩茹でにして酒の肴にしても珍味。

芥川龍之介は短編「芋焼酎」を著した。「芋焼酎とは山の芋を中に切り込んで、それを甘酒の汁で煮た、朝のことを言うのである。当時はこれが、無上の佳味として、上は萬葉の君の食膳にさへ、上せられた」。この「芋焼酎を飽きる程呑んで見たい」と熱烈する男の語。

の石像を拝み、二の門をくぐり、左手に道をとって右側の岩窟内の不動明王を拝んで少し進むと、弥勒の洞と呼ばれる水たまり。この水は龍泉寺の滝の口まで続いているという。

ここからふたたび二の門の先まで引き返し、朝の胎内潜りと呼ばれる左手の狭い道を進むと、大石手に賽の河原の地蔵、左手に役行者の隠れ堂と呼ばれる岩の棚がある。現在はここまでしか行けないが、この少し先にお龜石があり、そこから溝を越えて飛び石伝いに進むと石筍の滝があって、最後は油こぼしといわれるすべすべした岩に到達する。賽の河原の地蔵や隠れ堂の役行者を拝んで、朝の胎内潜りを終えて二の門の手前に戻り、その上方にある無明の坂を登って、山上権現河の前に出て、「雨無ひやく山上大権現」と唱えて洞窟を出る。

この雄嶺の岩屋の上手には編組の岩屋があって、この二つが並んで修行道場とされてきたが、今は全く用いられていない。入り口近くに等閑門、つづいて妙覚門、役行者の籠り洞、押分石を経て編組石、不動廻り石を経て少し進むと、役行者の護摩焚き洞といわれる広場に達し、そこに役行者が獲得した珊瑚の遺骸がもたれられているという。

キンナン。イテヨウになる実。漢字ではいずれも銀杏と書く。種の形が杏に似て皮が銀色でと明瞭。イテヨウは種を埋めたらよく芽を出すのが孫の代にならないと実がつかぬから公孫樹とも。葉が家鴨の足に似ているので中国語で鴨脚(イヤチャオ)と呼んだのがその名の由来。

火の通ったキンナンは翡翠のように透き通って美しい。口に入れると、ねとっとして、比較するものがない特有な香りと、ほんのりとした甘さが広がる。ただし、食べ過ぎると食中毒症状を起こすから注意。軽く叩いて、殻にひびきを入れ、フライパンで、実が透き通った感じになるまで煎り、軽く塩を振る。酒の肴にはこれが一番。ほめて飲む雄嶺杏の塩加減 星野哲郎

面不動鐘乳洞

昭和八年に梨元の橋本広吉さんによって発見され、井口晃さんが開発した。標高878mの鍾乳洞の入り口手前には、赤い洞の面不動が祀られ、洞川の町並みから山上ヶ丘頂上の大峯山寺を見渡せる展望台と軽食や山野草などを販売する休憩所が設けられている。

洞内は一年を通じて8度くらいで夏は肌寒いくらい。天井からつららのように垂れ下がる鍾乳石や、地表からたけのこのように伸びる石筍がさまざまな造形を見せてくれる。それぞれの石筍や鍾乳石には、天の花岡、獅子の窟、ちりめん天井、権現の窟、こうもり窟、羅漢窟、行者窟、しくれ窟、雲の峰、金糸の窟、銀糸の窟、男衆、女衆という十三の名称がつけられている。これらはどれも長い年月を経て自然につけられたものばかりだが、まるで彫刻のように細かく神秘的な美しさが感じられ、自然の力に思わず驚かされてしまう。

また洞内には、メクラゴミムシ、ガロアムシ、ナガコムシといった珍しい昆虫が生息している。また日本狼やテン、今では絶滅寸前のカワウソの化石も発見されており、洞内に展示されている。

鐘嶺の岩屋(洞窟) 近世以来洞川一の行場として知られた鐘嶺の岩屋は、役行者(役小角)が大蛇を封じ込めた穴として知られる。



鐘嶺の岩屋(洞窟)

近世以来洞川一の行場として知られた鐘嶺の岩屋は、役行者(役小角)が大蛇を封じ込めた穴として知られる。

岩屋の入り口で役行者と不動明王の石像を拝む。九穴とは穴は九つ身は一つ さぞや心はずしかるらん オンアピラウケンソワカ 雨無神変大菩薩 一の門とよばれる狭所をくぐり、役行者

母公堂

大峰の山に籠り日夜修業に励む役小角の身を案じて萬城の里からはるばる訪ねてきた小角の母「白華女」と修行者の伝説よとなつて洞川の里に住む小角の世話をしている役鬼「妙童」の二人が、里から半里ほど上ったところにある谷を渡ろうとして辺りを見ると一匹の大蛇がトコロを巻いていた。大蛇は長い蛇身を一杯に伸ばして二人の行く手をふさいだ。困り果てた母公と後鬼は、山登りは後日しようかと洞川の里に引きかえし、大峰の山に向かつて手を合わせ小角の身の無事を祈った。突然一条の光が輝き「阿弥陀如来」が現れ、「母君よ、後鬼よ、小角の身を案じる気持ちはよくわかります。小角は仏の化身となって衆生を救わんが為に、この山に金剛童子権現を祀り修行苦行を重ねています。修業が終わるまで山へ入ってはなりません」と告げると光の中に消えていった。今日、谷を渡らせず山に上らせなかつた大蛇は、「八大龍王」の化身であったのだと思い、母公はこの谷に庵を結び、里の人々に仏の教えを説きました。以来この谷を「蛇ヶ谷」と呼び、女人禁制の結界と定められ、堂宇を建立し母公堂と呼ばれ、母公(白華女)が祀られてきました。



母公堂

コース概観

今回のコースは、山上ヶ岳、稲村ヶ岳への登山基地・洞川の町をとり囲むように続くハイキングコース・洞川自然研究路を訪ねる。洞川は、自然にめぐまれた海拔820mの高地で、温泉が湧き、近畿ではめずらしい鍾乳洞、日本の名水百選の一つに選ばれた洞川湧水群のある山腹の別天地。自然に親しめるおすすすめのコースである。



結節質石灰岩(大理石)である。

少し上流に行くくと河原の濁。白い岩の間を水が流れ落ちる。何とも言えぬ水の空。とても神秘的な色で、フルートベースのような澄んだ青をし、太陽の光を受けてキラキラと光っている。色が変化する。深い緑だったり、透明に近い青に。なんだかかっ

近鉄古野線の下市口駅で下車。駅前から奈良交通バスの洞川温泉行きに乗る。9時15分発。終点の洞川温泉には10時44分発。

バス停の前の道をまっすぐに進む。すぐに八幡宮。一面不動鍾乳洞の立て看板がある。鍾乳洞の開闢の情報はこの看板に書かれている。杉木立のつづら折りのよく整備された道を登る。ミミ林が広がり足元にはごろごろ角ばった灰色の石が目立つようになる。横の岩肌を見ても同じ。これが石灰岩。ゆっくりと休み休み登る。秋が深まって、今まで黄ばんでいたものが褐色になり、あるものは黄色に変わっていた。ちゅっと思が流れかけ鼓動が早くなる頃に鍾乳洞に着く。展望台から澄みきった秋空を遠望すると、山上ヶ岳(1719.3m)の山容が聳えている。美しく雄大な山々、静かな洞川の里、ゆるやかな川の流が見渡せる。

少し戻り、「洞川自然研究路」の標識に従って進む。少しきつい登り。木の階段を登り切ると緩やかな下りになる。この辺りは龍泉寺裏の原生林。栗の巨木があったりする。右に下ると龍泉寺。山道に導かれるようにして進むと全長180mの吊り橋「かりがね橋」(高さ30m)。洞川の里が一望できるスリリングスポット。気持ちのよ

ても気持ちがよくて、眠くなってきた。目を閉じるとせせらぎの音だけが耳に届く。五感がすっかり穏やかになってきた。

この辺りの岩は花崗閃緑岩。石灰岩の層に後からマグマが上がってきて、冷えて固まって花崗閃緑岩になったと考えられている。道は右に山上ヶ岳、左は杉の植林となり毛又橋へと続き、さらに石畳の道が大峰大滝(滝壺水深5m、女人橋)へと続く。

河原の滝から少し進む。右に登り自動車道路に出る。そこは母公堂。安産祈願の霊場。また、洞川温泉のバス停へ戻ろう。少し進むと左に古野登山道がある。この登山道では以前、磁鉄鉱の採掘をしていた。河原橋の少し上流の崖に赤褐色の筋が右上に延びているのが見てとれる。これが鉄の鉱脈。鉱山跡からすぐに環境庁指定日本名水百選の「ころも水」。しばらく進むと、五代松鍾乳洞への登り口がある。昭和六年九月に赤井五代松さんが発見した全長二千以上に及ぶ鍾乳洞。入り口に役行者、中央あたりには不動明王を安置する。稲村ヶ岳への登り路がのびる。

蛇の台七尾山を登山基地とする「修験師 徳相木道場」の総本山がある。蛇の台は滝壺。洞窟、岩に刻まれた摩崖大雲天菩薩

い風が吹き、サラサラと木の葉の揺れる音がする。そしてすがすがしい緑色の空気の匂い。体全体で自然を感じとる。

吊り橋を渡って登ると展望台に至り、さらに登り、急な坂を登ると鐘の音と鐘の音と出る。吊り橋から下り、自動車道路に出て方にとると大峰山麓鐘の音と出る。しばらく進むと環境庁指定日本名水百選の「良の森」。洞川の里では、古来、村の入り口に守護神を祀って疫病や悪人が入るのを防いだ。樹齢三百年を超える御神木の奥にある洞穴から湧き出しているため「神の水」とされている。

寒水でのどを潤して、来た道を戻ろう。鐘の音の音を左折して洞川小・中学校へ向かう。山上ヶ岳を遠く眺めてさかのぼり、川原に出ると、対岸に洞窟がならんで見える。ここが洞川一の行徳洞窟の岩屋と鐘の音の岩屋。これらの洞窟も石灰岩の洞窟。切り立った大岩壁も石灰岩からできている。

山上ヶ岳をさらにさかのぼると、川原に真っ白な石が目立つようになる。河原橋で降りて川原に降りて観察してみると、グラニュー糖を固めたような白く小さな結晶が見える。これは石灰岩が高熱を受けてできた石灰石で、鐘の音の岩などがある。昭和二十七年頃からこの地で修行した洞川の山口神直が霊薬を得て開教した。

15時40分発の最終バスに遅れないようにバス停に戻ろう。山里の秋の日は暮れるのが早いのか、もう夕陽がたなびき、夕陽の支度の香があたりにスーッと流れた。

コースタイム

- 近鉄阿倍野橋駅(特急約1時間)下市口駅(バス約1時間30分)洞川温泉(15分)面不動鍾乳洞(20分)かりがね橋(30分)鐘の岩屋(15分)母公堂(40分)洞川温泉バス停(近鉄下市口駅)近鉄阿倍野橋駅
- 〈費用〉
- 近鉄阿倍野橋駅<下市口駅 840円
- 洞川温泉<下市口駅 1280円
- 〈地形図〉 2万5千1洞川・弥山
- 明文社「56大峰山脈」
- 〈問い合わせ先〉
- 大峰山洞川温泉観光協会 07476(4)0917
- 奈良交通古野 07475(2)4101
- 面不動鍾乳洞 07476(4)0352
- シーゾンの予約 0931
- 入海科 大人400円 小人200円

四国三県境の山

さんぼうじ やま

三傍示山

初級コース(★)

尾野 益大

縦横にがっちりと肩を組んだ四国連山の(ヘソ)を三傍示山(1157m)という。徳島、高知、愛媛三県の境にあって、三角点のある山頂は三県境の地点から200mばかり北方に寄っている。周囲からはあまり目立たず、その存在感は薄いが、西の尾根上に立つ笹ヶ峰と併せて登れば、歩き過ぎず、かといって歩き足りないというほどでもなく、足八分で、地理的に興味深いこの山のハイキングが楽しめる。

はるばる他県から来る人には気の毒に思うが、アプローチはマイカーかタクシーに頼るのが便利だろう。笹ヶ峰トンネルの南800mにある登山口までは、JR徳島線の池田駅から愛媛県の新宮を通過するか、

十津線の高知駅から大豊を経由するか、どちらにしても2時間足らずで着く。

そこから地図上の点線にのるわけだが、その登山道は、高知の立川から愛媛の新宮へ抜ける注進道とも重なっている。旧官道すなわち参勤交代路であって、藩士の行列が折々に通った道である。笹ヶ峰まで登る途中、龜の甲羅に似た幅の広い石畳が今も残っていて、深い情緒を醸し出している。北の笹取峠の下は「腹包丁」という地名も残っている。急なその坂では、腰に差した刀が地面につかえるのを防ごうと、行き交う武士は腹の前で刀を水平にしたのだという。藩属には藩主が休憩した「立川御殿」と呼ばれる建物もある。奇棟造り茅葺きの平屋建で見学料を払えば入れてもらえるから、婦りにでも立ち寄ってほしい。

登山口から杉林、リョウブ林と抜けると、間もなく峠に辿り着く。「従北愛媛県 従北高知県」と書かれた大きな柱が目前に現れてど肝を抜かれる。西の小さな高みへ向け、ひと息で登ると狭い笹ヶ峰(1016m)の山頂である。土石山へ連なるゆつたりとした山並みと、周囲のしっとりとしたブナの大樹のおかげで心が洗われる。

三傍示山へは、いったん峠に下ってから

三県境に位置する三傍示山



東へ進むが、歩き始めには踏み跡の薄い箇所もあるから慎重に行動してほしい。倒木も所々にあって迂回を余儀なくさせられる。スズクケが出てくると、道ははっきりしてくる。平坦だった尾根が次第に迫り上がりだすと、左手に三傍示山が木の間越しに覗く。しかし、まだかなり遠くに見えている。

尾根が決まってきて、丈余のスズクケを

かき分けながらの登行に変わってほどなくひよっこり分岐点に出る。ここが正確な三県の境で、標高は1130mを示している。南へとれば猛ブッシュを分けて立川越へ下ることができ、北へとるなら、我々がめざしている三角点の埋設された山頂に着く。おとそを10分、ラストスパートをかける。小



笹ヶ峰直下の時



さな起伏を過ごしつつゴールインとなる。昔は三県を結ぶ街道があったというのが、今はその痕跡もない。北の剣ノ山へは微かな踏み跡はあるが、向こうみずにヤブをかき分けるフアイトがなければ絶対に割って入れない領域に見える。豊富な広葉樹の大木が手招きしているが、誘惑に負けてうっかり首を突っ込んでしまわない。笹ヶ峰から来た道程を考えても、往時の道は既に埋もれて久しいからだ。

山頂は、比較的切り払われていて明るく、広い天辺ではあるが、眺望は西方に法皇山脈の一部が見える程度で決して爽快感には結びつかない。四国山脈のヘソという地の利を思う時、損な気分をもよおさせるほどに貧しい無難といえよう。ただ、森のオクタイプの響きが届いてくるほどに、ひと気のないたたずまいに静けさが一帯に満ち満ちて、ついにのんびり息を吐いたくなる雰囲気ではある。

下りも往路を戻るが、くれぐれも北方へ踏み込まないように気をつけたい。三県境を過ぎると「こんなにもきつかったのか」と思わせるほどの下り坂が続く。昭和24年5月、この山が震動してやまなかつたことがあったといわれる。京都大学

地質学教室の調査で、地下に横たわる大断層の地殻運動によるものだということが分かったが、もしもこうして歩いている途中で、不意に「グラッ」ときたらどうしようかと思う。深いスズクケに覆われているから、少々地割れなら地下茎の根っこに助けられて大丈夫だとは思って、やはり恐ろしい。想像が勝手に頭の中をぐるぐる廻り巡って、無意識に歩くりズムが早くなる。

高知自動車道がこの裏下を貫通している現在では、止んだかに思われる地下の自然の動きに代わって、騒々しいエンジン音が、微かに土を伝わってきているのかもしれない。

馬鹿尾根のそぞろ歩きとなり、時から左へ石段を下り始めると「想像の多かった世界」は徐々に遠ざかってゆき、20分の歩行を経て車を置いた登山口の道路に降り立つ。(平成5年12月9日歩く)

▲コースタイム▼
登山口(30分) 峠(2分) 笹ヶ峰(1時間50分) 三県境(10分) 三傍示山三角点(1時間10分) 峠(20分) 登山口
▲地形図▼2万5千野麻池山
▲問い合わせ先▼
大豊町役場 0887(72)0450

2等三角点のある山

築地山と国東山

初級コース(★)
山形 歳之

築地山(築地山)

伊勢神宮を流れる五十鈴川の源流の築地山(414.8m)は、伊勢市と南勢町との境の剣峰から、東に延びる山麓の端にある。築地山は地図にも山名が入っていないが、山頂からは英虞湾や五ヶ所湾の素晴らしい展望が得られる。



築地山付近略図

大阪から名取国道を単山に向かい、関インターから伊勢道にはいる。伊勢西インターで降りて伊勢神宮内宮に向かい、観光客で賑わう観光バスの駐車場を抜けて五十鈴川沿いの林道に入る。剣峰を通り五ヶ所湾に抜けるこの林道は狭くて大型車は通行不能である。

川の対岸に神宮の手洗い場を迂回見て、神宮のさわめきから開放されると車も人影も途絶えた静かな林道になる。林道は五十鈴川の清流に沿ってどこまでも進んで行く。神宮の神域と思われるこのあたりに田畑や民家が点在している。川はだんだんと細まり、やがて道は谷と離れて、小型車でも幅一杯となり、樹林の中を、曲がりくねって登って行く。

剣峰に着くと、今までの展望のない険気な道は明るく開けて志那の海が広がる。剣峰は野口雨情の歌碑や標示板が立ち、四、五首の駐車が可能で、五ヶ所湾方面の展望が素晴らしい。飲めないかも知れないが清水も湧き出している。南勢町の方は、囁も広く明るく開けた道が五ヶ所湾に下っていた。

築地山はこの味の伊勢刺から入る。道標はないが林の中を稜線に向かって踏み跡が延びている。

延びている。稜線の道は落ち葉がいっぱいで、あまをり歩かれていないが、不明瞭な所は稜線を外さず築地山に東に向かえばよい。用



で全く展望は得られない。やがて前方が明るくなると山麓の東端に出る。ここが築地山山頂である。右の散らばる山頂の前からは英虞湾から五ヶ所湾が一望できる。

三角点の側に立つ右柱には「従是神宮宮城」と刻まれている。そばの木にぶら下がる山名板には筑地山と築地山の二つの名が記されていた。それにしても、展望のない被線から一気に境界が開けた明るい山頂に出ると、気分まで晴々とした。

- △コースタイム▽
伊勢神宮から車で(45分) 剣峰(35分) 築地山(30分) 剣峰
- △地形図▽2万5千1五ヶ所湾
5万1伊勢 20万1伊勢

国東山

伊勢道を勢和多賀インターで降りて、国道42号線を北上する。仁田で伊勢に向かう道に右折して原の村に到り、さらに右折して山神に向かう。車道に「玉城温泉販売所」の看板が出てくるので、それに従って販売所に行く。温泉と書かれているのでひとと



国東山山頂



国東山山頂

目をと期待していたが、田圃の中の埋め立て地に小さいプレハブ小屋が建つ無人の鉱泉自動販売所であった。神様痛や皮膚病、切り傷に効く薬用の鉱泉で、10日金500円也である。

ここに国東山の案内板もあり、この先の伊勢道を潜って「弘法石」の所から登山道があるらしい。深浴の林道を走ると、突き当たり小さいお堂があり、周囲に沢山の赤い旗が立っていた。お堂の中には大きな石が祀られていて、これが弘法石である。

お堂の前の広場に車を置いて、右に延びる林道を50分ばかり進むと道標があり、左の尾根に登山道がある。

地図には山頂にお寺と神社マークがあり、旧国東寺参道を登って行く。栢林の中展望のない道を尾根を回り込むと、石灯籠が一つ現れる。あちこちに石垣や建物の礎石らしいものがあり、昔の寺社の繁栄をうかがわせる。

南の平生からの道を合流する。この道標で私の登って来たほうは国東山口となっていた。

少しコンクリートの打たれた階段を登ると道は二つに分かれ、右に山頂。左に三角

点と記されていた。

先ず国東山(410m)に向かう。狭い築山状の頂上は林に囲まれ全く展望がない。小さなケルンと「夜奈東」の石柱が立っただけである。

分岐に戻って三角点(375.1m)に向かう。三角点は国東山より一つ北西の峰にあり、一度大きく下って登り直しとなる。こちらの方は踏み跡程度の草の被る稜線の道となる。今までの良かたので道の悪さが目立つが、狩猟禁止の看板等が立っている。やがて小旗の立つピークに登りつくがボールの下に標石がない。どうやら測量用の変位原らしい。ここからは南東が開けて宮川方面が眺められる。三角点はさらに50分ばかり東の林を抜けた所に設置されていた。これも展望がなく、東の栢林が少し見えるばかり。

帰途は、三角点より標高の高い国東山が大きく見え、登り返しが辛いがそれほど時間にかからない。

- △コースタイム▽
弘法石(45分) 国東山(20分) 三角点(20分) 国東山(35分) 弘法石
- △地形図▽2万5千1国東山 5万1伊勢 20万1伊勢

ブナ林とススキ原

和泉葛城山から大鳴山

中級コース(★★★)

見晴 弘幸

和泉山脈は大坂府と和歌山県の府県境を東から西へ、紀見峠・三國峠・和泉葛城山・四石山・雲山峠・畑石山・大福山・札立山・高森山の名だたる山を連々60キロわたって連ねる山脈で、西の端で紀淡海峡に没している。

日本の土だった山々が山岳宗教によって開かれていたが、ここ和泉山脈も同様に山岳宗教の祖といわれる役ノ小角によって開かれ、その本拠地がここ和泉葛城山といわれる。

金剛・和泉山脈の山中には葛城修験道の行場が設けられ、二十八宿が設定されたという。法華経二十八品を一品ずつ山中に埋めて経塚をつくり、その地を行場としたもの。

ので、和泉山脈西端の一ノ宿のある友ヶ岳に始まり、金剛・和泉山脈の諸峰を巡って終着は二十八宿の大和川、亀ノ瀬に至っている。そして十九の宿が和泉山脈の山中にある。

また和泉葛城山はブナ林とススキ原という二つの顔をもつ山で、秋のススキが有名な。山頂付近では、夏はオートキャンプ、冬は耐寒登山を楽しむ人々で賑わっている。

一方、和泉葛城山の西には葛城二十八宿の第八の地にあたる、大鳴山七宝滝寺がある。大峰山より六年早い開山とされている。寺の名は境内にある七つの流に由来し、不動谷の溪谷沿いには不動堂をはじめ、伽藍が点在し、寺院を取り囲む峰々を総称して、山号は大鳴山と呼ばれている。

ここでは、比較的紹介されることの少ない、和歌山県側から和泉葛城山に登り、大鳴山方面に至る縦走コースを紹介しよう。

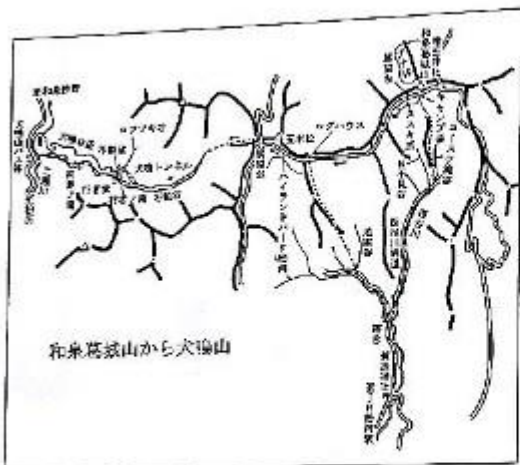
JR粉河駅下車。タクシーで賀茂神社に向かう。和泉葛城山の南麓、巨杉に囲まれた賀茂神社には、奥の天然記念物の大イチョウが枝を広げている。幹周り5メートル以上もある大樹だ。名手川を渡り、二俣の落合を右へ、西谷川林道を北上する。しばらくして

和泉葛城山のススキ原



N T Tの無線中継所が真上に見えてくる。

草深い林道がつまると、左手の小堰堤を伝ってコースヶ滝谷を渡る。ブッシュをかき分けて小流を渡渉、文尾根に取りつく。左手に目不見谷、文字通り日の光も射さない樹林の谷を見下ろしながらの道だ。赤松が茂る疎林帯の急登となる。よく踏み固められた道となり、クマザサを分け入ると和泉葛城山テント場のある芝畑の間に飛び出る。背後に龍胆山脈が横たわり、高野・大峰の峰々が波のように連なっている。茶店前の階段を登ると、和泉葛城山山頂に達する。山頂の和歌山県側には第三神社の小さな



洞が、また大坂府側には石ノ宝殿が、それぞれ仲良く背中合わせに祀られている。以前は、和歌山県側が信仰の中心で、石の宝殿は近世に入ってから、岸和田藩主が築造したものだといふ。

山頂の西寄りには展望台が建ち、足元にはススキ原を中心に360度の大パノラマが広がっている。紀ノ川を挟んで龍山・飯盛山がそびえ、振り返ると大坂藩・関西新形港・淡路島をはじめ、遠く六甲山系の山々まで見渡せる。

下山路は後継道を西へ、五本松方面に歩を進める。和歌山県側が大きく切り開かれ大明るい道で、ハイランドパーク粉河と呼ばれる、レクリエーション施設が左手に開けてくる。エリア内には展望台をはじめ、キャンプ場・野外ステージ・ターゲットパードゴルフ場・遊歩道等が整備されている。しばらく行くと泉州から紀州粉河に抜ける峠越えの道、五本松の分岐となり、道が二分している。

ここでは右に1000ほど進み、左の大鳴山方面への道を下る。やせ尾根を過ぎると急下りとなり、大鳴林道と合流する。不動谷に沿う林道歩きが続く。大鳴トンネルがほつかりと深い穴をあけている。大鳴トンネルを抜けてから、コツツキ谷を渡り、左下の大鳴不動堂前の急道に下る。左にとると、不動堂で、さらに腹に進むと行者堂に

突き当たる。背後に高さ12メートルの行者ノ流があり、時には滝に打たれて行をする人の姿もみられる。

ところで、先ほどの大鳴トンネル入口の左手、少しのブッシュを覚悟して、谷道を下降すると、行者ノ滝落ち口となり、大天井ヶ岳、元山上ヶ岳と呼ばれる行場があり、すぐ下の行者堂前まで小流が続いている。行者堂を後に、不動堂下の分岐まで戻り、不動谷に沿ってうっそうと茂った原生林の中の参道を下る。少して、大鳴山号の由来となったという幾大の墓もある。両岸がせげまり、左右に迫る山肌の紅葉を眺めながら石畳の道を下っていく。やがて七宝滝寺門をくぐり画界ノ流を見送ると、大鳴山パス停はすぐのところとなる。

▲コースタイム▼

- JR粉河駅(タクシー15分) 賀茂神社(16分) 落合(50分) 小堰堤(1時間40分) 和泉葛城山(1時間10分) 五本松分岐(40分) 大鳴トンネル(20分) 行堂(40分) 大鳴山パス停(南海バス30分) 南海泉原野駅
- △地形図▽2万5千1内編・粉河
- △問い合わせ先▽
- 粉河町観光協会 0736(73) 3311

芦生演習林

三國峠 (三國岳)

初級コース (★) 内田 嘉弘

「芦生原生林を中心とするこの地方では、峠といっても山頂を意味することが多く、演習林にはいつている三國峠・ブナノ木峠・金針峠あるいは天狗峠などは山頂である。谷がきついで、一度登ってしまおうと登り歩くのが楽な尾根道が、よく使われたためであらう」(「京都の杉・ブナ」著者山本浩二)とあるように、三國峠と「峠」と付いていて山頂を意味している。

なお、針畑川沿いの近江側の集落ではこの山を三國岳(みくにだけ)と呼び、南にある959呎のほうは三國岳(さんごくだけ)と呼ぶそうだ。



見られる。そこは「三つ池の内・長池」で、水はないがまた池の名残りがあつた。三國峠の頂上直下、にこのような池があるというところは、昔は森だつたのだから。ここから1分ほどで三國峠(みくにだけ)の山頂であつた。比良の武奈ヶ岳、地蔵谷山・百里ヶ岳に、遠くびわ湖の東にある金針岳・伊吹山・盛仙ヶ岳、北方には双耳峰の青森山が望める。帰りは、クチクボ峠へ。頂上直下の先程の長池をもう一度見て下る。広葉樹林帯の中、に一直線に切り開かれたのびやかな尾根の下りで気持ちがいい。スギ、アカマツが現れ出すとクチクボ峠で「○経路」と刻まれた道石がある。○は空が判読出来ないのではなく、○印になっている。○は何を意

三國峠からクチクボ(チベクボ)峠へ、針畑川に沿って県道299号線を渡り、朽木村中校で左折し、生杉まで入ると前方に丸い三國峠のピークが見えだす。そのまま進むと峠林道に入る。若走路谷(ワカシノ谷)の登山口を通り、二つ目の谷のカーブの出合いに、トイレ、休憩所と四、五台は駐車できるスペースがあつて、三國峠登山口である。そこにはブナの原生林とこれを巡る遊歩道の案内板があつて、

ブナの原生林(樹高3000cm) 昔、遊歩道では海拔6000〜7000以上の冷涼な気候の山地に、ブナ林が発達していたと思われませんが、大部分が伐採されたため、今日ではわずかしが残っています。ブナ林を構成する樹木は、春に新芽を出し、夏には葉を広げて茂り、秋に紅葉して落葉するものが多いので、「可憐な落葉樹林」とも呼ばれ、季節の變化を顕著に表す木の代表です。

- (生杉でのブナ林を構成する主な植物) 高木・垂木木蘭 ブナ・ミズナラ・イタヤカエデ・トチノキ・ホノノキ 低木層 ブナ・マルバマンサク・オオバクロモジ・ハイイヌガヤ 草木層 リョウモンスダ・シンガシラ。

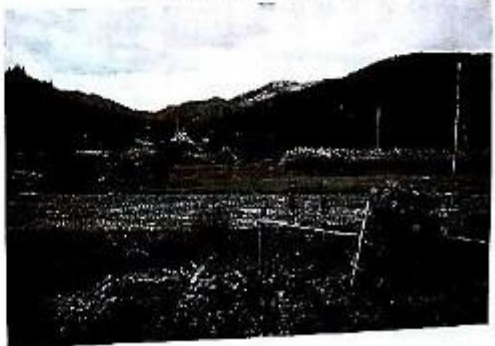
味するのであるか。生杉へ下る若走路谷は杉林で、右からの谷との出合いからは水の流ればなく伏流になっていた。

▲コースタイム▼ ブナの原生林案内板登山口(5分) 遊歩道の最高点(30分) 三國峠(20分) クチクボ峠(25分) 若走路谷登山口(30分) ブナの原生林案内板登山口

地蔵峠から三國峠

久多川合町から針畑川を渡り大宮神社から左へ、生杉を過ぎて峠林道に入った。若走路谷を過ぎ、二つ目の谷の出合いにはトイレ、休憩所、駐車できるスペースもあつてここからでも三國峠へ登れる(参照)。舗装路はここまでで、林道は地蔵になりうねうねと地蔵峠(675m)まで続いていた。峠の最高点には、「險若心経・延命地蔵経・一石二字路」と刻まれたには寛正十年七月吉日と記された石塔と鉄の扉があつて、車止めになっている。油断林道入林受付所(台の上)に祈願しているだけ)で入林申請書を書き込み遊歩林に入る。3分ほどの下りで社会と出合ひ、その谷沿いの道を上流へ向かう。谷沿ひには「マサミの生態調査中」

生杉より三國峠 (三國岳)



オオイワカガミ・マサミ

園崎庁・遊歩道

と書かれている。

いきなり急な階段の登りで始まる。広葉樹林を巡る遊歩道はりの字に付けられていて、その最高点から三國峠への山道が延びている。少し急な登りで支尾根上に抜けるとブナの木が一本ある。ここから緩い登りで二度ほどのアップダウンを繰り返すと、クチクボ峠からの尾根との合流点に湿地が

と遊歩道がありアザミが多い。その他にもソノバ・アキチ・ウジ・アキギリも咲いていて咲いていた。ブナ林の中、由良川源流の枝谷はゆったりと流れている。二保で右の谷に入り、三國峠の西の鞍部にいったん近づき右へ、頂上直下を登くようにして登りきると山頂であつた。地蔵峠にある道標には「三國峠一・三ヶ 25分」と書かれてあるが、少しきつく、35分はかかる。

「近江・石叢・丹波の国境 第四回馬木村山行会登山大会記念」と書かれた柱が立ち、三角点の周辺には切り株の腰掛けがある。展望はよく、森のような三國峠、この近くでは旗を抜く比良連峰の武奈ヶ岳、端正な姿の地蔵ヶ岳、少し尖つた地蔵谷山、三角形を覆った百里ヶ岳、西にはシンコネが若丹国境尾根から少しはみ出しており、南西にはブナノ木峠が頭を出していた。山頂にある備え付けのノットを巻くと、マンカに出てくると可愛らしい少女の絵が描かれて、家族連れで楽しく登つた様子が窺える。

▲コースタイム▼ 地蔵峠(35分) 三國峠 ▲地形図▼ 万々千々古屋・久坂 5万1小浜・熊川 最寄りバス停留所 江石バス「生杉」

在原業平ゆかりの古道

おおうとこ越

初級コース(★) 柴田 昭彦

江戸時代に刊行(1771年頃)された、わが国で最初の百科辞書『和漢三才図会』の巻第七十五には、次のような、河内国高安郡の記述が見られる。...

阪府八尾市大森から谷道を登り、奈良県生駒郡平群町福貴郷字大森に至るもの(途中で十三街道に合流する)であるが、その呼称は一定せず、おと越、おうと越、おおうと越と呼ばれ、漢字では音讀、乙越、大戸越、大森越、追跡越と記され、一方、明治時代の地図には、大森に至る道なので、大森越の記載もみられる。...



大森より(中央の谷がおおうとこ越)

と」と書いている。電柱が見つかると、これか、黒い文字による手書きの案内表示が壁、ガードレールなどにも出ている。大森よりもう少し風雅な道標を設置してはいいものだが、と思いつながら、案内に従えば、いつしか、「左おおうとこへ」と彫られた石標と「南無阿彌陀仏」と刻まれた念仏碑の立つ所に着く。...



立派な道標で、なかなか味わいがある。道標に従って右へ曲がり、コンクリートの舗装道を進んでいくと、両側に花卉栽培の菊やいろいろな花が見られる。...

ここからは、樹元の消防団などによる案内表示がたぐさん出てきて、迷う心配はない。石がゴロゴロしている所や、静かなせせらぎの中を歩いたり、ヤブ・ササ・雑木の中の道を進んだりして行く。...

さて、「一方の谷に沿って右へ登る」という案内を左側の木に見つける頃には、登り口から序までのほぼ中間地点になる。さらに進む、「あと300mで十三峠」の案内が出てくると、八合目付近。少し登ると、目立って大きな石が出現する。...

- コースタイム
近鉄服部川駅(40分)登り口(1時間)峠(10分)地蔵尊(1時間)近鉄香田川駅
地形図(2万5千)信長山
参考
「大森越」と記したもの
(一六四八)一六六四年頃の「河内國高安郡」
(一七五五)「河内國高安郡」
(一八八八)「大阪府管内地誌」巻之二
(一九三三)「中河内群誌」(一九三三年刊)所収の「中河内群日地誌」(前掲)
「追跡越」と記したもの
(一六七九)三田伊久著「河内縣名所記」

[新ハイキング選書]
●日本山岳会選定●

各定 5判 320頁 (書店発売中)
A 価 1600円

第15巻 日本二百名山ガイド
東日本編

第16巻 日本二百名山ガイド
西日本編

発行所
新ハイキング社
東京都北区滝野川7-6-13
〒114 電話03(3915)8110

- ・一六九七年 菊本智保著「日本國花萬葉記」(内閣文庫所蔵)
- ・「追善録」と記したものの
- ・一七二二年原刊 寺島長安著「和漢三才図会」
- ・「首越」と記したもの
- ・一七四九年「河内國地圖」
- ・一七五四年「河内國地圖」
- ・「乙越」と記したもの
- ・一九五二年「大和地名大辞典」43頁 平野村大空編貴臣の小字地名
- ・「大百越」と記したものの
- ・一九七七年「八尾市史文化財編」268頁 (徳島県立総合資料館による)
- ・「大百越」と記したものの
- ・一八七〇年「増補改正河内國細見圖」(中ノ島國史館所蔵)
- ・一八七五年「改正河内西國細見圖」(夏大徳市史資料館に所蔵)
- ・「ひらがな表記」
- ・一六七九年「河内縣名所記」三三頁
- ・おとこへ をふとうこへ
- ・おふとうこへ をうとうこへ
- ・一七二二年原刊「和漢三才図会」(寺島長安著)(東京大学蔵)
- ・ヨワタンコへ
- ・ヨフタウコへ
- ・一八〇二年「河内名所図会」(伏見藩蔵)
- ・一六九七年「日本國花萬葉記」(菊本智保著)
- ・おとうへ 文化三年(一八〇〇)
- ・もうとこへ 天保十一年(一八四〇)
- ・おとこへ 天保十四年(一八四三)

連載

山岳夜話 (第12回・最終回)

小泉誓純

決別への旅立ち

その後彼女は、両親に内密で旅券の申請やニールパス、各種の資料などの入手を進めた。すべての準備が完了するまでに一人旅の計画が発覚すると、反対されるのが目に見えていたからだ。

たとえ少しの間でも、ぼくが同行できることになった場合でも、彼女は親に一人旅だと言っばかないことに変わりはない。ツアーに参加するなどとの場合は、すぐに発覚する可能性が極めて高い。

そしてぼくは、彼女に進言すべく、使いやすそうな和紙付きのポケット独和辞典やドイツ語会話の小冊子を選び一方で、外国での注意事項や困ったことが生じた場合のぼくへの緊急連絡方法などを、編みささない

ように細巻紙に包んで送った。やがて8月に入ったが、この時点でもなお、ぼくにはヨーロッパ行きのめどが立たなかった。

だが白河には人並みに夏休みがあるので、ぼくは一人で東北の山へ出かけた。彼女のほうは、もうすぐに出発が確定していることとあり、「日割病」もあって、今回は同行しなかった。

だが、出かけてはみたものの、この時の山々はぼくに何のよるこびも与えはしなかった。山々はみな灰色に見えた。いやカラーが無いと言っばきか。まるで夢の中の景色のようだった。

単独行をこれほど寂しく味気なく感じたのは、この時が初めてのことだった。数えきれぬほどの単独行、そしてまた鬼気迫るような窮地での孤立感を覚え、ときには開

き直ってはお返し、ときにはそれを心地好いものとして受けとめ得た単独行をも重ねてきた身であるというのに――。

ぼくにあって、彼女の存在がどれほど大きいものであるかを感じ知った。しかも別れの日は遠くない。ぼくは彼女のいない恐ろしい世界をかいま見てしまっておのいた。そしておののいている自分に強い失望を感じた。

出発の前日、午後三時ごろに彼女は新大阪駅に着き、予約しておいた駅近くのビジネスホテルのフロントまで、一着に入る。

彼女がチェックインするのを、ぼくはフロントの前のソファアに坐って見ていると、彼女はエレベーターに乗ろうとしながら、ぼくに向かっていたすっつっばい目で、「パンないようにして、あなたもルームまでおいでよ」という意味の手招きをした。

彼女の部屋でしばらく話したりベッドに入ったりしたあと、旅行社へ格安航空券を受け取りに行き、保険手続きもすませる。そして地下鉄で梅田へ食事に出かけ、スカイルームへ上がった。

「大阪で食事するのは初めてだなあ」「そうね、わたしは降りて外へ出たのも初めてだし……今日はあとで御堂筋を歩いて

みたい」

「わかった。じゃあ、そうしよう」

「……絵ハガキ出すからね。手紙も出すと
思うけど、主に会社の方へ」

「じゃあ、手紙の一通ドイツ語にしてくれ」

「いやだあ——」

「どうしてだ？ 家のオレの部屋にずっと
残しておくのに安全だ。英語はヤバイ」

「読むのと会話はともかく、書くのは苦手
なの」

「まあそう言いな」

「じゃあ、赤ペンであっちこっちにXをし
て、あとで送り返したりしないって約束し
てくれる？」

「ハハハハ、そんな実力はないよ、こっち
は。今となってはね」

「もう、わかっているんだからあ……」

「フフフ、じゃあ、ともかく約束はする
よ」

「じゃあ、アテにしないで待っててね。永
遠に届かないかもよ、ウフッ」

御堂筋を心斎橋まで歩いてその夜は別れ
た。この時点で、ぼくが彼女のあとを追う
ことができないことは、ほぼ確定的になっ
ていた。だが、ぼくはそれを口に出さなかつ

空港で、搭乗後に開封するように言って、
ぼくは小さな白封筒を手渡した。そこにぼ
くは、その時までに彼女から贈られた短歌
への返歌を記しておいた。

— Gute Reise! (行ってらっ
しょうい) あとから追うこともできなくなっ
た。ゆるせ。

幸せを 願いて嫁に出す春は われ台高に
天女魚 訪ねむ Dein 誓純——

雨の降る大阪空港から、彼女は南回りで
チューリッヒへ飛びたって行った。空港で
の別れは、列車と違って非情なものである。
それが救いでもあった。

苦しみの果てに彼女が持ち帰るであろう
結論を、われもまた受けとめねばなるまい。
愛子のいない世界——それがもともとぼく
の世界だったのだから、そこで生きられぬ
筈がない。そう信じて生きてみるほかはな
いだらう——。

すぐに彼女から速達航空便が会社に届き、
次いでその中に予告されていた日時に電話
が入った。

ぼくがあとから何とかして来るものだと
ばかり思っていた彼女にとって、空港で手
渡された封書の内容は大きなショックだっ

言った。

「世界を股にかけた恋ね、これは、ウフッ……」

彼女はそう言ったあと、涙ぐんだ。

「映画の題名か？ それは、ハハハッ」

ぼくは照れて茶化してしまっただが、その
直後に、悪いことを言ったかな、と思っただ
うもこんなクセは治らない。

サンモリッツに一泊して、セガンティー
ニ美術館ではアルプスの画家として有名な
ジョバンニ・セガンティーニの絵を見た。
音楽と同様で、やはりナマの画面には迫
力があって、二人して大いに感動した。

そこから近いエンガディン博物館には、
この地方の昔の暮らしぶりを伝える生活道
具類や民芸品が、古い民家をそのまま活か
して展示されていた。

部屋の入入口の低さやベッドの幅と長さ
から、この地方の人たちもつい数百年前ま
では、現在の日本の平均的な成人よりも小
柄であったことが何れ、労働が厳しく、
栄養の摂取状態も充分ではなかったことが
推察できた。

薄暗い展示場で夫婦の寝室を見ていると
き、彼女は軽く腕をからませてきてささや
いた。

「ウフッ……すいぶん狭いベッドね。わた

たとのこと。そして「なんとかして来てほ
しい。アコの一生活の願い……」だった。
そしてぼくは、彼女のその切実な声に耐え
きれなかった。もともとぼく自身も、すぐ
にでも飛んで行きたい気持ちを懸命に抑え
ていたのだから、もうどうにも自分の気持
ちを抑えられなくなってしまった。

会社を辞めることになっても仕方あるま
いと覚悟したうえで、一方的に半月ほどの
不在を社長に言い渡して、結局ぼくもスイ
スへ行くことにした。

会社を辞めてもよいという気になっ
てしまえば、気分はスッキリとした。彼女とぼ
くにととの掛替えのないチャンスを失う
ことに比べれば、会社の一つを辞めるくら
いは小さいことのように思えてきた。しか
し、会社を辞める覚悟でスイスへ行くこと
は、彼女に決して言うまいと思っただ。

そして待ち合わせる場所は、イタリヤと
の国境に近いスイス東端のサンモリッツ
とした。スイスを代表する高級保養地とも
言われている高原と湖の地である。

バスポートは持っているし、ビザも要ら
ない国のことなので、すぐに出発できた。

ぼくもまた、値段の安い南回りで行くこ
とにして、SQ(シンガポール航空)で飛ん

し、あんなのはいやあ……」

「イヒヒ・アイホ(オレもだ)」

信じたがいほど小さなダブルベッドであつ
た。

その日の午後から旅を始めることにした。
彼女はユーレイルパスを、ぼくはスイスバ
スを使って一等車で移動しながら、各地で
登山電車、ケーブルカー、ロープウェイ、
リフト、ポストバスなどを利用して旅を進
めていった。

いろいろなパンやワイン、ソーセージな
どを選んで買うのも楽しいもので、それら
を持参して湖畔での昼食を楽しんだり、さ
さやかな頂上に立ってみたりもした。

しかし、いわゆるいうところの登山はまっ
たくしなかった。彼女の「こんなときにも
し事故を起こしたら、二重の意味で大変な
ことになる」という慎重論を聞き入れての
ことだった。

ぼくは、四千メートル級とはいえず、ブラ
イトホルン、ユングフラウ、メンヒ程度の
山なら、ガイドめがめのアベック登山もよか
ろうと思っていたのだが、そのようなわけ
で、あっさりとおきられた。

「スイスまで来ていながら、わたしと一緒
のために、あなたが山に登れないのを申し

だ。シンガポール空港での長い待ち時間を
円で飲み食いなどして時間を過ごし、バリ
行きに乗り換え、ドバイを経由してチュ
ーリッヒに着いたのは朝だった。

まずは両替をし、地下の鉄道駅で15日間
通乗する一等のスイスパスを手に入れて、
列車でサンモリッツへ向かった。

プラットホームに立って待っていた彼女
は、一等車の停車位置をあらかじめ知ら
なかつたらしく、大きなザックと大きなショ
ルダーバッグで降り立ったぼくを、遠くか
ら見つけて走り寄って来た。そして跳びつ
くような勢いで抱きついてきた。

しばらくは無言でそのままの姿勢でいた
あと、ナント彼女はまともにロングキッス
をした。そこが外国であり、しかも西洋で
あることが、彼女にそんな勇氣を出させた
のだろうか。

ほんのしばらくだが、抱き合ったままの
話になった。

「お元気ですか？ おバカさん」

「うん。……ごめんね。無理言って……
でも、来てくれてうれしい。……よかった」

「あやまることなんか何もないぞ。オレが
来たから来たんだからね」

ぼくは彼女から上半身を少し離してそう

寂しいと思う」

彼女は再度かそう言った。

山屋としての彼女が心底からそう言っているのが、ぼくにはよくわかった。

だが、ぼくもまた、心から未練なく登山をあきらめることにしたのであって、この地ではばい彼女と共に過ごせること以上には、何一つほしいものはない心算だった。

そして二人には再びないであろうこの日々を、彼女の思い通りに過ごさせたい気持ちでいた。だからコースや利用列車にも口出しはしなかった。

ところが、思いがけなくも、三日目の夜に彼女はこう言った。

「あなたの行きたい所も言ってみて。あるんでしょ？ わたしの行きたい所なら、どこでもいいと言ってくれるのはありがたいことだけれど、わたしにはさびしい気もする……」

「そうなのかな……わかったよ」。

ハイキングコースに関しては、ぼくには特に行きたい所も、行きたくない所もなかった。だからアコの望む所へ行こうじゃないか。

アコが満足すれば、オレもそれで充分に満足だ。そんな気持ちだった。

しかしその夜から、ぼくも何度かは大ま

かなコース選定をすることにして、途中で立ち寄る場所などの細かな点は、彼女の好みに任せた。

やがて彼女もぼくの気持ち——登山に未練を持っているのでもなければ、物足りなしい思いでハイキングをしているのでもなく、またもちろん無理に彼女の好みに合わせているのでもなく、それなりに充分に楽しんでる——がわかって、一抹の気がかりやさびしさも消えたように思えた。いつもの彼女のように、よくはしゃぐようになった。そしてそれをぼくもうれしく思った。

普通のホテルのほかに、彼女が出発前から望んでいた自炊設備のあるホテルにも滞在してみた。それはグリーンデルバルトとカンドンデルシュテークのことだったが、中でもカンドンデルシュテークのそれは、なかなか良いものだった。駅から遠くもなく、広い表通りに面していて一見高級な感じを受けたが、彼女が外で待つと言うので一人で交渉してみると、意外に大した値段ではなく、独断で即決した。

まずはその日の夕食の材料を買うために、二人で外出しようとしたとき、値段や滞在期間の交渉相手だった美人のフロント嬢が彼女に声をかけてきて、「お部屋はお気に

入りましたか？」とにこやかにたずねた。

「大変なところらしいです」とドイツ語で応じた彼女は、

「これじゃあ広いだけが取柄みたいな答えかだったね、ウフッ」

と唇をすくめて笑った。

彼女は、広いことだけではなく、厨房や家具調度などを合せて全体を気に入っていたのだった。だが、すくく広いという第一印象が先にパンと口に出してしまったそうだが、このルームにはほどよい厨房があって、調理用具、自動洗い機、冷蔵庫、各種の食器を並べた戸棚などと食卓用テーブルがそろっていた。ほかにはホンモノの暖炉の前に10人用程度のいわゆる恋愛セット、小さな書架、そして納戸もあり、隣りのこじんまりとした寝室にはダブルベッド、ヤンレサ、三点セットが置かれていた。小さな天窗を開けると、寝たままでも星空を眺めることもできた。

彼女は「あんな所から写されたら、ポルノ映画ができちゃうね」と笑っていたが、「いざ行動」というときにはそれを閉めた。

ぼくは反対したのではあったが、

このほかにも花に囲まれたテラスがあって、白い丸テーブルと椅子が置かれてい

た。

このホテルで数日間、彼女のオイシイ(手料理を味わったのだが、飲みながらの長い夕食中に交したある日の会話の一部分だけが、特にはっきりと印象に残っている。

それは、ぼくのごく軽い冗談から始まった会話だった。

「オンの人生観を一言で言うとなあ……」

「が山、二に酒、三友、四が女、というところだなあ」

「ウフッ」

彼女はいたずらっぽく目をした。

「何がおかしいんだ？ フフッ」

「あなたの自己認識は間違っている、ウフッ」

「なんだとお？」

「二が女で二に愛子、三四が山で、五がお酒、アハハハッ」

「このヤロー、ゆるさん、ハッハッハッ……じゃあ、アコのはどうなんだ？ 言ってみろ。今すぐだ」

「一が純さん、二も純さん、三四が山で、五がお酒、ウフッ……」

「うん。その自己認識はタダシイ！ ハッハッハッ」

彼女が言った「女」が、「そもそも女と

いうもの」を意味しているものと、ぼくはそのとき単純に解釈したが、少しあとで考えてみると、「あなたの奥さん」の意をやらせて、あるいはぼかしての表現であると思え取れないこともない。そんな思いをしたことがあったから、今も記憶に残っているのだろう。

このあとツエルマットへ行き、翌日から毎日、マッターホルンの麓へ含めて、日曜りでハイキングに出かけた。その間には気分転換のために、ホテルを一度換えてみたりもした。

ぼくはチューリッヒから帰るので、再び東方面へ向かうことにして、夕刻にツエルマット駅へ行き、翌日の「水河急行」の座席を予約した。

マイエンフェルトという小さな田舎町で列車を降りたのは、ぼくたち二人だけだった。

ここはスイスの女流作家が書いた「アルプスの少女ハイジ」の舞台となった村なのだろう。一泊したが、いかにも彼女が行ってみたいような所だな、と納得した。

翌日は、ハイジの泉などを巡って散策したが、特に目立つ景観はないものの、ひ

なびた雰囲気は、ぼくにとっても好ましい土地だった。

マイエンフェルトからはさして遠くないミニ国家・リヒテンシュタイン侯国へ立ち寄り、中央駅に着いたのは夕刻で、ここまでの旅では初めての火都會泊まり、しかもスイス第一の都市でということになった。

ぼくのフライトは明日の夜だが、列車事故などで方が一にもチューリッヒ到着が遅れることはないようにと用心して、翌日に近い所まで前日に戻っておくことにしたのである。

落ち着いてとることのできる彼女との最後の夕食は、雨の降る夜の街へ一つの傘で出て、彼女のリュエスタを受けて中華料理とする。しばらくおぼろで箸を使うことになった。

雨と雷鳴の夜は明けて、とうとう彼女とは別行動になる日の朝がやって来た。都会ぎらいの二人なのだが、その日の恐ろしい都会の朝曇り色に、お互いにとって感慨深いものがあった。

天候は回復していたが、夜更けまで起きていたこともあって、ホテルには十時ごろまでゆっくりと居た。そしてのんびりと市

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 叡電 京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

- 近鉄**
- ▽万歩ハイキング・歴史街道を行く・シリーズ大和十三仏巡拝「第2回」(大和・中之坊) 11月3日(祝)雨天中止(集合大阪線二上神社口駅10時)コース：二上神社口駅→兼堂→祐榮寺→二上山馬ノ背(テックポイント)→岩屋峠→兼堂→当麻寺(中之坊)(赤不動著)→当麻寺(約9分)→金野無料(拝観料)カサ400円(前夜)参加自由、上本町事業06(775)35666
 - ▽ミステリー・ロマン 飛鳥65「飛鳥ミステリーウォーク・クイズで楽しむ歴史街道」11月3日(祝)雨天中止(集合大和線飛鳥歴史公園前)9時30分/10時30分コース：(吉野線)飛鳥歴史公園前(明日香村内めぐり)→石舞台平石広場、金野無料、参加自由、天王寺事業06(624)038210
 - ▽遠征ファミリーハイキング「紅葉の香る香る辺と柿狩りハイキング」11月6日(祝)雨天中止(集合吉野線市口駅9時45分)コース：下市口駅→広瀬川→栗原→栗原→木崎→橋原→竹本(福徳園)園内食
- 京阪**
- ▽大阪府下市口駅(約6分) 会費大人800円/小人700円(バス代大人760円/小人390円)は別途、定員200名(電話申し込み制) 天王寺事業06(624)008210
 - ▽文学散歩・歴史街道を行く(古代) 大和・山背の国境地帯・西大寺 11月5日(祝)雨天中止(集合奈良西大寺駅10時)コース：西大寺駅→西大寺→秋篠寺→盛徳大菩薩→日蓮宗(坂田)→松林苑→秋篠寺→添田山神社→松林苑→松林苑(約7分) 会費300円(講師関西大学教授橋本一氏、参加自由、上本町事業06(775)35666)
 - ▽約歴セブンマウンテン・30周年記念「御在所岳登山」11月12日(祝)雨天中止(集合11日(祝)朝明公園にお集りください。)
 - ▽文芸朝明ヒュッテ下(コース) 新明茶屋「根の平野」上水屋 出合「地蔵谷」御在所(上水屋) 三交線の山温泉(約12分) 御酒曹3800円(昼食、弁当付) 参加費1000円、定員200名(電話申し込み制) 中学生以上で健康者、合園等不参加時は中止、名古屋事業
- 阪急**
- ▽大阪府下市口駅(約6分) 会費大人800円/小人700円(バス代大人760円/小人390円)は別途、定員200名(電話申し込み制) 天王寺事業06(624)008210
 - ▽文学散歩・歴史街道を行く(古代) 大和・山背の国境地帯・西大寺 11月5日(祝)雨天中止(集合奈良西大寺駅10時)コース：西大寺駅→西大寺→秋篠寺→盛徳大菩薩→日蓮宗(坂田)→松林苑→秋篠寺→添田山神社→松林苑→松林苑(約7分) 会費300円(講師関西大学教授橋本一氏、参加自由、上本町事業06(775)35666)
 - ▽約歴セブンマウンテン・30周年記念「御在所岳登山」11月12日(祝)雨天中止(集合11日(祝)朝明公園にお集りください。)
 - ▽文芸朝明ヒュッテ下(コース) 新明茶屋「根の平野」上水屋 出合「地蔵谷」御在所(上水屋) 三交線の山温泉(約12分) 御酒曹3800円(昼食、弁当付) 参加費1000円、定員200名(電話申し込み制) 中学生以上で健康者、合園等不参加時は中止、名古屋事業
- 南海**
- ▽大阪府下市口駅(約6分) 会費大人800円/小人700円(バス代大人760円/小人390円)は別途、定員200名(電話申し込み制) 天王寺事業06(624)008210
 - ▽文学散歩・歴史街道を行く(古代) 大和・山背の国境地帯・西大寺 11月5日(祝)雨天中止(集合奈良西大寺駅10時)コース：西大寺駅→西大寺→秋篠寺→盛徳大菩薩→日蓮宗(坂田)→松林苑→秋篠寺→添田山神社→松林苑→松林苑(約7分) 会費300円(講師関西大学教授橋本一氏、参加自由、上本町事業06(775)35666)
 - ▽約歴セブンマウンテン・30周年記念「御在所岳登山」11月12日(祝)雨天中止(集合11日(祝)朝明公園にお集りください。)
 - ▽文芸朝明ヒュッテ下(コース) 新明茶屋「根の平野」上水屋 出合「地蔵谷」御在所(上水屋) 三交線の山温泉(約12分) 御酒曹3800円(昼食、弁当付) 参加費1000円、定員200名(電話申し込み制) 中学生以上で健康者、合園等不参加時は中止、名古屋事業
- 神鉄**
- ▽大阪府下市口駅(約6分) 会費大人800円/小人700円(バス代大人760円/小人390円)は別途、定員200名(電話申し込み制) 天王寺事業06(624)008210
 - ▽文学散歩・歴史街道を行く(古代) 大和・山背の国境地帯・西大寺 11月5日(祝)雨天中止(集合奈良西大寺駅10時)コース：西大寺駅→西大寺→秋篠寺→盛徳大菩薩→日蓮宗(坂田)→松林苑→秋篠寺→添田山神社→松林苑→松林苑(約7分) 会費300円(講師関西大学教授橋本一氏、参加自由、上本町事業06(775)35666)
 - ▽約歴セブンマウンテン・30周年記念「御在所岳登山」11月12日(祝)雨天中止(集合11日(祝)朝明公園にお集りください。)
 - ▽文芸朝明ヒュッテ下(コース) 新明茶屋「根の平野」上水屋 出合「地蔵谷」御在所(上水屋) 三交線の山温泉(約12分) 御酒曹3800円(昼食、弁当付) 参加費1000円、定員200名(電話申し込み制) 中学生以上で健康者、合園等不参加時は中止、名古屋事業
- 山陽電鉄**
- ▽大阪府下市口駅(約6分) 会費大人800円/小人700円(バス代大人760円/小人390円)は別途、定員200名(電話申し込み制) 天王寺事業06(624)008210
 - ▽文学散歩・歴史街道を行く(古代) 大和・山背の国境地帯・西大寺 11月5日(祝)雨天中止(集合奈良西大寺駅10時)コース：西大寺駅→西大寺→秋篠寺→盛徳大菩薩→日蓮宗(坂田)→松林苑→秋篠寺→添田山神社→松林苑→松林苑(約7分) 会費300円(講師関西大学教授橋本一氏、参加自由、上本町事業06(775)35666)
 - ▽約歴セブンマウンテン・30周年記念「御在所岳登山」11月12日(祝)雨天中止(集合11日(祝)朝明公園にお集りください。)
 - ▽文芸朝明ヒュッテ下(コース) 新明茶屋「根の平野」上水屋 出合「地蔵谷」御在所(上水屋) 三交線の山温泉(約12分) 御酒曹3800円(昼食、弁当付) 参加費1000円、定員200名(電話申し込み制) 中学生以上で健康者、合園等不参加時は中止、名古屋事業
- 叡電**
- ▽大阪府下市口駅(約6分) 会費大人800円/小人700円(バス代大人760円/小人390円)は別途、定員200名(電話申し込み制) 天王寺事業06(624)008210
 - ▽文学散歩・歴史街道を行く(古代) 大和・山背の国境地帯・西大寺 11月5日(祝)雨天中止(集合奈良西大寺駅10時)コース：西大寺駅→西大寺→秋篠寺→盛徳大菩薩→日蓮宗(坂田)→松林苑→秋篠寺→添田山神社→松林苑→松林苑(約7分) 会費300円(講師関西大学教授橋本一氏、参加自由、上本町事業06(775)35666)
 - ▽約歴セブンマウンテン・30周年記念「御在所岳登山」11月12日(祝)雨天中止(集合11日(祝)朝明公園にお集りください。)
 - ▽文芸朝明ヒュッテ下(コース) 新明茶屋「根の平野」上水屋 出合「地蔵谷」御在所(上水屋) 三交線の山温泉(約12分) 御酒曹3800円(昼食、弁当付) 参加費1000円、定員200名(電話申し込み制) 中学生以上で健康者、合園等不参加時は中止、名古屋事業
- 京福**
- ▽大阪府下市口駅(約6分) 会費大人800円/小人700円(バス代大人760円/小人390円)は別途、定員200名(電話申し込み制) 天王寺事業06(624)008210
 - ▽文学散歩・歴史街道を行く(古代) 大和・山背の国境地帯・西大寺 11月5日(祝)雨天中止(集合奈良西大寺駅10時)コース：西大寺駅→西大寺→秋篠寺→盛徳大菩薩→日蓮宗(坂田)→松林苑→秋篠寺→添田山神社→松林苑→松林苑(約7分) 会費300円(講師関西大学教授橋本一氏、参加自由、上本町事業06(775)35666)
 - ▽約歴セブンマウンテン・30周年記念「御在所岳登山」11月12日(祝)雨天中止(集合11日(祝)朝明公園にお集りください。)
 - ▽文芸朝明ヒュッテ下(コース) 新明茶屋「根の平野」上水屋 出合「地蔵谷」御在所(上水屋) 三交線の山温泉(約12分) 御酒曹3800円(昼食、弁当付) 参加費1000円、定員200名(電話申し込み制) 中学生以上で健康者、合園等不参加時は中止、名古屋事業

内見物やショッピングを楽しみながら一日を過ごした。

彼女の英・独会話力ならば、ドイツの一人旅は、何らかのトラブルでも無い限り、まずまず懸念はないものの、女の一人旅という意味では、やはりぼくにはいろいろと気がかりなことではあったが、彼女に見送られて、夜の空港から先に帰国の途について。

彼女は西ドイツの旅を無事に終えて帰国したのは、10月初めの平日の午前十時ごろだった。

ぼくは出勤スタイルで大阪空港に出迎えた。そしてその日は、彼女の休憩を兼ねる程度に、彼女にとって京都までが遠すぎるような扉口辺りででも、この旅の総括的な感想など聞きながら、しばらくは共に過ごす心づもりをしていた。

しかし彼女は、ぼくがそれを言うより先に、「わたし、疲れているから飛行機で帰る」と言った。

「そうしようかな。(ここからそのまま帰ってしまった) いい？」というニュアンスはまったくなかった。

—彼女は見かけ以上に、ひどく疲れて

いるのだろうか。それも充分に考えられることではあるが。

しかも、たまたますぐの便に空席があった。そしてそのチケットをぼくは買った。この旅の、少なくとも航空運賃はぼくが助けてあげるといふこと、単なる延長線上のつもりでのことだった。

そして彼女が国内線のエスカレーターで昇って行くとき、ぼくは搭乗ゲートまで見送ろうともせずに、ただぼんやりとそのうしろ姿を下から見上げていた。搭乗ゲートまで見送るといふことが、まるで頭で浮かばなかった。

なぜだったのか。ぼくにはそれがいまだに判然としない。彼女の意外な態度にボカンとしてしまったのだろうか、という程度のことしか思い浮かばない。決して怒ってはいなかった。

彼女はエスカレーターの途中で振り返った。ぼくがすぐうしろに続いて来ているものと思っていたのだろうか。あるいはそうではなかったのか。それもぼくにはわからない。

ぼくは距離をへだてた鼻り口か手を振った。そして彼女も振り返った。

その一瞬、彼女がすでに遠い人になって

しまったように感じたことだけは、はっきりと憶えている。

そして一ヶ月近くが過ぎたころに手紙が届いた。それがぼくたちの終わりの時でもあった。

長文の手紙の最後のページには、三首の短歌だけが記されていて、彼女の自作になる「愛」という二センチ角の印が押されていた。幾通りにも解釈のできる、意味深長な印ではある。

共に在る 時間はいつもつかの間で濃縮密度の二人の想い出
 吾が君を 恋しく思えば思うほど 君をせつなくさせるせつなさ
 人生(ひとよ) かけて 愛してみたき人なれど 時の重さに為す術もなく

かつて彼女が語ったことがあった。一あなたとの別れは、突然ブツリと、という別れかたになるでしょうね。……最後の晩餐、最後の夜なんて、あまりにせつなくて、わたしには耐えられそうにもないから……」

ぼくは複雑な思いで、それを思い出していた。(完)

神宮寺(谷川土清田宅)反古塚・
福蔵寺(津新町)約10分)会費
無料(参加自由、名古屋事業05
93(54)7007)

▽近鉄登山(霧氷の大台ケ原)
11月23日(祝)雨天下中止集合5時
和上市駅前9時(コース)大和上
市駅→大台ケ原→日出ヶ岳→正
木ヶ原→尾鷲辻→生石ヶ原→大蛇
窟→シオカラ谷→太田駐車場→大
和上市駅(約9分)気象条件によ
り霧氷が見えない場合があります。
アイゼンは必ず所持。会費無料
(バス代大人3960円小人19
80円は別途)定員300名電
話申し込み制、天王寺事業05
(624)038223

▽スペインイベント「第2回生
駒・信貴パノラマハイク」11月
23日(祝)雨天決行集合(エクスパ
ートコース)生駒駅前ケールの前
8時〜9時、「ファミリアコー
ス」ケール生駒止上駅前9時〜
10時(コース)「エクスパートコー
ス」生駒駅→宇山寺→生駒止上駅
大塚の森「なるかわ園地」
→ぼくの広場→鴉川峠→十二峰→
信貴山(約1時間)生駒止上駅→(エ
クスパートコース)と同じ、完歩

者全員に踏鞴茶パックをプレゼ
ント会費500円(参加自由、上
本町事業06(775)3566
▽万歩ハイキング・歴史街道を行
く・シリーズ大和十三仏巡拝「第
3回円城寺・新薬師寺」11月26
日(祝)雨天下中止集合奈良磯野鉄
道駅前9時30分(コース)近
鉄奈良駅→円城寺(大日如來・木
甲年生まれ守り木尊)→味茶屋
(チェックポイント)→地獄谷→
新薬師寺(養父如來)→近鉄奈良
駅(約12分)会費無料(拝観料一
カ寺400円とバス代大人580
円小人290円は別途)参加自
由上本町事業06(775)35
66

▽文学散歩・歴史街道を行く・志
願の寺子たちシリーズ⑤「大津三
子の巻」12月3日(祝)雨天下中止
合南大阪線→上神社口駅前10時
(コース)上神社口駅→如守神
社→倉堂→鳥谷古墳→祐泉寺→
二上山馬ノ背→慶谷寺跡(竹内
街道)→老徳天皇陵→上ノ太子駅
(約10分)会費300円、講師大
阪成蹊女子短期大学教授岡田保造
氏(参加自由、天王寺事業06
(624)038223
▽近鉄沿線ハイキング「利益め

ぐり「若菜池」上野寺成就祈願(安
徳文殊院)12月3日(祝)雨天下
中止集合大阪線北改札前10時
30分〜11時10分(コース)板井駅→
安徳文殊院→若菜の森→護国寺跡→
おふさ観音→成徳院(約11
分)会費無料、参加自由、名古屋
事業0593(64)7007
▽万歩ハイキング・歴史街道を行
く・シリーズ大和十三仏巡拝「第
4回五山寺・信貴山」12月10日
(祝)雨天下中止集合大和ケール線
山寺駅前9時30分(コース)宝山
寺→宝山寺(不動明王・西年生
まれ守り木尊)→生駒山上遊園地
(チェックポイント)→鴉川峠→
十二峰→信貴山(玉蔵院・信貴如
來)→現地解散(約15分)会費無
料(拝観料一カ寺400円は別途)
参加自由、上本町事業06(77
5)3566
▽万歩ハイキング・歴史街道を行
く「初日の出・伊勢朝熊山御
来光登山」12月31日(祝)1月1日
(祝)小雨決行集合上本町駅前改札
前8時、大塚八木駅前約30分
(コース)上本町駅→八木駅→五
十鈴川駅→神宮前田ヶケール
朝熊山(御来光観望)→内宮(初
詣)→宇治田駅→八木駅→上本

月輪の滝・府民の森・くろんだ園
地(傍小交野野外活動センター)
交野いきものふれあいの森→交野
山→住吉福祉(約12分)交野市駅
(約12分)京阪電鉄事業部06
(944)2565

▽関西土曜ハイク「北摂中山最高
峰・旧福知山線コース」12月16
日(祝)雨天下中止集合宝塚自然休
憩センター(宝塚線中山駅下車)
出発10時(コース)シンボル広場→
足洗川上流→天宮塚→山頂展望所
→中山塔展望→長尾ダム→渡合
→旧土佐江立合新田→僧川→武庫
川溪谷→生駒(バス・JR)宝塚
駅*懐中電灯持参。阪急創遊開発
部06(373)5326

▽京阪
▽スポンチファミリアハイク「く
ろんだ園地・交野山コース」11
月23日(祝)雨天下中止集合(受付)私
市駅(約30分)コース 私市駅→

▽南海
▽蓬莱ヘルシーハイク「不動産が
ら(紅葉谷)」11月5日(祝)雨天下
中止集合野塚駅前9時30分
(コース)極楽園駅→不動坂→
院谷→女人堂→築合→紅葉谷→紀
伊神谷駅(約12分)参加自由、南
海総合サービスセンター06(6
43)1005

▽南海沿線今昔探訪「珠山池原古
遊園跡と探山池を訪ねる」11月
19日(祝)雨天下中止集合高野線さやま
遊園駅前10時(コース)さやま遊
園駅前→珠山池原古遊園跡→珠山
池→池の原→龍神神社→珠山神社→
金剛寺(15時頃解散)参加自由
南海総合サービスセンター06
(643)1005

▽朝日ファミリアハイキング「北
地蔵から府庁山へ」11月19日(祝)
雨天下中止集合国府野天宮前約時
30分(コース)天宮前→十二峰→
島地獄→府庁山→千早口駅(約11

町駅(約9分)会費上本町駅前大
木6000円小人3400円、八
木駅前大人3200円小人200
0円、定員150名電話申し込み
制、上本町事業06(775)3
566

▽第9回健康とふれあひハイキン
グ・ウォーキングトライ「荒川西
北の山里を歩く」11月3日(祝)雨
天は5日(祝)順延集合白鳥園天宮
境内(阪急京福線長岡天神駅から
徒歩8分)(上級・中級コース)10
時30分〜19時(初級コース)10
時〜19時30分(コース)(初級)
長岡天神宮→奥海印寺→浄土谷→
長岡スケート場前→民代橋→若山
神社(約8分)(中級)長岡天神
宮→奥海印寺→立石橋→中の谷→
大沢→ゴルフ場前→長岡スケート
場前→民代橋→若山神社(約14分)
(上級)長岡天神宮→奥海印寺→
立石橋→キャンパス前→小畑→善
峰寺→杉谷→観音岳→大沢→島本
町キャンパス場→長谷の尺代→若山
神社(約18分)*各コースハイキング
にはリコーテープがきまさんの各
級とも道標にしたがって各自でお
歩き下さい。阪急創遊開発部06

参加自由、南海総合サービ
スセンター06(643)1005
▽蓬莱ヘルシーハイク「和泉城
山から大明山へ」12月3日(祝)雨
天下中止集合南海線桑名野駅9時30
分(コース)桑名野駅→上本木バ
ス停→高輪山→高塚山→コケラ地
→和泉城山→半尾山→宇和川駅
(約15分)参加自由、南海総合サー
ビスセンター06(643)10
05
*右南海線車主催の当日の決行・
中止の問い合わせは難波駅前桑名
(6時30分から)06(631)
1351へ

▽神戸電鉄
▽静かな山里が伝統行事にわきた
つ「野宇佐八幡宮巨石踊り見物ハ
イク」11月28日(祝)集合JR宝塚
駅10時20分(コース)JR阪本駅
日出版→大谷→輪字(八幡宮)→
石踊り)→廿谷→波田→JR藍本
駅(約12分)参加自由、神鉄観光事業
部078(602)0022

▽手つかずの自然がいまつく「北
神の秘境津川谷ハイク」12月10
日(祝)集合大池畑天(大池東約20
0分)10時10分(コース)大池畑→
大池畑天→天下止→扇形池→天保

大池畑天→天下止→扇形池→天保

▽新ハイ関西サービスチェー
ン
各線二枚紙止、小冊子、大白傘・巾
子・熊頭(のぼり旗)1名でも送寄
り歓迎(送寄料約)送寄料は約
400円(送料別)

福島・二岐温泉
日観蓮 大和館
〒962-0121
福島市若菜町天竺1-12
TEL 0248-104111 FAX 0248-104105

秩父鉄道 クーポン券も
東武鉄道 利用できます
株父 不動の湯
〒366-08
埼玉県秩父市山田2-43-2
TEL 0494-231126

富士登山・富士五湖
東海湖自然探訪
三國山の麓
三國山の麓
〒401-06
山梨県南都郡山中郷村平野
TEL 0555-161851

本会事務局の中心
〒105-8401
東京都港区六本木6-10-1
バス20分(山手線)上本町駅前10分
電話 03-3409-1114 FAX 03-3409-1116
(山手線)

山小屋 福ちゃん荘
〒105-8401
東京都港区六本木6-10-1
電話 03-3409-1114 FAX 03-3409-1116
(山手線)

池ノ鳴川谷上法部一房生蔵主著
射 equal(其谷)(約13) 建田向
神鉄網遊出書部078 (922)
0021

山陽電鉄

▽山陽ハイキング「黒花のじま」
ハイク」11月5日(日)集合大谷駅
10時(コース) 大塚天満宮、黒坂
峠の形、八家地蔵、小赤城遊歩
道、木崎山、八家駅(約10)、家
宮、山陽電車ハイキング係078
(941) 6911636
▽山陽ハイキング「城山(兼山家
遊)・観音山ハイク」11月18日(日)
集合JR新橋駅10時(コース)
JR新橋駅、流山、流山、音助茶
屋、大塚寺、新津山、菊水山周
遊道、神鉄網遊出書部(約10)、一
般向) 山陽電車ハイキング係078
(941) 6911636
▽山陽ハイキング「仁徳山ハイク」
12月3日(日)集合鹿野駅10時(コ
ース) 妻鹿公民館、妻鹿城跡、市川
左岸、仁芽山、お旅山、妻鹿駅
(約10) 健康向) 山陽電車ハイキ
ング係078 (941) 69115
56
▽山陽ハイキング「鹿嶋神社・生
石神社ハイク」12月17日(日)集合

山陽電車ハイキング係078 (94
1) 6911636
▽京都・北野
▽京都ハイキング「カルチャーウォ
ーク」京阪沿線の史跡めぐり、11
月18日(土)・19日(日)集合京橋、四
宮駅9時(コース) 京橋、四宮、大
宮、長慶寺、西宮、角倉寺(約10) 一般
向) 山陽電車ハイキング係078 (941)
6911636
▽京都ハイキング「晚秋の嵯峨・北野
嵯峨原」11月27日(日)集合
京橋、四宮、大宮、長慶寺、西宮、
角倉寺、嵯峨原、北野(約10) 一般
向) 山陽電車ハイキング係078 (941)
6911636

奈良交通

▽奈良の大和路を歩く会「青嵐の
葛城・二上山麓の道」11月26日
(日)集合近鉄大和駅入和門9時
30分(コース) 近鉄大和駅、葛城山
麓、神本神社、新庄、葛城山麓、大
和、二上山麓(約10) 一般向) 奈良
交通係075 (78) 51
21

同「嵯峨神社・竹内、飯沼、上野、寺
山、岩田(約9) 一般向) 奈良交通係
075 (78) 5121
▽奈良の大和路を歩く会「うちき
す竹田・巨勢・三宅の原」12月
17日(日)集合近鉄奈良駅10時
10分(コース) 近鉄奈良駅、巨勢、
三宅、竹田、飯沼、上野、寺山、
岩田、岩田、上野、寺山、岩田、
上野、寺山、岩田(約10) 一般向)
奈良交通係075 (78) 5121
*参加申し込み制10日前までに往
復はがきで〒630 奈良市大宮町
1-101の25奈良交通「万葉の大
和路を歩く会」宛(問い合わせ)
0742 (2) 3100

□これ以外にも多数の催しがあり
ます。各社の広報を見て下さい。

高野山 平野山 飯沼山 上野山 寺山 岩田山
飯沼山 上野山 寺山 岩田山
上野山 寺山 岩田山
上野山 寺山 岩田山
上野山 寺山 岩田山
上野山 寺山 岩田山

ナガサキロッジ
〒049-21 新潟県中頸城郡
砂丘高原町池の平温泉
02655-861222661

湯の花 湯の花
〒049-21 新潟県中頸城郡
砂丘高原町池の平温泉
02655-861222661

湯沢池 ヒュッテ
〒049-21 新潟県中頸城郡
砂丘高原町池の平温泉
02655-861222661

おせらび

題字・小林波瑠三

5月22日(日) 岐阜県高鷲村の、
鷲ヶ岳及び陣笠山に行かれた。
鷲ヶ岳は、林道終点に物見壇山
号(小庄の車)を昇車して、一時
間少々で山頂に到着した。
山頂からは、足元を定めた山頂で、
乗機機、さらには晴んだ北アルプ
ス群峰を眺望することができ、大
満足を下山した。欲を言え山頂
に方位盤の設置があればと思っ
た。

所謂する小規模な山行同好会
「六人会」の7月例会は、(放射登
山・金峯寺)で、梅田明けの比良
を歩いてきた。計画は、全員でイ
ン谷口から正面谷をつめて金峯寺
へ登り、夏夜は二人組の三チー
ムに分かれてそれぞれの目的地へ
向かい、夕方には京都で再集合し
て、帰郷の宴という趣向だ。
金峯寺からの放射コースは、健
闘のAチームはワザビキから武蔵
ヶ原を往復して折山へ。私たちの
Bチームは普通道から東峰道をイ
ン谷口へ。そして、女性ペアのC
チームが八雲ヶ原を縦断して山上
駅からロープウェイとリフトを乗
り送いで下山。そのコース設定
だ。

らせば表出されるようにして、イン
谷口で下車。この会では、学生時
代からの親友である相棒と友人に
リーダーを担担しているのだが、
今回私はこの道で、単独でコース
説明のあと、用急してまた入山
届けを提出して出発する。
前日までその集の中は雨は止まらな
まだ心配の残る状態であるが、
本格的な夏が来た。暑い。早くも
大山口の谷水で顔を洗った。
金峯寺付近は注水注意とのこと
で、慎重に安全を確保して道の直
下へ。いつもはほとんど濡れた状
態の濡れが、この日は水流の落下
が表面を流すのが少ない状態に
なっていた。ほんの敷分で、快い谷
風が林山にしなわたり快適になる。
男さにあえていたのが暖かっ

秋野原 食入谷 秋野原
10名以上マイクロボスで遊遊
新根山石原温泉
福 島 館
〒049-08 神奈川縣厚木市下柳
新根山石原温泉
04660-419041
四季折々の温泉 秋野原のハイク
上野山・飯沼山・上野山・寺山・
岩田山・上野山・寺山・岩田山
上野山・寺山・岩田山
上野山・寺山・岩田山
上野山・寺山・岩田山
上野山・寺山・岩田山

ぐにつれて、眼下には琵琶湖の大パノラマが広がり、また、堂満北壁のガレ場が眼前に迫る。濃緑のブナ林を走り過ぎると、間もなく堂満岳山頂に登り着いた。

日曜日のことで山頂の小広場は大勢の人たちであふれていた。これではゆっくりできない。すぐに東横道を下りにかかる。急坂がおさまってきた辺りの樹林下で休憩をとる。パートナーから冷やした果物(缶詰)のおすそ分けがあり、真夏のハイクでは何よりのご馳走である。木陰を通り抜ける涼風との相乗効果で、疲れた体が一気にリフレッシュしたようだ。

山中の池、ノタノ湖には人影も無く静かで、神秘の雰囲がある。池の周囲の木々は、日本固有種のモリアオガエルの卵塊がボツボツがっていた。白い泡状の卵塊は、バレーボールを半分にしたほどの大きさで、見える範囲だけでも50個ほどもあった。ふ化した幼生たちは、池の中を元気に泳ぎ回っているのだ。

イン谷口へ7分、との道標の立つ所から谷へ降りて、顔や手を洗い、汗を拭いたのだが、比良の谷水は冷たくてありがたい。

盛り上がる前の、蕾をびっしりと被せた偏平な白い皿。直径五、七センチの白い皿が、皿回しの皿のように、か細い茎の上で一つつづつ乗っている。その皿は強い陽射しを反射してキラキラ光っている。木陰のものは青味を帯びて光っている。グラスファイバーの先端がチカチカ輝く置物みたいだ。いやそんな人工臭くはない。高野の笠か？ 真っ白に、あるいはうす青くキラキラ、キラキラ光る。世にも美しい蕾を見た。往復時間もかけた田舎があった。讚で良かった。でも、一つぐらいいびているのも見たかった。誰が名付けたのか、「白玉草」とは絶妙な命名だ。私の今年見た花の金メダリストにしよう。

(妻藤 弘子)

7月28日より、室津から五色ヶ原を往復して立山三山(淨土山・立山(華山)・大汝山)富士の折立・別山)と、大目三山(東大目岳・中大目岳・大目岳)を所友たちと休庵の中、憩室に知り懐大な山岳風景の中、憩室を満喫して来た。

室津から本水玉の湖を水筒に詰め、出発。室津岳の巻き道で、折立の空に霞む白山にみとれて、

定刻の19時には横川の納涼川床の一角に、全員が日焼けして元気に再集合。六人会では初めての試みの、放射登山の成功を祝って、乾杯！ それぞれの成果を披露した。

話は、未定の9月以降の観会の企画に移り、いろいろな案の中からまとまって、9月、10月と次々に決まり、紅葉の11月例会では、武奈ヶ岳への、これも初めての集大成山にチャレンジすることを決めた。(前中 毅)

ここ数年、おまじないのように口にしていた、オオヤマレンゲとシラタマホシタケをやっと見ることができた。

「大山蓮華」はなかなか花期にタイミングを合わせることができず、天女の花と呼ばれる別名に、種れを過ぎたてられるばかりだった。

7月9日、ついに福村を車で初々しい白い花を見ることが出来た。三井三層に重なるた九枚の花びらの裏に赤いシベがちょっと口紅をつけて着ているように見える。なるほど、モクレン科だ。蕾はハスに良く似ていると納得できる清

Xのペンキ印を見逃して岩窟の急峻な所に入ってしまった。油断大敵と一回気を引き締めて稜線に出る。

御岳山頂の雲海をトラバースし、ハクサンテドリ・ミヤマキスミシ・タカネナデシコの花などにアルプスの山を安んじた。獅子岩のお花畑の脇で外れたと思ったら、テリトリと滑り落ちてしまった。お花畑が「コブゴザア」と、鳴くので早々に腰をあげる。

秀峰業師岳を前方に見ながら一気にくだってテラ峠を越え、荒々しい立山カルデラの火口壁に目をのむ。雲霧と清流の五色ヶ原の草原に出れば、ハクサンコザクラ・サンカヨウ・タチヤマリンドウなどの可憐な花に連れられた。

五色ヶ原山荘で井筒山山頂美輪や極楽連峰、立ヶ岳などを眺めた登山を眺めながら入浴に感謝。極楽浄土なり。夜中にトイレに行くと外に出た時、大の嵐雲空に流れ星を見て、何万年の彼方に思いをめぐらせる。

翌日は折立を戻り立山へ。朝一番の山歩きからの急登はきついな。天正12年(1584)11月、高山城主、佐々成政と主税判人が雪の

遊な花だが、それにしても天女の花とはなんと大層な花か。特に赤色に着色した花が、いつまでも枝に付いているのはいたたけない。

緑のある時もあるので、7月20日に北アルプスの熊鷹山に登った時にも、そこかしこに咲いていた。なんだ熊鷹山にもあったのかと、ちょっと拍子抜けした。喜びと、かすかに失望も混じって、複雑な思いで眺めた花だが、いずれにしても美女であることには変わりはない。

さて、「白玉草」だが、これは正真正正、三河地方の原産種で、愛知県の天然記念物になっている。手帳に見られるのが豊橋の豊年温泉だが、一周別分程の深原に一日がかりで出かけるのももったいなく、延び延びになっていた。

8月27日、青森16キップで行って来た。写真で見ると、ワタスゲの頭が、真っ白な金平糖になったような、あるいは、真っ白な半球形のワレモコウか。

温泉で目を癒やすと、花びらが散って、白い雪が点々と落ちていくように見えたがそれが雷だった。雪の上に出たような小花が咲いて

山中、この峰を越え、針ノ木峠へ抜けたところ史実には謎。

一ノ越から雄川への急傾面の稜線は、石の数よりも人のほうが多いのでは、と思われほどの大混雑。人によっては過当な所を登るので滑き石が崩れハラハラ、怪我人も出て「産石注意」の看板がほしい所だ。

大原わいの山頂では神威にも寄れず立山の最高峰、大汝山へ直行し、雲霧期を眼下に昼食、岩峰の富士の折立で見る「望千里の大観は素晴らしい」、立山が後立山に影をうつす。夕日の時の大きじづかき」と、と川田順の絶唱(昭和11年頃の作)を聴く。

その日は雨雲決ヒュッテに泊まると身体がふやけるほど湿度に入り宴会で盛り上がり、夜は目が腐るほど強烈な朝陽にも入り、小原庄助さんと一行の出発と相なった。

大目連峰は花と絶望の山というだけあって、イワイチヨウ・シナノキンバイ・ハクサンイチゲ・タロユリ・コバイケイソウ・オヌガサノウ・コイワカガミなどなど、その百花繚乱の趣きに北岳などもビックリでしょう。また奥大目原から折立の間にある俊峰、望岳の

日本最南位の温泉
(24000村)
立山・室津車
みくりが池温泉
連絡先
〒930 富山市五福末広町
0764410434

ハイキングにノースキーにノースキー 石の湯ロッジ
バス 熊の湯温泉 車
0260342421
東京本社・東京都新宿区新大塚
1-20-5(新大塚ビル)
湯スポートサービス
03-3341-0211

道の道 千国街道
百八十七碑「観音原」
ホテル
白馬ブランチ
〒399-03
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
0261172-4452

館内より日本カモシカ毎日朝顔
以上へ、北アルプスの雄嶺、北アルプスの大断崖の湯、春は山菜等
屋敷田舎(温泉) 高山山荘
あるぞいん 高山山荘
〒3882 長野県上野原町
高山村山田牧場・奥山温泉
0262142-2527

春・秋 小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
0399190 長野県北安曇郡
白馬村八方和田野
0266172-53661

登山歴20年のオナーが白馬・小谷辺のお花遊りへ案内
テントキーパー
泊2食付き 6500円から
0399193

長野県北安曇郡白馬村おちくち
0266172-12151

八ヶ岳山北麓の中心地
39年秋新築完成金地温泉
木の香に癒やされる温泉
オーレン 小屋
1泊2食付き 6000円
4月水・11月天開祝
〒939102 富野市豊年2722 小室温泉天
0266172-12799

日本唯一の女人禁制の山「大華山(白岩山)の登山」
種々女性専用コースもあり
温泉・名水の甲
旅館 紀の国屋 甚八
1泊2食付き 7,000円から
〒939104 余吾郡志賀町大川川
074761410309

頭髪は天下一品で、今回はチャレンジャー出来なかったが「次回は絶対に新ハイトの美女と戦いたいナァ」と大膽なことを言った。湯煙、雪で滑り、天罰をきめんだ。

髪を取り直して受け場をくんだり裏やかな涼風を受けビークを越え、涼味満点のザクロ谷の源流で身体を拭き、喉を潤し清冽な水で冷やしたトマトを口に生き返る。

ささの何度となく流れを渡り返し、ニコウキスヶ吹く大日草の草原を経て、川音を聞きながら称名坂をくだる。最後は爽快な落差3500mの日本一の大瀑布、称名ノ滝が山脈のフィナーレを飾ってくれた。

立山駅前の千寿社の風呂(5000円)でリフレッシュしてから、男女々々、シニワと冷えたビールで賑やかに打ち上げて、一路熱帯後の我が家へ。(養生 功)

「傍参」
「山越の古道」(テカニシヤ忠徳)が紹介されたこと知り、書局に車を懐かしさと、嬉しさを覚える。

私たちの会の例会で記載されている全てのコースを踏破したいと思う。第一回は7月30日、従道橋を9名で出発。京橋、河内橋駅等から合流者がいて12名になる。

日没しが始く出発前から汗が出てくる。集落の細い道を歩く。あちらこちらに、石仏や石額があり、大きな門構えあり、やはり、古い集落だと感心する。

「弥生式住居跡」の遺構があった。この辺りは墓の伝説が多く「足祭り」もある。古代には、渡来人が多くいて、いろいろな生活が営まれていたと思える。

で、落ち葉に覆われて、少し急坂だが、歩きやすい。西側は岸壁、汗が出てくるが、足を止めることかな風が気持ちいい。

やはり古道、伏拝石や石仏、石仏が年輪を数える。10分ほど登ると左側に石の墓屋がある。階段を登ると手入れのゆき届いた道である。富士山に接する富士が眺められているが、ここはまたの機会に。

涼やかに、鼻唄が出るようにすると、車道に出た。また汗が吹き出してきた。あまりの暑さに首を上げる人も出始める。

増峠にも似た大阪側登り集落に入り、お寺の境内で昼食をとる。風があり、汗も引き、ゆっくりと休憩する。天然クーラーは気持ちいい。

九州の築山・日本百名山宮之浦岳に一番近い宿
久良島旅館宮之浦口
〒899-143
鹿児島県志布志市久町安部
電話 0997-4161300x1

ハイキング・キャンプに
鈴鹿国立公園
朝明渓谷 あさけ茶屋
〒510-112
三重県三重郡菟野町十草
電話 0599-9311788

○「せせらぎ」欄は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。最新の情報を掲載させていただきます。山行の報告文・思い出・感想など。又山歩きやハイキングについての提言やご意見、自然に関するさまざまな情報をお待ちしています。
一行15字詰め20行(800字)程度にまとめてお寄せください。常時投稿可。
新ハイキング関西編第25

7月30日、「三石山」山行に参加した。最近歩く機会がなく、自信はなかったが、頑張ろうと思っ

た。細幸寺駅から杉村公園を過ぎて山道にかかる。歩きやすい道だったが、だんだん坂がきつくなり、石が多く、歩きにくくなってきた。なるだけ軽くしてきたが、荷物が肩に食いこむ。

暑い。風がない。苦しい。足があがらない。頂上は涼しい……。もう帰ろう。ここからだっただけ戻れる。そう思って申し出た。とても残念だった。

三石山(ヘリター)や会員の方々が来て「ゆっくりにいから登ろう」と荷物を持って下まり、一番前を歩くことになった。皆さんから冷たい交差ドリンク、シャワーシートになったフルーツなどを貰い、疲れがスーと消えていった。皆さんに助けられて、ようやく三石山の三角点に立つことができた。初めて参加した山行でお会いできたことは、三石山の頂上に立てた感激とともに忘れられない思い出だった。皆様ありがとうございます。(本田 三石)

8月5日、北アルプス北ノ俣岳(2661m)へ飛越新道から神岡新道を経て登る。飛越新道は今年7月に開設されたばかりの登山路。飛越トンネル飛越入口登山道(1440m)が起点で、神岡新道(1842m)のゴランジ平付近で神岡新道に合流するが、従来の神岡新道と比較して登山者が少なく、楽なコースである。

神岡町の和佐府から飛越トンネルで峠越(坂本・草山)を越え、有峰洞裏谷を結ぶ三車線道路が開通しているが、飛越神岡駅からだとタクシー(2社あり)1万円程度で飛越トンネルに到着する。

飛越トンネル入口から峠越後線へ登り、東進して遠征道橋をくぐりゴランジ平まで所要時間約2時間。道橋が要所に付され、まだ峠かな道。ゴランジ平からは標高標で花も多く、美しいコースである。寺地山と北ノ俣岳の中間約2000m付近の北ノ俣避難小屋(6人収容)に泊まるが、水場も小屋内にあり、いい小屋であった。

なお、詳細は神岡町観光局057-8(2)22854へ問い合わせるとよい。神岡新道についてはガイドブックを参照。(篠原 英明)

8月20日、奥吉野・前鬼の宿坊は何かざわめいていた。弥山へ行くといって、行方を絶って一週間経つ遭難者からのメモを、沢歩きの人から偶然見つけてくれたのは非常に前運だった。日付は書いてないが、大体的場所が分かるという。

小柄な妻が上司らしい人から「メモが見つかったので安心して下さい」と言われ、何事もなかったようにのが印象的だった。

翌日、私は宿坊を弥山へと出発した。遭難者が入り込んだと思われる孔雀岳の東は、果てしなく谷が深く、よくもこんな所へ迷い込んだものだと思った。付近に水場があるとガイド地図に書いてあるので水を求めて入ったのかも知れない。

後で無事救出を知ったが、いっただん道を見失うことの恐ろしさを思い知らされた山行だった。(大井 洋)

きた。だが、ケーブル駅先の道路改修工事現場を過ぎると待たぬ災の形勢は見るに及ばなかった。

白石の滝、白雲の滝の側を右ナズリルを感しながら登って行く。やがて左右二つの砂防ダムのある所に着く。水が濁り始めて感じの良い着て泳ぎにする。例会でも昼食をとった同じ場所であった。

右岸温泉の鉄分を飲む温泉とラジウムを含む源泉に交互につかり生き返る思いがした。いつ来ても「いい湯だな」。しみじみと元氣で山歩きできる幸せを感じつつ、宝塚行ききの阪急バスに乗り立温泉公館でも入浴できる。(山科 邦彦)

毎年11月12月にかけてはともろしやが無い。くせであるかのようにかせをひくのだ。春の花物症と

は縁がなく、夏かせもひかない。真冬の寒さも半端ない。だがこのシーズンにはどんなに気をつけていてもなせか体をこわしてしまふ。

よってこの時期、山へ行くことも少ない。過去七年で七回だけである。うち四回が武茶ヶ岳だった。日曜日ともなる。この山とびわこバレイ日曜日のハイカーでJR湖西線は混みあふ。今や武茶ヶ岳は観光客も多く登ってくる山となった。

今年のこのシーズン、どこに登ろうか。いいアイデアはないものだらうか。もちろんいつもの武茶ヶ岳へは登るつもりだ。

(野藤 哲哉)

雪の若杉山

数年前の1月上旬、家から歩いて三郡山系の若杉山(6881m)に登った。その日は雪が積もっていた。私はこの時、唐の詩人柳宗元の「江雪」という詩を思い出した。

厳冬の山の雪は樹木をいっそう美しく見せ、枯れ葉が舞い落ちた樹木に白い花が咲いたようだった。山に登って良いことは、世間のわずらわしい交際や無感語を忘れ

て、自然との暮らしがでさる。この頂上にはいたし、雪が激しく降ってきた。まわりの山や下界がまったく見えなくなり、この世に私ひとりだけが生き残ったような素晴らしい幸福感を味わったものである。

街で仕事をすることから解放された山登りの、下山途中、トボトボと歩きながらの思ひ出にふける。人生そのものなどを考えることは楽しいことである。(武田 昭)

兵庫県の背景をなす、10000坪の峰の集中する播磨・白馬の山行を計画する時、集合時間か、ネットクになる。あまり早いと遠方の人の参加が不可能だし、遅いと登山口へ遅れるバスの時刻に間に合わない等で、いつも頭を悩ます。

今のところ、播磨に在住の会員の人にマイカーの提供をいただいで山行を実施している。これからも市販のガイドブックに載らない山を含め、四季折々の播磨の魅力ある山を案内したいと思っております。

そこで、どのような希望や方法があるのか。これまでに採行の山々へ入山された時の交通手段などを

ご教示下さい。

いただいた資料は、これからの山行計画・コースガイドの参考にとして活かしたいと思います。

(須藤 樹)

8月山行寄稿

- 5日 関西地域の会例会、I△大台ヶ原山(2万5千1八公ケ原山)9日、参加68名、夕立に連舞。
- 9日 II△行前岳(同)十津川温泉(一)へ、計39点、96%。
- 19日 点のついで例会、II△笠木(同)山戸(一)案内、参加25名。
- 20、21日 ふしちキャンプ村講陣、洞川キャンプ場。II△大天井(同)洞川(一)案内、参加22名。
- 23日 大和水紀行講師、洞川湖水群(同)洞川(一)案内、参加22名。大夕立と雷に連舞。
- 25、27日 関西地域の会例会、行前山小原岳、南奥(同)大塚山、山一(同)池原、II△笠木山、III△三本杉(同)大沼一、I△玉置山(同)十津川温泉(一)案内、参加24名。
- 29日 大和温泉会例会、洞川小南温泉(同)松ヶ谷温泉(同)寺戸の田大(同)山道案内(同)洞川(一)案内、参加22名。(上田 佳弘)

山行計画

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するようにならなくてはなりません。「費用」のほかに参加者毎代その他の資料代を頂くことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料(日額50円、夜泊日帰り場合は2日になり100円)を支払って頂きます。(A-I-U保険会社と契約)傷害保険特約内容は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円
日額	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー使用の山行。③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行。④宿泊場所内の事故。(詳細は係まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行申し込み書

山行
期日
住所 〒
電話番号
氏名
会員番号
(会員でない方は会員外と記入)
生年月日
緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

月山と熊野白山

(やや難関向き)

- 期日 11月3日(初)4日(日)
- 集合 京都駅八条口近鉄改札口 付近8時
- コース (3日) 京都駅(バス) 五雲寺(バス) 月山(一) 日越峠(ふれあいの森(バス) 雄見の旅館(山)
- (4日) 旅館(バス) 熊野谷(バス) 登山口(一) 前山 1600m 吊り尾根 熊野 熊野白山(温泉見味(バス) 京都駅(新幹線) 約10000円(バス代・宿泊代・保険代)
- 旅館 雄見「住吉屋旅館」
- 地図 2万5千1根尾・熊野白山
- 係 本嶋 修 ○村田智俊
- 申込み 〒610-0011 茨木市寺田大陣10の10 村田まで 定員25名(会員に限る)
- 秋山を求めて、奥美濃の二山をめざす。熊大沢行
- *マイカーで参加の人は定員外で受け付けます。参加できる地点を記入して申し込み下さい。返信で

山行計画の実施について

当会の山行計画は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに規定通り、往復ハガキで申し込んで下さい。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要がある場合があります。また山ではいかなる事態が発生するかも、必ず緊急連絡先など、山行申し込みハガキに記載すべき事項は必ずご記入下さい。

申し込みの返信は案内の細目が決まり次第、遅くとも10日前までにはします。遅くから申し込みされた方はしばらくお待ち下さい。定員のある計画は先着順に受け付けています。

山行計画欄に記載してあるスケジュールは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提に考えています。

(初級者) なたたでも歩けます

(一般) ハイキングの標準コース(中級) かなり経験のあるコース(やや難関) (健脚) は、危険な所があり、キツイ登りや、下りが長く続くコースと、ご理解下さい。

●山の本近刊紹介

『鈴鹿源流』 辻 京一著 B5判 215頁 山人会 定価1600円

近江・鈴鹿山地の雄大な風景の中に心の源流を探る

滋賀県愛知郡瀬田町下里5 (〒527-01) 山人会 TEL/FAX (0749) 45-2458 振替口座 01060-2-67011

●山の本近刊紹介

『徳島の静かな名峰』 尾野益大 著 新書判 172頁 自費出版 定価1300円

徳島の山62座を紹介

〈申し込み先〉 徳島県住吉5丁目8-75 (〒770) 尾野益大 TEL (0966) 25-7533

到着の時間を案内します。

「紅葉と新雪の妙高火打」
期日 10月27日(日)・29日(月)
2泊3日(車中泊)
コース (7日)夜JR大宮
集合(旅行)大宮
席指定(21時10分
発)・(28日)長野駅
着5時45分のみ
◎妙高原駅着7時
15分(車)遊ヶ峰1高
谷池・火打山・黒天
ヒュッテ(泊)・(29
日)黒沢ヒュッテ
妙高山・湯澤(解散)
費用 約28000円
(JR代+8000円)

期日 11月5日(日) 日帰り
集合 岐阜県取内池山ノ又谷林
コース 登山口・幽玄ノ池ノ夜叉
ヶ池・登山口
費用 保険代50円(交通費各自
地 2万5千・英徳広瀬・美
濃川上・広野
係 ◎鷺見 守成
申込み 7610001城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ンク関西まで
プナ林の紅葉の中、アルベンの
な夜叉塚を池界におさめ、伝説の
夜叉ヶ池を訪ねます。
*交通の便が悪いので、マイカー
参加による個人、グループに限ら
せていただきます。雨天中止

期日 11月19日(日) 日帰り
集合 JR米原駅東口8時40分
コース 米原駅(タクシ)上丹
生浮水場・漆ヶ流・藤鎌
小屋・露仙山三角点・経
家山・行武峠・鹿村橋ヶ
平日本陣ハイク16
鈴鹿・露仙山(中級向き)
期日 11月9日(日) 日帰り
集合 JR米原駅東口8時40分
コース 米原駅(タクシ)上丹
生浮水場・漆ヶ流・藤鎌
小屋・露仙山三角点・経
家山・行武峠・鹿村橋ヶ

期日 11月19日(日) 日帰り
集合 JR山手線駅9時30分
コース 山中溪駅・銀ヶ峰分岐
雲山峠・行者堂一八ヶ谷
駅(解散)
費用 約16000円(交通費)
地 2万5千・岩山・後輪
◎松元一彦 ◎中村 登
申込み 7536大阪府城東区関
目4の14の9の9 松元
まで
定員30名(會員に限る)
雲山峠は皆アルプスの中のビー
クの一つ。頂上直下の展望所から
大阪湾の眺めは素晴らしい。関西
新幹線を地図上で確かめましょう。

指定の地形図とシルバ型コンパス必携。雨天中止

伊勢・朝熊山(一般向き)
期日 11月19日(日) 日帰り
集合 近鉄朝熊駅9時
コース 朝熊駅・朝熊山・内宮
近鉄五十鈴川(解散)
費用 保険代と雑費1000円
地 2万5千・長羽・伊勢
◎尾崎英五 ◎種田逸夫
申込み 75191003鈴鹿市大
久保町20655福玉まで
伊勢の名山に登ります。コース
変更する場合もあり。雨天決行

定員40名(會員に限る)
若月園歌の山々が展望できる。
小雨決行
文学歴史散歩
期日 11月26日(日) 日帰り
集合 近鉄下市駅9時
コース 下市口駅(バス)河川
面不動湖洞窟・かきがね
橋・泉の森・鶴巻池洞窟
母公堂・ところろ水・洞
川温泉(バス)下市口駅
費用 約5000円(近鉄阿倍
野橋駅交差費・保険代・
入浴料)
地 2万5千・河川・登山
係 ◎松永恵一
申込み 712000松原市岡2の2
の22 松永まで
河川自然研究をゆつくり進め、
大群千太郎・河川温泉を学ぶ。遊
過ったり、ノンビリの空をハイキ
ング。雨天決行

期日 11月26日(日) 日帰り
集合 JR加古川駅(新ホーム
8時55分)(8時50分迄)
一足早い忘年会山行
差防山と笠松山(一般向き)
期日 11月26日(日) 日帰り
集合 JR加古川駅(新ホーム
8時55分)(8時50分迄)

期日 12月3日(日) 日帰り
集合 各山頂駅まで見晴可児川
駅9時30分
コース 名鉄可児川駅・大鷲登山
口・鳴吹山・西山保蔵所
石橋登山口・善田野分岐
・龍蔵原山・寂光院・名鉄
大山遊園駅
費用 保険代50円(交通費各自
地 2万5千・英徳広成・小
泉・美濃関・犬山
係 ◎鷺見 守成
申込み 7610001城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ンク関西まで
いずれも関西5000円前後の里
山・パノラマ展望を誇る名鉄の山
鳩吹山から、アンパンマンを飾り

返し尾張の山、龍胆尾山(つがおき心へ約10kmの線走です。雨大中止)

湖南アルプス

期間 ケ岳と愛山(一般向き)
期日 12月10日(日) 日帰り
集合 J R石山駅8時30分
コース 石山駅(バス)上関一世間ヶ岳一海老川原一迎水
動一鈴ヶ山一笠山一アル
プス登山口一田上枝(バ
ス)石山駅(解散)

費用 約3000円(交通費)
地図 2万5千一柳宮・瀬田

係 ◎村山智徳 ◎中西行
申込み 〇長尾裕美 ◎高橋寛
〒610-0011 渡邊市寺
田大群10の10 村田まで
12月1日まで

初冬の湖南アルプスは最も歩きやすい。岩の上からの展望はすばらしい。下山後は三笠生会を兼ねて天神川河原でヤキ肉パーティあり。小雨決行

南鈴鹿・高畑山(中級向き)
期日 12月17日(日) 日帰り
集合 京都駅八条二近鉄改札口
付立7時30分

コース 京都駅(バス)鈴鹿峠一
ナイフブリッジ一高畑山一
坂下峠一参詣橋一太郎ダ
ムキャンプ場(バス)京
都駅(解散)

費用 約4000円(バス代)
地図 昭文社一45御在所・鎌
ヶ岳
係 ◎村山智徳 ◎上村操
申込み 〒610-0011 渡邊市寺
田大群10の10 村田まで
ナイフブリッジはスリルのある
ヤセ尾根です。高畑山の展望は技
味。小雨決行

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 南海琴平駅改札口9時10
分

コース 琴平駅一平井峠一反復坂一
札立山一太郎山一山石山一
井関峠一J R六十谷駅
(解散)

費用 約2000円(大阪から
交通費)
地図 2万5千一淡輪
係 ◎奥村誠治
申込み 〒644 橋本市城山台2
の39の7 奥村まで

鍾木の美しい園境の尾根を楽
走します。大幡山は葛城修験道の
行跡です。小雨決行

水山の峰々談話島

先山と鐘鶴羽山(一般向き)
期日 11月14日(日) 15日(祝)
1泊2日
集合 J R明石駅コンコース10
時10分
コース 〔14日〕明石駅・港(船
岩屋(バス)洲本(バス)
先山一木松(バス)洲
本(バス)黒岩水仙郷・
民宿(泊)
〔15日〕黒岩水仙郷・民
宿一鐘鶴羽山一タム市
(バス)洲本(バス)岩
屋(船)明石港一駅(解
散16時頃)

費用 約16000円(船・バ
ス・宿泊代共)

地図 2万5千一都志・由良
宿泊 民宿 黒岩台・オレンジ荘
係 ◎井上 実 ◎須藤 暢
申込み 〒674 明石市大久保町
高丘3の1の1の20の10
井上まで
定員30名(会費に限る)
11月10日までに

水山の香る一月中旬 鐘鶴羽山
に登ります。山頂の展望は360
度の大パノラマで、奥門のうす湯
まで見えます。雨大決行
*受付後、前泊の予約金(前納)
が一人当たり4000円必要で
す。
*民宿・フェリーなど予約制です
ので期日まで早目に申し込んで下
さい。
*津名港(深日港から大阪湾フェ
リーで)からも合流できます。希
望の人は「津名参加」と明記下さ
い。
*詳細は返信の案内でします。



山行報告

新ハイキングクラブ編

滋賀里から瓜生山

(木曜ハイク12)
7月13日(祝) 晴れ
J R西大津駅より30分 京阪皇子山
駅(電車) 滋賀里駅より50分 百穴
古墳10・02・15一東海自然歩道一
沼原尾根12・05(昼食) 13・00一
大幡山13・35一瓜生山14・53
一15・05一北白川仕伏町15・50
(解散)
百穴古墳 滋賀寺跡 北白川城
跡等の旧垣を訪ねた。尾根の樹林
では野生動物の一群が走りまわ
った。
(参加者) 三浦北幸 芝野泰明
前川敏子 水田明 田中まや子
小川敦子 水田一夫 北尾信彦
南 寛子 西田一夫 尾崎信彦
藤田光彦 高橋元雄 今西光男
小林政明 前田英子 笠田美奈子
小林政明 中村英彦 阪口千鶴子
高野昭一 大崎雅博 長坂新菜
福野昭雄 深坂 克 渡辺昌子
竹内 賢 青木一雄 林 暢子

養谷山(京線北山歩き36)

7月16日(日) 晴れ
京阪出町柳駅バスターミナル8・
30集合一40(バス) 大幡山口10・
06一養谷林道10・10一養谷林道
登り口10・50一藤原峠下11・30一
東峰鉄道12・00(昼食) 13・
00一養谷山西麓三所峠13・15一
豆峠13・40一久多峠14・50一15・
00一徳見口16・00一20(バス)北
大幡駅17・45一出町柳駅18・00
(解散)
養谷山尾根から北麓の展望を楽
しんだ。東峰と三所峠の西麓付近
は深い広葉樹林に包まれている。
(参加者) 寺西 幸 水真真幸
宮本也子 池 知彦 池 真一子
芝野泰明 加藤元雄 紙谷敏子
前田敏雄 横田昌雄 南 寛子
村田英一 前田三三 前田まゆ子
岡本改一 入江政史 比呂裕美
今西光男 伊藤昭史 竹田利夫
渡辺昭雄 川上久隆 北村広幸

三石山

7月30日(日) 晴れ
南海御幸社駅より40集合一杉村公
園9・50一山田分岐口10・00一藤原
下11・30一三石山12・10(昼食)
13・10一林道三叉路13・30一カラ
滝13・40一地方滝14・00一稲見
荘15・00(バス) 15・30(解散)
一
紀原峠16・00
真夏の中、全員元気に歩いた。
先日の夜明け道が荒れていた。下
山後、紀伊豆(笑)入の湯に入
り、汗を流してさっぱりした。
(参加者) 湯浅次男 石田芳弘
前田敏雄 野口 隆 横田昌雄
西田一夫 渡辺昭一 藤原元博
藤原敏子 船越利明 船越とみ子
真田昌子 橋本常雄 木田トミコ
内田基茂 今津百司 阪田忠美子
吉井悦子 松井洋水 平川昌子
星野正立 平敏孝子 四ノ宮蘭子
西沢広一 栗岡亮子 岩本いすゞ

三石山

7月30日(日) 晴れ
南海御幸社駅より40集合一杉村公
園9・50一山田分岐口10・00一藤原
下11・30一三石山12・10(昼食)
13・10一林道三叉路13・30一カラ
滝13・40一地方滝14・00一稲見
荘15・00(バス) 15・30(解散)
一
紀原峠16・00
真夏の中、全員元気に歩いた。
先日の夜明け道が荒れていた。下
山後、紀伊豆(笑)入の湯に入
り、汗を流してさっぱりした。
(参加者) 湯浅次男 石田芳弘
前田敏雄 野口 隆 横田昌雄
西田一夫 渡辺昭一 藤原元博
藤原敏子 船越利明 船越とみ子
真田昌子 橋本常雄 木田トミコ
内田基茂 今津百司 阪田忠美子
吉井悦子 松井洋水 平川昌子
星野正立 平敏孝子 四ノ宮蘭子
西沢広一 栗岡亮子 岩本いすゞ

